



# 第 21 回日本の次世代リーダー養成塾

## 報 告 書

開催日程 2024年7月28日～8月8日



# Index

## Contents

	Page
1. 第21回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2. 主催者からのメッセージ	4
3. 開催概要	5
4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5. 講義概要	9
6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	17
7. 塾を支えるスタッフ	24
8. カリキュラム	36
9. 国際交流キャンプ	51
10. 参画自治体の声	54

### 【資料】

① 塾生アンケート調査結果	58
② 保護者・学校アンケート調査結果	68
③ 塾生概要	73
④ 塾生高校一覧	74
⑤ 社会人アドバイザー・学生リーダー及びスタッフ名簿	75
(巻末) ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様	77

## 1. 第21回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

日本の次世代リーダー養成塾は、一昨年成人式を終え、昨夏第21回目をを行い卒塾生は3555人となりました。ここに、ご協賛いただいている企業、参画地方自治体、社会人や大学生のボランティア、関係者の皆様に篤くお礼を申し上げます。

1期生は40歳間近の年齢となり、昨夏のリーダー塾に中川智博・外務省経済局経済連携課首席事務官が講師として戻ってきました。彼はキャリアの外交官を務める傍ら、首相の英語通訳も務めています。三重県からリーダー塾に参加し、マハティール元マレーシア首相や明石康・元国連事務次長の講義に感銘を受け、一念発起して外交官を目指し見事夢を叶え、イェール大とスタンフォード大双方で修士号を取得。ワシントンの日本大使館で政務担当の外交官を経験し、これまで日米安保、国連・人権外交、中国や台湾経済、国家安全保障政策にも携わってきました。

「自分の人生を振り返ると、怖さを感じながらもステージに立ち続けたことが今の自分に繋がっています。壇上に立つためには最初の一步が最も大切で緊張や不安を乗り越える勇気が必要。そして、多くの人々の支えがあってこそステージに立つことができ、その感謝の気持ちを忘れずに進んでいくことが未来への指針になります」と講義していただきました。目標を定めてそこに向かっていく努力とパッション、そして何より大切な謙虚な姿勢を忘れないことを体現している中川さんの姿に、リーダー塾をやってきてよかったと思いました。

また、卒塾生を代表して同窓会会長を務めていただいている2期の芦川泰彰・(株)ロボカル代表取締役社長は、私が協賛金獲得に苦労していることを知り、「今あるのはリーダー塾に参加したから」と多額の協賛金を申し出ていただきました。彼は慶應義塾高校から慶大経済学部に進み、学生時代から東工大などの仲間たちと起業。その後も数々の企業を立ち上げ、今は、技術系高度人財の不足に着目して、ロボットの技術者を製造業の企業に送り込む「ロボカル」という会社を立ち上げました。彼は20周年記念のリーダー塾で講師も務めていただきました。

このように多くの卒塾生が日本国内のみならず世界中で雄飛しています。来年度も卒塾生が講師として戻ってきてくれることが私たちの励みです。

開塾以来講師を務めていただいているマハティール元マレーシア首相は今年、100歳を迎えます。昨夏のリーダー塾では「激動の時代に次世代リーダーが果たす役割」と題して講義をしていただきました。マハティール氏は「次世代のリーダーに求められるのは法の支配を守り、戦争を犯罪と見なし、平和的な解決を進めることだ」と戦争解決には国際法廷の役割が大きく、各国が決定を順守することが重要であることを強調し、その役割が次世代にあると力説しました。

昨年暮れには、高校生の交換留学団体(公団)AFS日本協会が受託している文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト+」でアジアとG725カ国・地域から日本に留学した高校留学生95人と21回目のリーダー塾から選抜された卒塾生30人による国際交流キャンプが東京で行われ、「グローバル・ハイスクール・サミット」を開き、「命の重さ」について議論しました。アジアの留学生の中には紛争や貧困にあえぐ国の出身者も多く、帰国後厳しい現実が待ち受けています。この国際交流キャンプで紛争が身近にない日本の高校生は世界の現実がいかに不平等かを学び、留学生たちはくじけそうになった時、いつでもSNSで話し合える仲間ができたことに気づき、また、勉学に励み、日本の大学を目指したいという新たな夢に向かってチャレンジしたいとの希望に燃えました。

これからもリーダー塾はどんどん新しいことにチャレンジしていきます。その時代に必要なリーダーが育つように邁進していきます。期間中の塾生担当は「恩返ししたい」と例年、事務局員を志願する大学生の卒塾生が運営していることも嬉しい限りです。どうぞ、今後とも、変わらぬご支援とご指導を何卒よろしく願い申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長 加藤暁子





## 2. 主催者からのメッセージ



### 十倉 雅和 塾長（一般社団法人日本経済団体連合会 会長）

今、世界は行き過ぎた資本主義による格差の拡大、地球温暖化による生態系の破壊、保護主義やポピュリズムの台頭による地政学リスクの高まり、民主主義の危機など、多くの問題が顕在化しています。こうした経済や社会の状況を受け、サステイナブルな資本主義への期待が高まっています。私は、市場経済の中に社会性の視点を入れる「ソーシャル・ポイント・オブ・ビュー」が大切であると考えています。

自国だけで対応することのできない地球温暖化、パンデミックに代表される生態系の破壊、人類が制御できなくなる恐れのある AI などのデジタル技術に対して、今こそ、国際協調が急務です。わが国は自由・民主主義・人権・法の支配といった価値観を共有できる国々との連携がこれまで以上に必要となります。

次世代のリーダーを目指す皆さんには、世界に目を向けて、地球環境問題など地球市民として解決しないとイケない課題に、切磋琢磨をして、高い志を持って、果敢にイノベティブに挑戦をしていただきたいと思います。まずは、塾で大いに学び、仲間と未来を語り、視野を広げ、たくましい若きリーダーとして、将来、世界を舞台に活躍されることを心から願っています。

### 「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（2024年9月1日現在、五十音順）

塾長	十倉 雅和	/	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榊原 英資	/	一般財団法人インド経済研究所理事長
筆頭理事	服部 誠太郎	/	福岡県知事
理事	浅野 史郎	/	土屋総研特別研究員・元宮城県知事
理事 (顧問兼務)	麻生 渡	/	元全国知事会会長・ 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問
理事	石原 進	/	九州旅客鉄道株式会社特別顧問
理事	伊豆 美沙子	/	福岡県宗像市長
理事	岸本 周平	/	和歌山県知事
理事	鈴木 直道	/	北海道知事
理事	鈴木 康友	/	静岡県知事
理事	高橋 温	/	三井住友信託銀行株式会社名誉顧問
理事	滝 久雄	/	株式会社ぐるなび取締役会長・創業者 株式会社NK B取締役会長・創業者
理事	達増 拓也	/	岩手県知事
理事	橋田 紘一	/	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理事	古田 肇	/	岐阜県知事
理事	松尾 新吾	/	九州電力株式会社特別顧問
理事	溝上 泰弘	/	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理事	宮下 宗一郎	/	青森県知事
理事	宗政 寛	/	株式会社サニックス代表取締役社長
理事	山口 祥義	/	佐賀県知事
専務理事 (事務局長兼務)	加藤 暁子		
監事	樋口 和光	/	九州電力株式会社常務執行役員

### 3. 開催概要

#### 1 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：十倉雅和／一般社団法人日本経済団体連合会会長

#### 2 開催日程

2024年7月28日（日）～8月8日（木）

#### 3 開催・宿泊施設

グローバルアリーナ（福岡県宗像市吉留46-1）

佐賀県波戸岬少年自然の家（佐賀県唐津市鎮西町名護屋5581-1）

※波戸岬少年自然の家には8月1日（木）～8月4日（日）の3泊4日で宿泊。

#### 4 塾生

対象：高校生（1年生～3年生） 150名

内 訳	参画自治体推薦枠 (北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、福岡県、 佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市)	120名
	全国からの一般公募枠	30名

#### 5 カリキュラム概要

##### ① 各界を代表する講師陣による講義

###### ● 教養系（哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）

日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。

###### ● ビジネス系（日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）

世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。

###### ● 国際系（国際問題や外交、国連やNGO活動への理解）

世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。

###### ● 人間学（将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）

人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

##### ② 講義後のディスカッション

講義終了後に社会人アドバイザーの指導のもと、1クラス25名によるグループディスカッションを行います。

##### ③ プロジェクト型企画「グローバル・ハイスクール・サミット」

12日間を通して社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「グローバル・ハイスクール・サミット」を開催します。

##### ④ フィールドトリップ

###### ● 佐賀県立名護屋城博物館にて当時の貴重な資料や遺産を見学し、日本列島と朝鮮半島間の歴史を学びます。

###### ● 宗像大社神宝館で世界遺産である沖ノ島で発掘された国宝（8万点の一部）などを見学します。

###### ● 北九州市で株式会社安川電機の工場・みらい館の見学でロボットと人間の共生を、北九州市環境ミュージアムでSDGsについて考えます。

## 4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講義日	お名前 お役職 演題	ページ
7/28 (日)	はっとり せいたろう <b>服部 誠太郎</b> 福岡県知事 「自分の力を信じて未来への扉を開く」	9 ページ
7/29 (月)	さかきばら えいすけ <b>榎原 英資</b> (一財)インド経済研究所理事長、元財務省財務官 「次世代リーダーに求められる資質」	9 ページ
	やまもと たろう <b>山本 太郎</b> 長崎大学名誉教授、佐久市立浅間総合病院医師 「With コロナ～新たな社会の見取り図」	9 ページ
	あしづ たかゆき <b>葦津 敬之</b> 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」	10 ページ
7/30 (火)	かとう あきこ <b>加藤 暁子</b> 日本の次世代リーダー養成専務理事・事務局長、(公財)A F S日本協会理事長 「“Warm Heart Cool Head”で多様性を認める激動の時代を切り拓くリーダーに」	10 ページ
	あかし やすし <b>明石 康</b> 元国連事務次長、(公財)国立京都国際会館理事長 「世界の中の日本—もっと外に開く国に」 “Japan in the World – Towards a More Open, Dynamic Country”	10 ページ
	さくらい りゅうこ <b>櫻井 龍子</b> 元最高裁判事、(一財)日本カメラ財団理事長 「社会のために働くということ—国家公務員や裁判官を経験して」	11 ページ
7/31 (水)	そらの <b>空野 すみれ</b> 国境なき医師団 (MSF: Medecins Sans Frontieres) 日本産婦人科医 「自分の人生の選択を自分自身で決められるように：リプロダクティブヘルス&ライツとは」	11 ページ
	ささき くみこ <b>佐々木 久美子</b> (株)グルーヴノーツ代表取締役会長 「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」	11 ページ
	たき ひさお <b>滝 久雄</b> (株)ぐるなび取締役会長・創業者、(株)N K B取締役会長・創業者 「やらねばならないことは、やりたいことにしよう」	12 ページ
8/1 (木)	おがさわら ひろし <b>小笠原 浩</b> (株)安川電機代表取締役会長 「日本の製造業と産業用ロボット」	12 ページ
	あみおか けんじ <b>網岡 健司</b> 八幡東田まちづくり連絡協議会会長、NPO 法人里山を考える会理事 「世界進化遺産 八幡東田ものがたり」	12 ページ
8/2 (金)	みやざき ひろし <b>宮崎 博司</b> 佐賀県立名護屋城博物館学芸課長 「肥前名護屋城と名護屋城博物館」	13 ページ
	り ぼんう <b>李 鳳宇</b> (株)スモモ代表取締役、日本大学芸術学部客員講師 「映画で日本の将来を考えよう」	13 ページ
	ちん じゅかん <b>沈 壽官</b> 薩摩焼 十五代 「伝統を守り現代を表現する」	13 ページ

8/3 (土)	<small>かさや かずひこ</small> <b>笠谷 和比古</b> 国際日本文化研究センター名誉教授 「映画『オープンハイマー』を観て」	14 ページ
	<small>なかがわ ともひろ</small> <b>中川 智博</b> 外務省経済局経済連携課首席事務官 「壇上に立つ／Step Up To The Plate」	14 ページ
8/4 (日)	<small>やまぐち よしのり</small> <b>山口 祥義</b> 佐賀県知事 「未来につなぐ君たちへ今伝えたいこと」	14 ページ
	<small>こてがわ きょうじ</small> <b>小手川 強二</b> フンドーキン醤油(株)代表取締役社長 「発酵食品が繋ぐ国際化」	15 ページ
8/5 (月)	<small>むらおか こうじ</small> <b>村岡 浩司</b> (株)一平ホールディングス代表取締役社長 「ローカルからの新しい価値を生み出そう」	15 ページ
	<small>さかもと のぶひろ</small> <b>坂本 信博</b> 西日本新聞社報道センター総合デスク 「巨竜に迫った3年間～隣人・中国とどう向き合うか」	15 ページ
8/6 (火)	<small>さばし りょう</small> <b>佐橋 亮</b> 東京大学東洋文化研究所准教授 「世界の人々の平和と繁栄をどうすれば実現できるのか？」	16 ページ
8/7 (水)	<small>みやがわ まきお</small> <b>宮川 眞喜雄</b> 前内閣国家安全保障局国家安全保障参与 「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。  日本のために、そして我々のアジアのために」	16 ページ
	<b>マハティール・ビン・モハマド</b> 元マレーシア首相 「激動の時代に次世代リーダーが果たす役割」 “What Role Should Next Future Leaders Take in Turbulent Era”	16 ページ

第21回 日本の次世代リーダー養成塾 カリキュラム表 (2024年7月28日～8月8日)

日付	日程	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
7/28 (日)	G A										受付	入塾式	服部 誠太郎 福岡県知事	オリエン	夕食	スタッフ紹介・講師紹介 委員会・最終経対質疑説明			
7/29 (月)	G A																		
7/30 (火)	G A																		
7/31 (水)	G A																		
8/1 (木)	G A																		
8/2 (金)	G A																		
8/3 (土)	G A																		
8/4 (日)	G A																		
8/5 (月)	G A																		
8/6 (火)	G A																		
8/7 (水)	G A																		
8/8 (木)	G A																		

## 5. 講義概要

(講義順)



### 服部 誠太郎 福岡県知事 「自分の力を信じて未来への扉を開く」

福岡県知事として水素エネルギーの推進、スタートアップ企業の支援、女性起業家のサポート、ワンドヘルスの推進など、多岐にわたり取り組みを行っているが、これらの分野は単独ではなく、相互に関連し柔軟な発想と広い視野が求められる。水素エネルギーの推進は地域のエネルギー自給自足を促進し、環境負荷の低減にも貢献し、新しいビジネスチャンスが生まれ、地域経済の持続可能な発展が期待できる。スタートアップ企業の支援は新たな技術やサービスが地域のニーズに応える助けとなる。女性起業家のサポートも重要で、女性の視点が新しいイノベーションを生む可能性を秘めている。さらにワンドヘルスの推進により、動物、環境、人間の健康が相互に関連していることを認識し、地域の健康問題に対する総合的なアプローチが可能となる。

これらの取り組みを成功させるには地域の人々の声を聞き、ニーズに寄り添い、そして最も大切なのは自分の力を信じて未来を切り開くことだ。失敗を恐れずに新たな挑戦を続けることで、より良い未来を創造することができる。

#### 講義の感想

- 知事の多角的な分析と政策立案の姿勢に感銘を受けました。また、県の政策が議員だけではなく、一般市民のアイデアも反映されていることを知り、驚きと共に政策立案過程への新たな理解を得ました。
- 「『上の人を通さないと』で潰されるアイデアがないようにしたい」という言葉に感銘を受けた。私自身も、リーダーの立ち位置になる機会があれば、立場や年齢を問わず様々な人の意見をきちんと聞いて、チームにとって最善の選択をしていけるような人間でありたいと感じた。



### 榊原 英資 (一財)インド経済研究所理事長、元財務省財務官 「次世代リーダーに求められる資質」

リーダーに求められる素質は時代によって変わる。戦時中であれば強いリーダーが、平時であれば調整型のリーダーが重宝される。

一方でリーダーに求められる条件には普遍的なものもある。1つ目は明確な指示ができること。間違えた場合は後で修正すれば良いと考え、状況が完全には明らかになっていない場合でも勇気を持って明確に指示すべきだ。2つ目はFollowerを意識することだ。支えてくれる人を意識し、彼らを誘導する必要がある。レイモンド・チャドラーの小説に「強くなければ生きられない、優しくなければ生きていく資格がない」という文言がある。リーダーにも同じことが言える。3つ目は組織として方向性を読み決める能力だ。4つ目は人材を育成する能力だ。組織の持続発展には後進を育成する必要がある。

#### 講義の感想

- リーダーシップには柔軟性が重要であり、間違いを恐れずに学びの機会と捉えるべきだと教えてくださいました。今後、私は「俺について来い」という姿勢を持ち、失敗を恐れずに挑戦し続けたいと思います。
- 間違っても良いから自分の決めた方向を突き通し、フォロワーの誘導を常に考えて明確な指示を出すことが大切とおっしゃっていました。リーダーはまとめ役という印象が強かったが、リーダー自身が意見を出し、それを貫き通すという考え方を聞き、偏っていた自分の考えに新たな視点を見出せとても新鮮に感じました。



### 山本 太郎 長崎大学名誉教授、佐久市立浅間総合病院医師 「With コロナ～新たな社会の見取り図」

大きな社会の中で一人一人の命の大切さの物語をどう考えていくか。ジンバブエに JICA のチーフアドバイザーとして途上国の公衆衛生の改善に医師として携わってきた。任期を切り上げて日本に戻るとき、自分は何か大切なものをアフリカに残したのではないかと考えていた。その思いは京都大学で教えていた時に、もう一度海外で働きたいという思いに変わり、京都で出会ったアメリカ人研究者の『学びは人々の中にある』との言葉からアメリカの大学院で研究を続けることにした。ハーバード大学での研究生生活を過ごし「一人の思いが世界を変える」という思いに感銘を受けた。外務省からハイチ地震の支援派遣を経験し、長崎大学で環境医学や医療生態学や疫病学を専門に名誉教授として研究を続けている。ウイルスというのは宿主を必要としているはずだ。中長期的には宿主と共存を図ると考えている。人はどうウイルスと向き合い、一人一人の命とどう向き合うのかを考えてほしい。

#### 講義の感想

- 若者が自国のために働き循環させて国を成り立たせることが理想だが、その環境が整っていない国があることを知り、先進国のボランティアなどに頼らず自国を成り立たせられる環境を整備することが必要だと感じました。
- 人の生命に携わる先生がおっしゃった「人の命に格差はない」という言葉が印象的でした。また、一人の思いで世界が変わっていくとおっしゃっており、「私が変えてやる」との決意で、命の大切さを広めたいと思いました。



**葦津 敬之** 宗像大社宮司

### 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」

日本神話に登場する日本最古の神社の一つである、宗像大社。宗像の地は日本で初めて海外向けに開国をした土地でもあり、海に馴染みのある土地として栄えてきた。しかし、近年の気候変動の影響により海水温の上昇・磯焼け・漁獲量減・海洋ごみなどの問題を抱えている。そこで、宗像の海を守ることを目的として「宗像国際環境会議」が設立された。

以降、宗像大社は海岸清掃をはじめとする様々な環境保全活動を行っており、それら海の再生への取り組みは世界文化遺産として登録される際にも高く評価された。そのほか、「自然の中に神様がいる」とする自然崇拜の考え方は国際社会に大きな感銘を与え、海洋問題の解決に向けた価値観の転換を牽引している。

#### 講義の感想

- 地球全体の7割を占める海の生態系を壊してしまうと、大きな影響を及ぼすと知り、「海」についての情報は、「陸地」と比べて圧倒的に情報が不足していることから、海の問題は非常に深刻であると分かりました。
- 問題解決のためには、今よりさらに多くの人が現状・課題を知る必要があると思いました。世界に広まる日本文化の独自性に誇りを感じ、日本人が持つ謙虚さや静かな心を大切にしたいと思えます。



**加藤 暁子** 日本の次世代リーダー養成塾専務理事、(公財) AFS 日本協会理事長

### 「Warm Heart Cool Head で多様性を認める激動の時代を切り拓くリーダーに」

混沌とした時代に生き抜く力とは何か。幼少期、ニューオリンズで黒人差別、高校時代の AFS 留学で目の当たりにした貧困街での経験から「生き抜く」ことの大変さを多感な時代に実感した。

2018 年から AFS で日本政府奨学金の高校留学生をアジア約 25 カ国から 5 年間で 1000 人受け入れてきた。日常的に人が殺されたり、留学中にクーデターが起きたり、天変地異が起きるなど死と直面している国からの留学生も多い。次世代のリーダーは、いかなる状況でも常に他者のことを考え、“Warm Heart Cool Head”、温かい心を持ち、冷静な決断ができることが重要だ。有事の時こそ、リーダーとしての資質が問われる。平時のマニュアルは役には立たない。ブレずに「超然」と決断することができるか。次世代にはまず歴史から多くのことを学び、若いうちに留学をして異文化を理解する素養を身に付けてほしい。そして何より明るいリーダーになってほしい。

#### 講義の感想

- 右左にとらわれず右で失敗したら左へ行けば良いとおっしゃっており、とても肩が軽くなり、道が開けました。自分自身を信じて他人にどう思われてもいいと強いマインドを持って加藤先生のようなリーダーになれるよう努めていきたいと思えます。
- 自分にとってプラスの変化が起こせるような環境を見つけたいと思いました。また、Warm Heart Cool Head - 温かい心と冷静に物事を見極める頭脳が必要であるとわかっていても困難なことでありますが、リーダー塾を通して両者を兼ね揃える人を見つけることができたので、彼らを参考にしながら身につけていきたいです。



**明石 康** 元国連事務次長、(公財) 国立京都国際会館理事長

### 「世界の中の日本—もっと外に開く国に」

人口減少、GDP の低迷、大学の国際的評価の低下が続く中、近年では日本人のノーベル賞受賞者も減少している。こうした現状を打破するためには、今こそ情熱を持って努力し続けることが必要である。専門的な知識だけでなく、リベラルアーツを通じて幅広い知識と視野を持つこと、アジアや世界との比較を通して日本の立場を理解することが重要だ。そして国際的な平和を構築するためには、歴史的な背景を知り、敵対国とも積極的に議論し、交渉を重ね、妥協点を探すことが必要不可欠である。英語は国際共通語として多くの国で使われており、正確な発音や文法を身につけることで、世界中の人々と対等に対話し、グローバルな舞台上で活躍するためのツールとなる。国際社会で成功を収めるためには、第二言語の能力が欠かせない。

#### 講義の感想

- 「外国語を話せば世界が広がる」という言葉を聞いて、私も留学した際に現地の方と英語で会話して多くのことを学んだ事を思い出した。自分の英語力をもっと磨いて自分の言葉で多くのバックグラウンドを持っている人とコミュニケーションをはかり多角的な視野を持つ人間になりたい。
- 話すことより理解することが大切で英語だけでなく、いくつかの言語を勉強し、語学と文学を学ぶことが必要だと学びました。世界中の問題に関心を持つことや世界を見る、知ることを意識するべきだと知りました。



**櫻井 龍子** 元最高裁判事、(一財)日本カメラ財団理事長

### 「社会のために働くということー国家公務員や裁判官を経験して」

民間企業が女性をほぼ採用しなかった時代、人を助ける職に就きたいと大学時代は弁護士になるための勉学に励んだ。しかし、司法試験の結果は不合格となり、挫折を経験した。その後国家公務員として旧労働省に入省、2、3年ごとの昇進で様々なポストを経験した。退職後大学教授などを経て2008年に最高裁判事に就任。育児休業法制定のため合意を得るべく個別に経営者を説得するなどした。また非嫡出子の相続問題に尽力、選択的夫婦別姓について現在の法に違憲の判決を出すなど、多くの業績を残した。

司法試験不合格となり国家公務員の道に進んだが、何十年後かに最高裁判官になるという思いがけない機会を得た。裁判官として働き始めた際、大学時代勉強したことがよみがえり、毎日必死に勉強した蓄積は身につに残るのだと感じた。一生懸命に努力をすれば結果が出なくてもそれがなくなるわけではない。旧労働省勤務時代様々なポストに就いた際も苦手な分野や専門ではない分野でも一生懸命に働いた。100%の力を出すことで自分の身になる蓄積ができ、周囲からも評価される。また、常に縦(歴史的視点)と横(国際的視点)の勉強を続けることも必要である。

#### 講義の感想

- 法制度や社会環境が整備され、努力次第で多くの可能性が開かれている現状は、非常に幸せなことだと感じます。私自身も将来、社会問題の解決に貢献できる人間になりたいという強い意志を持つに至りました。
- 誰でも失敗も挫折もする。そこから何を学んで、どう立ち上がるかが次の一步の方向性を決める大切なものになっていると学びました。これから先たくさんのお痛みがあっても良く捉えて切り替え、前進していきます。



**空野 すみれ** 国境なき医師団(MSF: Medecins Sans Frontieres) 日本産婦人科医

### 「自分の人生の選択を自分自身で決められるように」

#### リプロダクティブヘルス&ライツとは」

2023年10月7日、ガザ地区におけるイスラエルからの攻撃が激化した。人、物資が不足しガザ南部に多くの人が避難する中、医療従事者は最後まで残り続け働いている。女性や子どもが毎日ひどい骨折とやけどの状態で作ってくるが、爆撃により病状を説明する家族を失った人も多い。また人道法違反である医療施設への攻撃も行われている。このような状況でも声を上げられないのはガザ地区が現在報道陣も入れないほど危険な状態であるからである。国境なき医師団は数少ない介入をしている団体として証言活動を行っている。

初の派遣先南スーダンでは女性の置かれる難しい現状を知った。子供をたくさん産むことを強いられ、病院における分娩数は日本の倍、自宅分娩も珍しくない。危険な中絶方法、出産後のマラリア感染や栄養失調により命を落とす女性が多い。安全な中絶ケアやアフターピルの価格改正は日本においても必要である。

#### 講義の感想

- 「あした死ぬように今日を生きろ」この言葉が強く心に残っています。自分の生活を振り返ると後悔ばかりの生き方しかしていない、一日という限られた時間を大切にできていない自分に気付きました。
- 先生がおっしゃった『無関心や沈黙は人の命を奪う』という言葉の通り誰もが平等に愛を受け取れる世の中に、私たちが変えていかなければならないと強く感じました。柔軟に学び続ける人間でありたいと思いました。



**佐々木 久美子** (株)グルーヴノーツ取締役会長・創業者

### 「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」

技術の進化は情報伝達や社会全体の構造を大きく変えた。1990年代、インターネットの登場時は一方的な情報の流れだったが、今は個別最適化が進み双方向な情報の流れに推移し、かつ膨大な情報にアクセスできる時代になった。そして生成AIの発展によって虚偽情報も容易に作られるようになり、情報リテラシーがますます重要になっている。

一方で技術は人々の生活を豊かにする力を持つ。例えば携帯での音声ガイドや地図、言語の切り替え、さらには人間の手では難しい手術、遠隔での手術も可能にさせる医療ロボットなどが挙げられる。テクノロジーは正しく使われれば人々の生活を大きく改善するが、使い方を間違えれば危険も伴う。重要なのは技術を盲信せず、常に「どのように使うのか」を考え、AIに使われるのではなくAIを人が使うべき点だ。使わないという選択肢も含めて、疑問を持ちながら技術と向き合うことが不可欠である。

#### 講義の感想

- 「本質だけを残し使わなくなるものは捨てる引き算が大切」という言葉が印象に残りました。これからは足し算と引き算のバランスを重要視しながら物事を進めていきたいです。
- 好きを追求した結果エンジニアとして社会に貢献している佐々木先生の働き方が理想的だと思いました。欧米の方が技術的に進んでいるように感じていましたが、実際は日本の方がAIを受け入れやすいということに驚きました。



**滝 久雄** (株)ぐるなび取締役会長・創業者、(株)NKB取締役会長・創業者

**「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」**

将来、社会のために役に立ちたいと思っている人は多いはず。将来活躍するために親からもらった脳を今のうちにさらに進化させなければならない。脳を進化させるためには日頃から脳を使うことが重要。何事にも好奇心を持ち、脳を進化させ続ける必要がある。将来の人類社会を牽引する学生たちには『リーダー憲法』を意識してほしい。1つ目は最も早く、最もよく行動すること。2つ目は人間と社会を好きになること。3つ目はそれぞれの固有の環境、気候、風土のもとに生まれた文化を尊重すること。

これからは人間らしく生きていくのが難しい時代。全ての問題が解決できると思っはいけない。すぐに解決できない問題は「矛盾箱」にしまって後から見返すと解決する場合がある。変化が激しい時代に求められるのは信念を持った人である。信念を持ち、やらなければならないことをやりたいことにして新しい価値を作る人生を送ってほしい。

**講義の感想**

- 「やらなければならないことはやりたいことにしよう！」という言葉が一番印象に残りました。私は勉強へのモチベーションの維持に苦労していますが、勉強はやりたいことであると思うようにしようと感じました。
- やらなければならないことはやりたいことにするために、志を高く持ち、よりリーダーになるという使命感を持って生きていきたい。リーダー憲法を心に留め、各場面でリーダーシップを発揮していこうと思った。



**小笠原 浩** (株)安川電機代表取締役会長

**「日本の製造業と産業用ロボット」**

安川電機は1915年に創業し炭鉱用モーターの製造や電動駆動システムで高シェアを獲得した。品質に重きを置き、低慣性モーターやメカトロニクスの開発を経て、1977年にはロボット製造を開始した。ロボット事業は成功を収め、安川電機は国内外において強い存在感を示すようになった。今後の時代においては、国際的な視野を持ち、挑戦を続けることが成功の鍵となる。

一方、日本の競争力は1980年代から急激に低下し、2024年6月にはスイスの国際経営開発研究所が発表した「世界競争力ランキング」において67カ国中38位となった。正規・非正規雇用の不均衡、長時間労働の非効率性、労働時間に対する賃金支払いの不合理などがその背景にある。効率的な働き方の推進と、労働の成果に基づく報酬制度の導入が急務とされている。このような状況下においても、諦めずに挑戦を続けることが重要である。運は万人に平等に訪れるものであり、運を掴むためには日々の努力と準備が不可欠である。そのため、様々な事に興味を持ち、アンテナを張り巡らせて、自ら運を掴み取ることが求められる。

**講義の感想**

- 「運も実力のうち」ではなく「運が実力」という言葉が特に印象に残りました。自分や仲間を信じ、ポジティブな発想で運をつかむことを心がけていきたいと思います。
- 日本の会社における労働環境や働く時間など、実際に働いている方の視点から聞くことができ興味深かったです。どんな状況でもポジティブな発想を持って過ごしたいと思いました。



**網岡 健司** 八幡東田まちづくり連絡協議会会長、NPO法人里山を考える会理事

**「世界進化遺産 八幡東田ものがたり」**

明治日本の産業革命遺産は、2015年にユネスコ世界遺産に登録され、ものづくり大国日本となった。そしてそれは東洋の奇跡と呼ばれた。産業革命とは、工場で機械を使って製品を大量に生産するようになったことであり、これによって社会の仕組みや生活が大きく変わった。さらに、北九州・八幡東田の革命は、過去完了ではなく、現在進行形であり、今も世界最先端のものづくりをしている。

東田が環境に配慮した最先端のものづくりに取り組む理由は、そこで起こった公害や環境破壊はその場で解決するべきであるからだ。

また、人生は100年時代であり、今の10代は22世紀をみることになる。そして、世界は、若者の手で変えることができる。高校生だからこそ気がつけること、できることがある。だからこそ、大人に遠慮せず、頼らずあらゆることにどんどんチャレンジしていくべきである。

**講義の感想**

- 市民、政府、企業が一体となり公害による被害から立ち直っていった八幡のお話を聞いて、地球温暖化と向き合い、地域の活性化にも繋がるような持続的なまち、世界を私たちがつくっていくことが大切だと思いました。
- 講義を受けて、世界は私たちの手で変えることができる、高校生だからこそ気づける視点を大切に、大人に遠慮することなくチャレンジしていくことが重要だということを学ぶことができました。



**宮崎 博司** 佐賀県立名護屋城博物館学芸課長  
「肥前名護屋城と名護屋城博物館」

名護屋城博物館の活動の柱は①日本と朝鮮半島の交流史、②名護屋城跡の整備、研究、展示

③日本と韓国の文化交流促進の3つである。特に発掘調査が重要で、名護屋城付近の地面の穴や石の痕跡から今から約430年前の生活様式が観察できる。韓国との文化交流として、若い世代向けの韓国語講座や韓国語でのスピーチコンテストを積極的に開催している。韓国の伝統工芸の展示も行っており、展示を通じた文化交流も実施している。館内には二つの種類の展示があり、一つは企画展示である。

名護屋城屏風、秀吉が出兵に際し使用した黄金の組み立て式の茶室も再現している。二階には城下町の模型も展示している。もう一つは常設展示と呼ばれ、主に名護屋城前後の歴史、日本と朝鮮半島歴史的關係を展示している。博物館の役割は、歴史を語り継ぎ文化財を保護することであり、展示物やワークショップを通じて、文化交流の重要性を伝えている。

**講義の感想**

- 私はもともと歴史についてあまり興味がなかったが、お城の名前の由来やなぜこの場所にできたのかなど、授業では教わらないような内容を知ることができ、歴史が身近に感じ、興味をもつことができました。
- 地元佐賀にある名護屋城がとても深い歴史を持っていたと知ることができて良かったです。名護屋城の存在やその歴史が全国の多くの人にもっと広まって行って欲しいと感じました。



**李 鳳宇** (株)スモモ代表取締役、日本大学芸術学部客員講師  
「映画で日本の将来を考えよう」

映画「ちゃわんやのはなし」では、伝統の継承が大きなテーマとなっている。日本では継承のなり手が減少した結果、老舗を閉じてしまうところも少なくない。日本には100年以上続いた店（老舗）が多いが、近年では老舗が減少し、閉店してしまう店が増加している。コロナ禍でその問題がさらに深刻化した。なぜ老舗が続かないのか、そして残る老舗の特徴を知りたかった。リーダー塾を通して

沈先生(薩摩焼宗家、沈壽官窯の15代目)に出会い、彼の話や思いを伺ったことで彼の映画を制作することを決意した。伝統の継承には、親子間の継承もあれば師弟関係での継承もある。老舗が直面する閉店の危機にどう対処し、どのように持ちこたえるかが重要なポイントだ。老舗が継続するためには、技術を新しい方法に応用することがカギとなる。沈先生もお茶の文化を融合させ、華道や茶道を海外に広めて成功を収めてきた。この映画を通じて、現在の技術や仕事を学び、次世代に受け継いでいくためのヒントになれば嬉しい。

**講義の感想**

- 客観的な視点を持ち、一点突破するような革新・自信を持つことが大事だと学びました。挑戦する際に自信を持つことが苦手なため、小さな積み重ねから自信をつけていこうと思いました。
- 技術の継承の肝は需要が低迷している時にどう持ちこたえるかだ、という話が印象に残りました。技術をいかに広めるかだけでなく、いかに繋げるかも大切だという考えを得ることができました。



**沈 壽官** 薩摩焼十五代  
「伝統を守り現代を表現する」

イタリアでの陶芸学校での留学経験を通じて、韓国人や日本人の枠を超え、人間としての価値を高めることの重要性を実感し、民族的な差別や迷いが消えた。他者の心を理解し、民族や国境を超えて相手の悲しみを汲み取ることが大切である。

教師やマーケター、農家などすべての職業が表現者であり、職業を通じて自分の思いを形にすることが必要だ。仕事の実態を理解し、誠実に向き合い、自分の思いをスキルで表現し、需要や満足を得ることが求められる。生成AIにはない自己の感覚から新しい価値を生み出すことが重要であり、それには内面的な感情や輪郭が必要とされる。デジタル技術が進化する中で、アナログの良さも見直されている。日本の伝統的な建築技術が失われつつある現状、そして日々進む技術革新に対抗するため、ローテク技術の保存と活用が求められる。歴史は繰り返しながらも、同じことは二度と起こらず、変化にどう対応するかが重要である。

**講義の感想**

- 職業人に対する見方、焼き物に対する見方が変わりました。特に、すべての職業人が表現者で、職業は自分を表現するためのツールという言葉に、仕事に対する自分の考え方を問い直すことができました。
- 「人生にはそこに留まって花が咲くのを待つ人生もあり、自分で行動して花を咲かせる人生もある。でも、あなたはどんなところに行っても花を咲かせることができるから、自分の行きたい道を選びなさい。」という言葉が本当に心に強く刻まれ、自分の夢を実現しようと強く思うことができました。



**笠谷 和比古** 国際日本文化研究センター名誉教授  
「映画『オッペンハイマー』を観て」

科学者として物理学の発展を追い求め、核爆弾の作成を進めたオッペンハイマーを非難する意図はない。彼は1人の技術者であり、その活用は政府が決定を下す。技術者としての野心を否定するつもりはないが、正しく歴史を認識することは重要だ。

通常、無条件降伏とは『軍隊の無条件降伏』を指し、国際法によって捕虜の人権が保障されている。しかし第二次世界大戦で日本が求められたのは『国家の無条件降伏』であり、捕虜となった人々が殺されようが日本政府がそれを阻止することはできない内容だった。絶滅戦争を引き起こしうる可能性があった。もちろん、満州や東南アジアへの侵略など日本に非はあるが、戦後、日本はその罪を償ってきた。しかし中立条約の期限内にも関わらず攻撃してきたロシアや国際法を破り民間にまで被害を拡大したアメリカの罪には何の償いもなかった。国連による核兵器廃絶条約の作成が進む中、今後日本は唯一の被爆国として運動の主導権を握って進めていくべきである。

**講義の感想**

- 私たちは、原子爆弾の悲惨さを伝えていくことも大切ですが、戦争のルールなど、国際法の視点からも世界へ訴えていく必要があると学びました。
- 過去から学びを得るということは本当に大切なことであると感じた。現代でも、人間の内面的な問題により多くの人が戦争に巻き込まれ、苦しんでいるという現状を忘れずに過ごしていきたいと思った。



**中川 智博** 外務省経済局経済連携課首席事務官  
「壇上に立つ/Step Up To The Plate」

外相会談をするときは、外交的な背景やニュアンスを細かく伝えるために、通訳は必ず民間ではなく、外務省職員が担当する。日本語を他の言語に翻訳する際は直訳が難しい場合がほとんどであり、相手の文化に寄せて私は通訳している。文脈や総理の性格、人柄を考慮して、伝えたい意図を汲み取って通訳することが重要だ。

自分の人生を振り返ると、怖さを感じながらもステージに立ち続けたことが今の自分に繋がっていると実感している。壇上に立つためには最初の一步が最も大切であり、緊張や不安を乗り越える勇気が必要だと感じている。ステージに登壇するということは、色んな人と関わる中で道を進み、助けられているということだ。多くの人々の支えがあってこそステージに立つことができ、その感謝の気持ちを忘れずに進んでいくことが未来への指針になると考えている。外交官としての仕事に加えて首相の通訳もしている。皆さんには勉強や訓練を極めれば、大きなことを成し遂げられることを知ってもらい、これからの勇気や糧にしてほしい。

**講義の感想**

- 緊張からは学びがあるということが私にとって新しい視点だったため今後も何事にも緊張を恐れず、積極的に挑戦しようと思いました。
- 一言にいろんな意味を込める日本語ならではの大変さや、その国の政治背景など知っておかなければならないことを知ってから改めて考えると、通訳という仕事のどれほどすごいのがわかりました。



**山口 祥義** 佐賀県知事  
「未来につなぐ君たちへ今伝えたいこと」

SAGA アリーナは「従来とは違う多目的な稼げるアリーナ」という目標を掲げ2023年に設立、ドリンクホルダーを全席に置き、スポーツ観戦を勝敗でなく熱狂できるエンターテイメントとしての工夫がされている。日本一人口が均等に分散する佐賀県の特長から設立に踏み切った。

企業と連携した佐賀の地域づくりや子育て支援にも尽力している。2025年にはSnow Peakと協働して広い公園を建設する予定だ。組織をより良くするリーダーになるためには人一倍知識を広げなければならない。リーダーには一つの分野に詳しいより色々な分野を少しずつ知っている鳥瞰力が必要だ。そうすれば組織内の全ての部門に現場意識を持つことができ、組織をより良くすることができる。

人生訓は「迷ったら、やる!」。若いうちの失敗はなんてことないと思い挑戦して、そのうえでベストを尽くすための努力をしてほしい。人は挑戦することで結果はどうであれ成長することができる。

**講義の感想**

- 「現場がわかっているリーダーが一番強い」と聞いて、事前に深く調べることを大切にしていきたいと思った。唯一無二のリーダーになるためには、ある程度の知識を知った上で、自分なりに工夫することが必要だと学んだ。
- 「迷ったら、やる。」という言葉が印象に残っている。私は迷ってすぐに決断できないことが多いため、山口知事の決断力や挑戦心を見習い、これからの人生にも役立てていきたいと思った。



**小手川 強二** フンドーキン醤油(株)代表取締役社長  
**「発酵食品が繋ぐ国際化」**

戦後、食品メーカーは、過剰な利益で経営が疎かになった企業が倒産し、逆に厳しい経営を続けた企業は成長することができた。このように成功とは流動的なものであり、経営難であったフンドーキン醤油も昭和30年代、顧客を一軒一軒、直接訪問することで獲得し、成長を遂げた。

考え方は人それぞれであるため、自分の「正しさ」が他人にとっては正しくないこともある。好き嫌いも同様に個々人に依存する。このような考え方や感情を持つのは避けられないことだが、それらを態度や顔に出さず、客観的な判断をすることが対立を減らすために重要である。これは、戦争を防ぐための考え方でもある。

発酵食品の国際展開には、伝統的な技術の継承と最新技術の活用の両立が重要である。フンドーキン醤油は味噌の成分を変えて味の変化をコンピューターで解析するなど最新技術を積極的に活用している。

**講義の感想**

- 正しいと思うことは人や国によって異なるが、それは損得や好き嫌いとは区別しなければいけないというお話から、自分の意思がどの考えや気持ちから来ているものなのかということを常に把握している必要があると思いました。
- 会社を維持し続けることの大変さを知りました。日本の食料自給率が低下しているという話から、多様性を取り入れることも大事だけど、自国の文化の保護も大切だと思いました。



**村岡 浩司** (株)一平ホールディングス代表取締役社長  
**「ローカルからの新しい価値を生み出そう」**

カフェクリエイター、フードプロデューサー、地域創生プロデューサーなど多くの肩書を持って活動しているが、その根底には「ONE KYUSHU」という一つの標語があり、九州を一つの島と捉えて創生活動に取り組んでいる。人によって“ふつう”は異なり、その違いから生まれる価値観の分断を溶かしていく、超えていくという目標がこの標語には込められている。“ふつう”を考えることで、社会課題が炙り出され、そうした課題にどのようなアプローチを取るべきかが見えてくる。

社会的価値観、“ふつう”は猛烈に変化しており、企業に求められる役割も市場創造から価値創造へと変化しつつある。地域発展につながる共創価値を基盤とした事業コンセプトや地域創生起業が求められる時代が到来している。時代の変化、社会のニーズを掴むことが社会課題を解決する糸口となるはずだ。

**講義の感想**

- 「地球規模の課題などに取り組むことがかっこいいとされ、地域の小さな問題が取り残されている」という言葉にはっとしました。規模の大きな課題について考えるとともに、身近な問題の解決にも取り組んでいきたいです。
- 講義内のおばあちゃん食堂の話にとっても興味を持ちました。料理が好きで得意ということもあり、今後学生団体を作り、高齢者と若者を繋げられるイベントを開催したいと思いました。



**坂本 信博** 西日本新聞社報道センター総合デスク  
**「巨竜に迫った3年間～隣人・中国とどう向き合うか」**

中国は非常に多くの民族で構成され多様な文化を持つ国で貧富の差も様々だ。中国を正しく理解するには共産党、役人、人民を区別する必要がある。中国共産党員は中国の総人口14億人のわずか7%だが、経済が発展してきたために支持率は高い水準を維持している。しかし、現在は経済が停滞しデモが多発しており、中国政府も警察の権限を強める政策を進めている。フェミニズムが台頭しつつあるものの伝統的な儒教の考え方が未だ強く根付いているのが現在の中国情勢だ。

中国では外国人記者に対して警戒心が強く、1年間どのような記事を書いたかによってビザが発行されるか否か決まる。記者という職業には『面白がり力』が必要である。様々なことに興味を向け事実を追い求める。そしてそれを愚直に、ゲリラ的に読者に届けることが重要だ。

**講義の感想**

- 「ドラマや映画を見ているような興味深いお話でした。国を守るための権力の監視、後世に出来事や事件を伝えていく歴史の記録など、記者の仕事の本質を学ぶことができました。
- プロの仕事に対する向き合い方を学びました。そんな命の危険がある中で、中国の真実を伝えるための姿勢を知り、自分もどんな状況下でも自分の仕事や役割を果たせる人間になりたいと思いました。



**佐橋 亮** 東京大学東洋文化研究所准教授

「世界の人々の平和と繁栄をどうすれば実現できるのか？」

世界は現在、いつ戦争が起こるのかわからない状況である。各国が自国の利益を追及し近視眼的になっており、団結して長期的な地球問題を考える余裕はもはやない。冷戦終了後、守られてきた世界の秩序は現在、各国の相互不信によって壊れてきている。ロシアの東方領土への不信から始まったウクライナ侵攻や米中関係、国内における米国への日米安全保障条約に対する不信など、世界の摩擦はすべて国同士の不信からきている。

状況を変え、戦争を防ぐための手段として①軍事力の拡大②外交力の二つが挙げられる。とりわけ外交力で戦争を防ぐ方法を見つけることが求められる。外交は特別な時のみだけでなく、普段からの関係構築が重要だ。

言論の自由や他者の意見を尊重し「皮肉主義」にならない。現状で決まっていた運命と諦めず、最悪な場合を考え悲観的に物事を捉え分析し行動していく力も習得してほしい。

**講義の感想**

- 「多様性を考えすぎると、対立が起こる。」という言葉が印象に残りました。今後多様性について考える機会があると思いますが、他者の意見を尊重することの大切さを理解した上で考え、話し合っていきたいです。
- いつ戦争に巻き込まれるかわからない時代であり、世界平和のために自分は何ができるのか、深く考えたいと感じた。この内容は国際政治学で学べると教えていただき、そちらの学部で学びたいと思うようになった。



**宮川 眞喜雄** 前内閣国家安全保障局国家安全保障参与

「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。」

日本のために、そして我々のアジアのために」

国連安保理は、紛争を平和裡に処理し、戦争を防止する責務を与えられた機関である。しかし、その常任理事国は度々拒否権を投じ、平和の破壊国を庇うことがある。現実の国際紛争の解決には多様な方策を必要とし、国際社会全体の協力が不可欠だ。国家間の紛争の解決制度は国内の紛争処理に比して不完全だ。国際司法裁判所への提訴には当事国の合意がなければ付託し得ない。また判決の順守を強制する執行機関もない。不順守があれば安保理に提訴できるが、安保理が常に機能するとは限らない。国際社会はまだまだ不完全だ。北方領土問題でも竹島問題でも、紛争相手国は同裁判所への提訴に反対だ。領有権問題を国際司法裁判所に委ねるのは容易ではない。

我が国は、国民の安全を確保するため国際機関を活用するとともに、Balance of Power、「力」の均衡による平和の維持にも努力しなければならない。自国の防衛力だけでなく、友好国との集団的自衛力も高め、抑止力を強化し、戦争を防ぐ努力をする責務がある。

**講義の感想**

- お互いに価値観を共有し、粘り強く理解を続けていくことが戦争を起こさないために大事であると学びました。私は将来国際関係の仕事に就いて世界の平和の実現に貢献したいと思うきっかけになりました。
- リーダー像について考えるご講義でした。困難な状況でも前向きに取り組み、チームを引っ張る姿勢が大切だと分かりました。リーダーには、単に指示を出すだけでなく、共に考え、共に成長する姿勢が必要だと感じました。



**マハティール・ビン・モハマド** 元マレーシア首相

「激動の時代に次世代リーダーが果たす役割」

“What Role Should Next Future Leaders Take In Turbulent Era”

次世代のリーダーに求められるのは、法の支配を守り、戦争を犯罪と見なし、平和的解決を促進することだ。これは簡単なことではないが、リーダーが戦争を回避するためにどのように行動するかが国際社会全体の未来を決定づける。リーダーたちは紛争が発生したときこそ冷静さを保ち、対話と法に基づいた解決策を模索する責任がある。国家間の対立を解決するためには交渉や仲裁、国際法廷での公平かつ法に基づいた判決をどの国も受け入れなければならない。これが世界の平和を維持するための鍵となる。戦争を解決手段とすることは過去のものであり、これからの時代において私たちが目指すべきは、法を基盤にした平和的な国際社会の構築である。そのためにはリーダーシップを発揮し、戦争を避けるための具体的な行動が求められている。次世代のリーダーは戦争を防ぐために、あらゆる平和的手段を駆使し、世界の平和と安定を確保する責任を持っている。

**講義の感想**

- 「日本の平和主義を世界は見習うべきだ」というお話を聞いて、マハティール前首相のような偉大な人物に影響を与えられる日本の姿は誇れるものであり、次世代を担う私たちがそれを守っていかないといけないと思いました。
- ASEAN内での問題や、国際裁判所の意義など多くのことについて他国の高校生に分かりやすく伝える姿をみて尊敬しました。世界中で起こる対立の解決のために、なにか自分にできることがないか考えるきっかけとなりました。

## 6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第21回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

### 塾生概要

#### （1）概要

塾生は、負担金をいただいている8道県2市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画自治体推薦枠から120名、全国から選抜する一般公募枠30名を選考して決定した。国内18都道県95校、海外4校（アメリカ・オーストラリア・オーストリア・ドイツ）から参加し、海外の高校に所属している塾生は夏季休暇のため帰国した高校生または海外在住の日本人の高校生であった。

塾生は、25名ごとに6クラスに分かれ、1クラスを前半、後半1名ずつの社会人アドバイザーと2名の学生リーダーで担当していただいた。期間中、体調不良の塾生は、宿泊棟の療養部屋からハイブリッド形式で参加。一部のプログラムは感染対策を徹底した上、対面で参加した。

#### （2）塾生の募集及び選考

塾生は、参画自治体推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、審査を経て塾に参加することができる。参画自治体推薦枠は、各自治体で個別に募集、および選考をしていただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。

今年もHPやSNS（公式Instagramなど）で募集開始のお知らせや卒塾生の声などをアップし、広報・周知を行った。そのほか、卒塾生にも自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やSNSを通じての呼びかけに協力してもらった。毎年塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力を期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。

また、一般公募枠、北海道推薦枠、静岡県枠、福岡県推薦枠、佐賀県枠、宗像市枠の募集はHPで行うインターネット出願を採用した。一般公募枠は4月1日から募集を開始した。

一般公募枠の選考については、一次審査（応募書類及び作文）、二次審査（オンライン面接）がある。

参画自治体推薦枠の選考については、北海道、青森県、静岡県、和歌山県、福岡県、佐賀県、うるま市は一般公募同様に書類審査と面接審査を実施した。その他の参画自治体は書類審査で合格者を決定した。

### 塾生の期間中の様子

#### （1）受講者決定から開塾まで

5月末に審査を通過した合格者が決定し、塾開始前から塾生には事前課題として①グローバル・ハイスクール・サミットの事前リサーチ②合唱「何度でも」「花は咲く」の練習③自己紹介フォームの入力に取り組んでもらった。また、塾初日に自宅から出発する前に新型コロナウイルス・インフルエンザの抗原検査を全員に実施し、陰性を確認した上で、塾に臨みました。



▲入塾式の集合写真

7月28日、福岡県宗像市のグローバルアリーナにて開塾。入塾式では、榊原英資塾長代理が開塾の挨拶をし、来賓の服部誠太郎福岡県知事、伊豆美沙子宗像市長より、激励のお言葉をいただいた。

塾生を代表して 3 名が榊原英資塾長代理に向けて決意表明を行った。初めにオーストリアの Schottengymnasium 2 年の山田華さんが「今回のグローバル・ハイスクール・サミットは外国と関係しているため、私にとってとても興味深いテーマです。100%日本人ですが、育ちが外国なので、もしかするとこの皆さんと違う考えや感覚を持っているかもしれません。それを生かして、色々な角度から今回のテーマと皆で向き合って、ディスカッションをしたいと思っています。」と語りました。



▲入塾式での決意発表

次に、福岡県立城南高等学校 2 年の中山和志さんは、『困難に直面してもめげずに立ち向かう心を育てることを目標にします。スマホに頼らず、自分の頭でしっかり考え、失敗を恐れず行動する。これがあたりまえにできるように習慣化させたいです。そのためにも、これらの貴重な体験は必ず大きな成果を生み出すと信じ、常に自分から学び、アクションを起こし、一分一秒を無駄に過ごすことがないように濃い 12 日間にしていきたいです。』と話しました。

最後に私立盛岡白百合学園高等学校 2 年の浅井理沙さんが、「若い世代が首都圏に流失していることから岩手県全体で人材・後継者不足が問題になっています。工芸品を製作するための後継者が不足しているだけではありません。シャッター商店街は日に日に増え、地元で何か新しいことをしようとしても、人材不足が原因で上手くいかないことがたくさんあります。私はこの地域課題の解決に貢献したいと思っています。リーダー塾を通して、同じ高校生たちが日本や世界の課題についてどう捉え考えているのか知り、ヒントにしたいです。」と地元の岩手県に対する思いを述べました。

## (2) 塾生の様子と特徴

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行して 2 回目の開催となった今年度はコロナ以前の形式での開催を目指した。講義では 5 年ぶりに演台に向かって楕円状に塾生の座席を配置するコロシウム形式で行い、講師と近い距離で臨場感ある場を作った。また、塾生と社会人アドバイザーが中心となり講師のお出迎え、お見送りを行った。塾生たちは目の前の講師に緊張しながらもお茶出しや控室での会話を楽しんでいるようだった。今年度、新たに塾生へのメッセージ色紙を講師の先生方に控室で作成いただき、希望者にプレゼントした。先生方の言葉を胸に今後も頑張りたい。



▲講義の質疑応答の様子

塾前には、有志の合唱実行委員を募り、塾開催前からオンラインでミーティングを重ねるなどして準備を行った。塾期間中も空き時間を見つけては「このプログラムとプログラムの間で練習したい」とカリキュラム表を片手に迫り、実施の許可を求めてきた。より良い合唱を作り上げたい全体の意志が伝わり、少ない時間の中で集中し作り上げる様子は素晴らしかった。



▲講師のお出迎えの様子

リーダー塾では塾生自治を促すため委員会を設置している。しかし、今年は例年自治の範囲できちんとできていた挨拶や講義 5 分前の着席、備品をきちんときれいに戻す、利用時間や消灯時間の厳守などリーダー以前に 1 人の人間としての素質が問われる事柄について、事務局や社会人アドバイザー、学生リーダーといった大人が指摘、指導を行わなければならない事態が多発した。大人の干渉は最低限度のものでありたかった。「なぜそれらを厳守・徹底する必要があるのか」今一度塾生には考えていただきたい。



▲塾生主体の合唱練習の様子

一方、良い面も多々あった。講義の質疑応答では積極的に手を挙げ、講師に自らの意見や疑問を積極的にぶつける様子や講義後も時間の許す限り控室などで講師の先生と会話する様子が見られた。積極的な講義への参加の姿勢は例年以上のものだった。

普段の学校生活とは異なり経験や知識の多い仲間が多い環境であったためか最初は自己主張を抑えた生徒が多かった。しかし次第に勇気を出して意見を発信する生徒が増え、多様な個性を持つ他の生徒との

関わりを深めていった。異なる地域で異なる経験をしてきた人と関わることで、多様性を認識すると同時に自分自身の今までの人生や個性を振り返る機会になったのではないか。今回出会った仲間と切磋琢磨しながら、今後もさまざまな場面で活躍して欲しい。



▲クラスの様子

### (3) 短期間での成長

#### ■卒塾生代表挨拶

最終日に行われた卒塾式では、緊張した様子が見られた入塾式から一変、12日間のプログラムをやり遂げた、堂々とした表情が多く見られた。期間中の成長は卒塾式での代表挨拶に表れている。今年は2名の代表者が、塾を通して学んだことや卒塾後の抱負を声高らかに宣言しました。

#### 【1組】西守 梓さん（私立上智福岡高等学校 3年）

塾生代表挨拶をさせていただき、光栄に思います。12日間、この塾で多くのことを学びながら、とても充実した濃い時間を過ごさせていただきました。私は、このリーダー養成塾を通して感じたことを2つお話しします。



▲代表挨拶をする西守梓さん

1つ目は、今すべきことは何か自分で考えて行動する大切さです。

私は、学級委員を務めていたのですが、クラスをまとめるにあたり、どうすればいいのか迷うことが多々ありました。進行の順序を間違ったり、計画的に進められなかったりしたため、リーダーとしてあるべき姿を何度も考えていました。

その中でもグローバル・ハイスクール・サミットが印象に残っています。私のクラスは、初めは意見があまり出ず、まとまっていなかったのですが、話し合いを重ねる度、全員殻を破って本音で話せるようになっていきました。個性が強く自分の意見を持っている人が多かったため、アイデアがあふれていましたが、全員の意見をまとめ、最高の政策を導き出すことが難しかったです。最終発表では、全員が完全燃焼することを目標に、全力で楽しみながら活動することを心がけていました。しかし、よりよいものを作り上げようと、意見がぶつかって涙を流すこともありましたが、一つの目標に向かって全力で頑張った経験から、クラス一丸となって一つの目標を達成する尊さを感じました。

2つ目は、かけがえない仲間に出会えたことです。スマートフォンがなかったため、友達と話す時間が増え、人と話すという価値を実感しました。また、目標宣言や夢ディスカッションの時間を通して、友達について今まで知らなかったことを知ったことで、より仲が深まり、一生の友達と言えるような関係を築くきっかけになったと感じています。これから出会う人や縁を大切にしながら、ここで出会った仲間の頑張りを原動力に目標に向かって頑張ります。

また、他にも、宗像大社への訪問や、クラス全員でたわいのない話で盛り上がった花火など思い出がたくさんあります。お互いを鼓舞しながら、切磋琢磨できる仲間に出会っただけでなく、一生の思い出に残ることばかりの12日間でした。12日間を通して、次世代のリーダーとはどのようなリーダーか

考えましたが、この塾で過ごした全てのことを振り返り、改めて理想のリーダー像を見つけ、リーダー養成塾の卒塾生と胸をはって言えるように目標に向かって頑張ります。

#### 【4組】下茅 由虹さん（愛媛県立南宇和高等学校2年）

7月28日にこの場所に入塾式を行ってから、毎日が濃厚で、早くも12日間経ったということに驚いています。リーダー塾は、日本全国だけでなく、海外からも人が集まっているということもあり、全員がそれぞれ素晴らしい個性を持っていて、多くの刺激を受けました。自分の夢を叶えるために、目標を持って全力で行動する皆の姿を見て、良きライバルとして多くのことを学びました。



▲代表挨拶をする下茅由虹さん

グローバル・ハイスクール・サミットなどで、考え方が偏った私達に、社会人アドバイザーや学生リーダーの皆さんがくれたアドバイスは新たな気づきをもたらしてくれました。また、地方の高校という狭いコミュニティから来た私は、自分の力量を勘違いしていました。リーダー塾参加前は、なんとかやっていたいだろうと考えていましたが、リーダー塾に参加して、日を重ねるごとに沢山の挫折を味わいました。明石先生の全て英語で行われた講義や、AFSの留学生との交流などで、周りの人は英語を理解している中で、自分は出来ないという現実から敗北感を味わいました。ですがリーダー塾は自分ですら気付いてなかった、心から本気で頑張りたいという気持ちを引きだしてくれました。

今回得た仲間との繋がりや、講師の方々の教を大切に、立派なリーダーとして活躍していきます。これまで支えてくれた家族や友人に感謝するとともに、このような素晴らしい成長の機会を与えていただいたリーダー塾関係者の方々に感謝します。学生リーダーとしてこの場所に戻ってくることを約束します。

#### ■塾での目標と達成したこと、塾を通して成長したこと（主な内容を抜粋）

12日間の目標は「失敗を恐れずにチャレンジすること」と「自分の軸となるものを見つけること」でした。達成感を感じており、普段はできることを限界まで行っていました。できないことにも挑戦する素晴らしさを学びました。自分の軸ははっきりとしたものではなく、ぼんやりとした何かをつかめました。これからもチャレンジを続け、それを鮮明にするために行動していきたいです。

12日間の目標は、「一つの講義で3つの学びを得ること」と「物事の先読み」でした。必ず毎時間毎講義学びを見つけるのはすごく簡単でしたが、それと同時に「私って全く知識がないんだ」と分かってしまったので、もっと勉強しようとモチベーションを上げることができました。また新しい目標が生まれそうです。次に「物事の先読み」についてですが、完全に達成！とまでは行きませんが、今までの私よりも視野が広く、何をやるにもすぐ頭が働くようになったと感じます。

リーダー塾での目標は「視野を広げること」でした。私は12日間でその目標を達成できたと思います。理由は、講義がたくさんあり、一つ一つの講義を拝聴し、今まで自分で気づいていなかった新たな考え、新たな視点に気づかされたからです。自分はまだまだ知らないことが多く、井の中の蛙だったなと思われました。そして、この塾で新たに「英語を好きになること」という目標が見つかりました。私は英語が苦手な子で、留学生の子と関わった時に、何も話せない自分が情けないなと思いました。そのために、もっと勉強して好きになりたいです。

私は「将来の夢を見つける」「視野を広げる」「人脈を広げる」「積極的に行動する」という4つの目標を持ってこのリーダー塾に参加しました。実際に達成出来たのは80%程度だと思います。目標宣言の時にも言いましたが、具体的な将来の夢は見つかりませんでした。しかし、自分は必ずしも理系の仕事がしたいというわけではないということに気づけたこと、理想とする生き方を見つけられたことは成長だと思います。また積極的に行動したつもりでしたが、今考えてみると全く足りていなかったと思います。これは今後の課題として改善していきたいです。

目標を沢山上げていたのですが、その中でも最も大切にしていたのは「考えること、自ら学ぶことをやめない」ということです。この2つは目標達成できたと思います。次に大切にしていたのは「色々な考え方に触れ、知って、考える」ということです。これは私がリーダー塾に来た理由でもあります。これに関しても目標達成できたと思います。この12日間有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

私のリーダー塾での目標は、「自分なりのリーダー像を確立すること」「将来の目標や夢を持つこと」でした。リーダー塾に参加して様々なリーダーと関わることでやはり私は、誰1人残さない広く視野を持てるリーダーになりたいと再認識することができました。塾期間中、上手く立ち振る舞えないこともありましたが、グローバル・ハイスクール・サミットを通して私の目指すリーダー像に少しは近づけたと思います。また、将来の目標や夢については、目標宣言で言ったことを達成できるよう、頑張ろうというモチベーションができて本当に良かったです。

私のリーダー塾での目標は「今の自分の価値観に囚われない考え方を育てる」というものでした。リーダー塾の12日間では、考え方が変わったというよりは考え方を育てるにはどうすればよいかについての考えが深まりました。最終的に思考の方法を自由にするためには考える体力と多くの知識が必要だという結論に至りました。そのために始めの一步としてもっと本を読もうと思います。

#### (4) 塾生の今後の課題

塾を通して多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。今年度の塾生はグローバル・ハイスクール・サミットに真摯に取り組み、講義中の積極的な質問も多かった。自分勝手な行動をする塾生は一人もおらず、日々の生活も互いに協力している姿が多く見られた。しかし、休憩時間と講義のメリハリや時間の厳守など、改善すべき点も多々見られた。

講義が始まる5分前に着席することができず、学生リーダーやスタッフに呼びかけられるという光景が見られた。例年であれば塾が進むにつれ、学級委員を中心に着席を呼びかけるなど自発的に改善していく姿が見られるが、今年度は塾生同士で注意をする場面が少なかった。自分自身はルールを守っていたとしても、集団全体として守っていなければ意味はない。プログラムを自分達で充実させていこうという気概を持って取り組んでほしかった。

消灯時間の厳守についてもスタッフから度々注意されていた。ハードなスケジュールをこなすためにも睡眠時間の確保は重要であるが、消灯時間を過ぎてもおしゃべりをしている塾生が散見された。12日間という短い期間を充実させるために何をすべきかを考えて行動してほしい。

塾生には、この期間中の自分達に何が足りなかったのか、今の課題は何なのかをよく考えてほしい。当たり前のことを大切に、より高みを目指して成長し続けてもらいたい。

### 卒塾後の活動

卒塾後、IN・COM株式会社の大嶽一省様のご厚意で塾生はオリジナルネッピーをデザインし、缶バッジにさせていただくことになった。大嶽様のご厚意に深くお礼申し上げたい。

卒塾後の11月には、塾生、保護者、学校の担任の先生に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただいた。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。(巻末参考資料①～②参照)

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を一部紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりととらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

## 【学生団体・ボランティア】

ボランティア団体を設立しました。
学生団体を立ち上げようと思います。
保育園でのイベント開催、ボランティアへの参加をしました。
外国人のための通訳などを含めたボランティアに参加しています。
リーダー塾に参加した岩手県推薦枠のメンバーで学生団体を立ち上げようと考えています。
学生団体 Get CHANCE 入団し、教育格差の是正を目指して活動を始めました。
福岡県庁マルシェのボランティアに参加しました。

## 【リーダー塾報告会】

私の通っている学校の全校生徒に向けてプレゼンテーションを行いました。
全校生徒に対して、リーダー塾の良さや、リーダー塾で何を学んできたかなどの報告会をしました。
学級のホームルームでクラスメイトたちに対して、講義してくださった方々や自分の学べたこと、自分の印象に残った思い出などを20分ほど発表しました。
私の所属する学校の同じ学年に対してどのような活動をしたか、何を学んだかを報告しました。
文化祭で学校の皆に対して報告会をしました。
昔からお世話になっている保育園や今回の参加へ背中を押していただいた方に報告会を行いました。
学校のホームルームの時間に報告会を開催する予定です。

## 【学校活動】

学校でのディスカッションイベントの定期開催を実現させたいと思い、生徒会選挙に立候補しました。
福岡県で行われる生徒会交流会に参加する予定です。
課外活動の実行委員になって各クラスの意見をまとめました。
自分の通っている高校で、「世界遺産講座」というものを実施しました。
制服検討委員会副委員長として、九州の全日制高校で初めて採用された「標準服制度」のブラッシュアップを行っています。
合同学校探究発表会の学校代表になりました。
生徒会に入り、今後の活動で他校との生徒会の交流をしていく予定です。

## 【その他】

inochi ワカゾウプロジェクトで来年の万博の登壇権を獲得するため、現在選考に参加しています。
和歌山市主催の「ワカモノ会議」に参加しています。
英語スピーチ大会へ応募しました。
ビジネスコンテストに応募する予定です。
トビタテに参加して1年留学に行こうと思っている。
カナダ語学研修に参加し、異文化交流を行いました。
マイプロジェクトアワード長野県サミットに小海線魅力発信会として応募しました。

## 期間中の体調管理

今年は、新型コロナウイルスに限定せず、塾期間中の感染症拡大を防ぐことを目指し、学校保健法に基づいて開催した。昨年の塾での感染拡大の経験を踏まえ、事前の感染症対策や塾中にも必要な対策を行った。塾開催前には文書で塾生や保護者に対して、塾開始の2週間前から感染防止のための適切な行動を自身で考え、実施するよう呼びかけた。塾初日には抗原検査キットを自宅に郵送し、参加者全員の陰性を確認した。



▲看護師によるレクリエーション

塾期間中には感染症対策として①入口に設置したアルコールでのこまめな消毒と手洗い②新型コロナウイルス感染者との濃厚接触を自己申告した塾生は2日間マスクを着用する③新型コロナウイルス感染者の5日間の隔離④毎日の体温観察を徹底した。また、塾2日目には感染症に関するレクリエーションを看護師が行い、塾生に基礎知識を植え付けた。体調不良者や感染者発生時に備え、事前に療養部屋等を用意した。移動日には、療養者用のバスを用意し、看護師同伴のもと移動した。

塾期間中は、新型コロナウイルスに塾生10名が感染した。なお、スタッフの感染は誰もいなかった。また、新型コロナウイルス以外の感染症は確認されなかった。

また今年の猛暑では、熱中症対策を徹底した。水分補給の徹底や室内の空調管理、屋外プログラムの際には、塩分タブレットやスポーツドリンクの配布など例年以上に徹底して行った。しかし、体調の自己管理不足によって体調を崩す塾生も一定数おり、熱中症などで3回救急車出動があった。消灯時間を守ることや食事をしっかり食べるなど、自らできる体調管理を各自で徹底してもらいたい。

### 【対策に関する保護者のご意見】

看護師が常駐していることや感染症対策など十分に配慮していただいたと思う。
実際心配はしましたが十分対策はされていたと思うので、この開催方法で良いのではないかなと思う。
出発日の検査や感染してもオンラインで参加できること、保険証のコピーを持参し、受診できる体制であることなどがあり、安心して送り出すことができました。
きちんと検査をした上での参加であることや、感染が起きたときの対応など、しっかり考えられていたと思いました。
対策をしてもコロナが発生してしまったが、いたしかたないと思った。
症状はありませんでしたが、参加日の朝に検査をした時には、親子でドキドキしました。みなさんが安心して参加をできるため、必要なステップだと思いますし、私たちも安心して送り出すことができました。
熱が出てしまいましたが、看護師さんが密に連絡をしてくださり病院にも連れて行ってくれ精神的にも心強かったです。
対策がしっかりとられていて、安心でした。始まる前の検査等の仕組みも事務局から送られてきた動画で確認できたので、安心しました。
コロナの疑いがあって、数日リモート参加だったようだが、本人にはそれも体験で良かったと思う。
ちょうど塾の前にコロナにかかってしまいご心配をかけましたが、無事参加できて良かったです。今となってはそんなに恐れる病気ではなくなりましたが、インフルエンザと同様に、ある程度の制約は仕方がないと思います。
通常に戻して良いと思う。
直前に簡易検査はしたが、同じグループに感染者がいたそうなので、集合時にもう一度簡易検査をすることも必要かも知れません。

## 7. 塾を支えるスタッフ

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に、学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらうためである。1クラスを前半7日間、後半6日間1名ずつ受け持っていた。例年、協賛企業などが派遣してくださっている。今年はそれに加えて、社会で活躍されている卒塾生や有志の社会人の方にもご参加いただき、「社会人アドバイザー」としてクラス担任の他にも短期でのお手伝いや裏方としてのサポートをしていただいた。



▲社会人アドバイザーと塾生の集合写真

20代～50代までの年齢も職種も多種多様な総勢19名の社会人の方々に、合宿形式で指導していただくことに加えて、療養中の塾生にはオンライン形式でも指導していただき、塾運営を支えていただいた。社会人アドバイザーは、日々の講義や議論、ディスカッションの指導だけでなく、塾生の人生相談など様々な相談にも親身に乘っていただいている塾の要の存在である。

クラス運営を支える学生リーダーは、主に卒塾生からなる大学生・大学院生が参加している。各クラス2名と総括3名の計15名の学生リーダーを配置した。高校生である塾生にとって、年齢も近く、すぐ先のロールモデルとして身近な存在である。黙々と業務をこなす学生リーダーに、塾生は尊敬と憧れの気持ちを持っていた。学生リーダーは塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在でもある。



▲ハイブリッド形式での事前研修

今年も塾開始前から社会人アドバイザー・学生リーダーには多くのサポートをいただいた。例年、福岡で行う事前研修も、今年はスタッフのアクセスを考慮して東京で開催し、海外や九州在住のスタッフはオンラインでハイブリッド形式での研修を実施した。また塾開催前から自主的にクラス運営について社会人アドバイザーと学生リーダーでオンラインミーティングを積極的に企画し、塾生の指導方針などを共有してくださった。

塾本番でも、療養者へのハイブリッド配信や食事の準備、レイアウトの設営、合宿生活での感染対策の指導など多くの場面で献身的にご協力いただいた。塾を支えてくださった皆さまには、改めて深く御礼申し上げたい。

安全な塾開催のため、事務局に旅行添乗などの経験が豊富な大家美希さんと、看護師として昨年からの感染対策などを監修いただいている藤谷拓也さんをアドバイザーに迎えた。大家さんには、講師の交通手配、アテンド、生活面のサポートなど重要な業務を、藤谷さんには、感染対策の監修、体調不良者の統括や生活面のサポートをしていただいた。

また、看護師の派遣会社に依頼し、看護師として右山綾子さんに全日程、上善裕子さんに8日間、吉田宏美さんに5日間常駐していただき、常時2名の体制をとった。体調不良の塾生の対応、コロナ感染者へのきめ細かい対応やサポート、塾生のメンタルケアも含めての相談など多岐にわたる業務を快く遂行していただき、塾運営に欠かせない存在であった。



▲看護師ミーティングの様子

グローバルアリーナ職員の皆様には、塾開始前から打ち合わせや手配、体調不良者の食事の手配など塾の継続へ全面的なバックアップをしていただいた。

その他、講師の送迎や現地での準備などのお手伝いをしてくださった福岡県の皆様、物品の貸し出しや機材の設営などをサポートしてくださった宗像市の皆様、今年開催のためにご協力をいただいたその他の参画自治体の皆様、すべての関係者の皆様に心から感謝したい。

## ■社会人アドバイザーとのエピソード

クラスの担任ではありますが、学問を教えていただく先生という立場とは少し異なる社会人アドバイザー。渾名を勧められたため、壁を作らず、すぐに親しくなれたと思います。社会人として、大人として注意をいただくことは何度かありました。社会人アドバイザーの方は優しい言葉で包んでくださるため素直に耳を傾けることができました。グローバル・ハイスクール・サミットについて助言をもらうことも多かったです。「今どういう話をしているのか」「どういった点で悩んでいるのか」積極的に社会人アドバイザーの方からコミュニケーションを取ってくださったので、全面的に協力してくださっていると感じました。時には厳しい言い方で、本当にはいけないこと、しなくてはならないことを、メリハリをつけてよく指導していただきました。

前半を担当してくださった社会人アドバイザーの方は、優しく、熱心に指導して下さり本当に良い方でした。私たちにに向けてアドバイスをくださる度にクラスがまとまり、次に進もうという気持ちになることができました。社会人アドバイザーの方とお話する中で、何事もやってみることが大切だと気づくことができ、失敗を恐れてはいけないのだと感じました。後半を担当してくださった社会人アドバイザーの方は、私たちが後ろから見てくださって、客観的なアドバイスをくださり、グローバル・ハイスクール・サミットをうまく進めていくことが出来ました。この2人の社会人アドバイザーの方が担当して下さり本当に良かったです。

前半の社会人アドバイザーの方からは私が学級委員として成長するためのアドバイスをしていただきました。自分で自分に満足できていませんでしたが、社会人アドバイザーの方が寄り添って、背中を押してくださったおかげで1歩踏み出すことができました。後半の社会人アドバイザーの方には様々な場面でクラス全体への助言をいただきました。特にグローバル・ハイスクール・サミットでは、話がまとまらず停滞してしまったときに話し合い方から内容までポイントを的確に、私たちが成長できるように伝えてくださりました。

社会人アドバイザーの方に言われた別れの言葉が一番印象に残っています。「葬式に何人来てくれるのかではなく、死ぬ時に何人会えるか。死ぬ時に会いたいので、ぜひ会いましょう。」と仰ってくださった時、本当に心が揺さぶられました。後半の社会人アドバイザーの方は私たちがグローバル・ハイスクール・サミットで行き詰まっている際に重要なことを教えてくださりました。「まず、日本のことを知っている？大きな課題を解決する前に、まずは知らなきゃ」とおっしゃられていて、グローバル・ハイスクール・サミット後もそれぞれが社会人アドバイザーの方に相談しているところが印象的でした。

前半の社会人アドバイザーの方は私の人生を大きく変えてくださりました。自分で立てた目標を必ず達成している姿は私にはとても輝いて見えました。社会科の教師を志したこともありましたが、難しいと言われて諦めていた私に、社会人アドバイザーの方は何度も「全ては自分が源。100%自分思考でいい」とおっしゃってくださり、彼のような先生になりたいと憧れを抱きました。そしてずっと問いかけ続けてくださり、ナイスリーダーという言葉をごさって本当にありがとうございました。後半の社会人アドバイザーの方は出願書類も見てくださっていて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。「沈むけれどその分高く飛べる。」という言葉はこれからも私の支えになると思います。お二方とも私の人生を変えるきっかけをくださりありがとうございました。

私たちはグローバル・ハイスクール・サミットに取り組むうえで、行き詰まってしまい今何をすればいいのか、どういう方向性で動いていくのが良いのか、そして意見が割れた際にどのくらいの着地点をつくるかということなどで前半・後半両方の社会人アドバイザーの方からアドバイスをいただきました。あくまで考えるのは私たち次世代のリーダーであり、能動的に私たちが答えを見つける必要があります。社会人アドバイザーの方々は解答を用意するのではなく、アドバイスという形で私たちにヒントをくださりました。そのおかげで私たちは自分たちの力で納得のいく答えを出すことができました。

前半の社会人アドバイザーの方とのお別れの日が印象に残っています。寂しかったですし、リーダー塾が半分終わってしまったことに気付かされた瞬間でした。お別れした後に社会人アドバイザーの方から応援の動画が届きました。クラスみんなが喜び、モチベーションの向上にも繋がりました。後半の社会人アドバイザーの方にも、同様に多くのことを教えていただきました。1番嬉しかったことは僕のところに来て褒めてくださったことです。「声が大きくなった」、「自分から中心に立つようになった」などの変化に気がついてくださり、「いつも頑張っている」などシンプルな、でも心が温まるような励ましの言葉をかけてくださりました。

## ■学生リーダーとのエピソード

1番お世話になった学生リーダーの方には海外進学についてたくさん相談にのってもらいました。なぜ海外の大学に進学したのか、どのように調べたのか、奨学金の話、国選びの話など自分が気になっていたけれどインターネットでは得られない実際のお話を聞くことができました。食事の時に隣に座って様々な話をした後、後で一緒に調べてみようと言ってもらった時はどうしてこんなに親切なのだろうという気持ちになりました。学生リーダーの方との話で得た情報を生かして海外進学の夢を叶えたいです。

宗像大社の見学の際、自分のクラスの学生リーダーの方と話しました。それまでは名前にちゃん付けで呼んでいたのですが、「みんなと同じように友達のように接してね」といううれしい言葉をかけて下さったので、周りの友達と話し合っただけで呼ぶことにしました。彼女は組全体が間違っただけに進んでいるときに私たちを導いてくださりました。また、いつも私たちに寄り添ってくださりました。大好きです。

あまり積極的に話しかけることはできませんでしたが、たくさんのアドバイスをもらえたことが印象に残っています。人前で話す時の魅力的な話し方や話し合いの進め方など、とても2、3歳違いとは思えないようなしっかりとした考えを持っていることに驚くと同時に憧れを持ちました。また、自分自身のレベルを上げて、いつか学生リーダーの方々とグローバル・ハイスクール・サミットのような話し合いを一緒にするということが直近の目標になりました。

先生のように一方的に教えるわけでもなければ家族のように身内というわけでもない立場の学生リーダーはリーダー塾のなかでは最も近い関係だったと思います。時に友人のように一緒に笑ったり、時に先生のように厳格に指導して下さり、時に家族のように悩みを聞いてくださったりと様々な方向から関わるがありました。少し年が離れていますが同世代です。私たち塾生が一方的に頼るのではなく、共に頑張ろうという意識に変わり、より楽しい時間が過ごせました。

私のクラスの学生リーダーはグローバル・ハイスクール・サミットの時に日本の政治の仕組みを交えてアドバイスをくれました。今の選挙のことや政治のことをたくさん聞いたのが楽しかったです。「走り続けなくていい、走り始め続ければいい」と書いてくれた言葉がずっと心に残っています。副担当の学生リーダーはいつも優しく、塾期間中の心のオアシスでした。大変だったよねと気にかけてくれて嬉しかったです。

クラス関係なくたくさんの学生リーダーとお話する機会がありました。グローバル・ハイスクール・サミットの発表で1位をとったあとに感想や改善点などを聞きに行った際もものすごく親身に聞いてくださりました。圧倒的1位になれなかった足りない点やもっと伸ばしたほうがいいところまで教えてくださって最終発表の準備に参考になる意見が多くて思い出に残っています。

私には見たこともない景色をたくさん見ている学生リーダーと関わることは毎回とっても新鮮で最高に楽しかったです。特に印象深いのは、朝若干体調が悪くベンチに座っていたとき、学生リーダーの方が話しかけに来てくれたことです。何気ない話が出来たのが自分の精神的にもすごく救われました。彼女は海外に沢山行って、海外留学に気持ちが揺らぎ始めていた私にとって「行きたい」と本格的に思うようになったのもこの時間のお陰です。本当にありがとうございました！

私は卒塾式の後、関わった多くの学生リーダーのみなさんがファイルにメッセージを書いてくださったことが印象に残っています。自分のことをこんなふうに見てくれていたのだとか、たくさんの温かい励ましの言葉を書いていただいて、勇気づけられるメッセージが集まったファイルになりました。塾中もずっと暖かく優しく見守ってくださって、時に楽しくお話しできてとても嬉しかったです。

## ■事務局とのエピソード

事務局の方や看護師さんたちは自分たちが楽しく安全にリーダー塾を終えられるように徹底的に指導とサポートをしてくださいました。感染症対策のため何度も口酸っぱく消毒などを呼びかけていただいたおかげで少人数のコロナ感染で済み、本当に感謝しかないと思っています。私たちが有意義なリーダー塾にできるようにプログラムを組んでくれていると知った時は、期待に応えてもっと頑張らないといけないと思い、死ぬ気で頑張りました。

語りかけてくれる言葉がいつも心に響きました。誰のおかげで自分が今ここにいられるのか、こんな素晴らしい経験をすることができているのか、誰が何をしてくれているから、こういうことができるのか、この塾に来て何を学びたかったのか、目標に向かって自分は今努力できているのかなど、自分自身を見つめ直し、周りを見渡す機会をたくさん与えてくださったことに感謝したいです。

学級委員の力不足で施設やリーダー塾に迷惑をかけた時に全力で私たちに話をしてくれて、正しい振り舞い方を学ばせてくれて、容赦することなく指導していただきました。これがあったからこそ私たちは12日間で成長することができたし、充実した塾生活を送ることができたと思います。普段の優しさ・面白さと、時に見せる厳しさを兼ね備えている人が、フォロワーをつけることができる人なのだと感じました。事務局が私たちに与えたのは、形のない「人間性」だったと思います。

最初事務局の方にフルネームで名前を言われた時、全員の名前を覚えている?!とびっくりした記憶があります。子どもを預かるということはそれだけ責任があることで、日々ボランティアなどで子どもと関わっている、大きな愛情と優しさを持っている彼だからこそできる努力なのだと思います。彼は誰がなんと言おうとみんなの憧れの存在です。私が教育学部に入って自信を持って子どもに教育ができるようになったら、彼の立ち上げたボランティア団体に入って学びの場を広げられるように活動をしたいです!また、もう一人の事務局の方を初めて見た時には大きい声でご飯なくなるぞ!!と言っていてすごく怖そうなお人だと思いました。でも実はシャイで面白くて明るくてたくさんの努力を重ねてきた人だと分かりました。私たちにまっすぐ向き合ってくれてどうすれば私たちが成長できるかを考え続けてくれていたのだと思うと感謝でいっぱいです。お二人にはたくさん心を鬼にさせてしまったと思います。それでも何度も何度も私たちを信じて期待して待っていてくれてありがとうございました。必ず大きくなって帰ってきます。

私はグローバル・ハイスクール・サミットが行き詰まったある日の武道場で事務局やその他スタッフの皆さんが「最後まで塾生のために頑張らしましょう」と円陣を組んでいらっしゃる所を見て、思わず号泣してしまいました。頭では分かっていたのですが、厳しい言葉を掛けていただくことも全て私達の成長に対する期待の表れだと改めて実感できました。寝る間を惜しんで塾生のために身を粉にして下っている皆さんの姿に、私自身もすごく勇気づけられました。

## ■看護師さんとのエピソード

看護師さんには本当にお世話になりました。母のように見守ってくださり、顔を見るたびに安心しました。正直、部屋の子と合わなくて逃げ出したい時もありましたが、たまに来てくれる看護師さんの姿を見られることが私にとって精神を安定させていました。ありがとうございます。

私たちが12日間を走りきることができるように常に熱中症対策や感染防止対策をして頂き、そのおかげで体調管理をしっかりすることができました。また、私たちが成長出来るように毎晩私たちのために沢山の事を考えてくれたり配慮してくれたりしてくださっていたことを知った時は嬉しさが込み上げてきました。講義の間の休み時間や講義中も走って仕事をしてくださっていた姿を本当に尊敬しています。ありがとうございました。

看護師さんにはとても感謝しています。熱が出てしまい1日療養することになったとき、いつも寄り添ってくれた学生リーダーや社会人アドバイザーの方がおらず具合も悪かったため心配事や不安がありました。しかし看護師さんのおかげで不安がなく療養を終えることができました。佐賀に行っても体調管理のアドバイスをくださったり、会った際も私の体調を気にかけてくれたりしました。看護師さんのお陰で元気に帰ることができ嬉しく思います。サポートありがとうございました。

# 社会人アドバイザー

## (1) 概要

社会人アドバイザーは、協賛企業のリーダー格社員や活躍されているリーダー塾の卒塾生、有志の社会人の方に担っていただき、安心して塾生をお任せしている。今年の企業・機関は、下記の通りです。

### ■社会人アドバイザーの企業・機関（五十音順）

麻生塾 人事グループ	INTLOOP 株式会社	岩手県教育委員会事務局	エコー電子工業株式会社
株式会社 QTnet	株式会社 GOAL-B	株式会社正興電機製作所	株式会社西部技研
株式会社パラドックス	株式会社 BS 朝日	株式会社ふくや	株式会社ミズ
九州電力株式会社	ともしびマルシェ株式会社	長瀬産業株式会社	福岡県春日市役所

社会人アドバイザーの方には1クラス25名の塾生を担当していただく「クラス担当」とクラスにはつかず、塾運営全体を短期で裏方としてお支えいただいた「統括担当」に分かれ、ご尽力いただいた。

6月中旬の事前研修では、事務局よりリーダー塾の特徴や社会人アドバイザーの役割をお伝えしていた。また、塾生自身に主体的に考えさせるよう指導していただきたいという方針を伝え、各人の社会人経験をもとにクラス運営や塾生と接していただくようお願いした。塾生にとっては、保護者や学校の先生以外の大人から指導を受ける機会はない。一人一人に向き合い、我が子のように塾生を思い、時には厳しく熱心にご指導いただいた。また自主的に自作の振り返りシートを作成し、塾生の成長のために、プログラムの合間や夜遅くまでメッセージやコメントを書いてくださった。社会人アドバイザーの方の姿を見て、ロールモデルとして目標にしたいという塾生も多かったようだ。経験や知識に基づく言葉から、塾生たちは多くのことを学んでいた。また、塾生だけでなく学生リーダーにも日々寄り添い、的確な助言をいただいた。

体調不良の塾生は療養部屋と現地をハイブリットで繋いだ。オンライン参加の塾生がいる中での指導は対面と異なり、難しさもある中で柔軟に独自の指導を取り入れながらご対応いただいた。試行錯誤をしながら塾生とコミュニケーションをとってくださった。

また、統括担当の方には塾生の指導以外にも日々必要となる送迎やトラブル対応など臨機応変な業務を快く遂行していただき、塾生の見えないところで縁の下の力持ちとして大変ご尽力いただいた。

卒塾後もクラスで集まったり、塾生の進路相談にのってくださったりと、社会人アドバイザーの方と塾生の間で交流が続いている。今回の塾を実りあるものにしてくださった立役者である社会人アドバイザーは、なくてはならない大きな存在だ。

社会人アドバイザーの感想は、次ページの通り。



▲審査員を務める社会人アドバイザー



▲ディスカッションを見守る



▲お別れ HR の様子



▲学生リーダーから感謝状を贈呈

## (2) 社会人アドバイザーの感想

### ■社会人アドバイザーからみた塾生の感想

<p>私自身が17年前の卒塾生ということもあり、当時の自分自身や同期を思い出しながら塾生と接していたが、当時と変わらず意欲的な塾生が多いと感じた。講義やディスカッション、クラスでの活動など、多くの塾生が積極的な参加態度を示していた。一方で、まさに現代社会を生きる高校生だなと感じる部分も多くあり、言葉遣いや個々の自己表現においては、幼さが残っていたり配慮が足りていなかったりする様子も見受けられた。厳しい暑さの中での活動もあったため体調不良者も多数出ていたが、身体面・精神面共に、自己管理については今後の人生の中で成長して行ってほしいところがあった。プラス面、マイナス面の両方はあったが、総じて真面目な塾生が多く、自身の過去の経験やイメージを踏まえても大きなギャップを感じるころはそれほど無かった。</p>
<p>講義後の質疑応答など積極的かつ好奇心旺盛な塾生が多い印象でした。考え方や生活態度については、まだまだ高校生だなと思うところもありましたが、アドバイスや注意されたことはしっかり受け止め改善しようという姿勢が見られて良かったと思います。</p>
<p>メンタル面での体調不良が多かった。前半は慣れない環境下での生活で体調を崩すことはあると思うが、後半でもメンタルによるものが多く、クラスづくりをするうえで欠ける人がいることに少し難しさを感じた。通路ですれ違った際などの挨拶が少なく感じた。全体的にスタッフと塾生の熱量の差が顕著であり、自分自身の力不足でもあるが、塾生に響くまで時間がかかった。</p>
<p>塾全体で見た時にやや体調不良者が多いように感じました。塾生の人柄に感しては、協調性があり前へ前へというよりフォローができる人が多いと感じました。一方で、強く引っ張っていくようなリーダーシップや塾全体を牽引していくような塾生がやや少ないように感じました。思考に対しては、細部を話す塾生が多いような印象で「そもそも」「なぜ」のような why の思考が伸び代だと感じました。</p>

### ■社会人アドバイザーの指導方針、クラス運営

<p>ほぼ毎日個人面談をやっていました。参加する前に頂いていた事前課題を全員分チェックし、話してみたい生徒を何人かピックアップしていました。後半は生徒から相談を受けることが増えていったので、1人1人の不安や迷い等をしっかりヒアリングし、自分ができるアドバイスをしました。</p>
<p>クラス討議なども塾生にやりたいことを考えてもらって実施してもらい、気付いたことは指摘しました。塾生も今何をしたらいいのか、クラスの課題を自分たちで考えることができていました。他のクラスが行っていましたが、塾生の負荷にならない範囲で簡単な交換日記みたいなものを取り入れるのも良かったなと思いました。</p>
<p>独自に行ったことは特になし。グローバル・ハイスクール・サミットを抜きにしたクラスでの時間確保が難しい。塾終盤になるとどうしてもグローバル・ハイスクール・サミットに力が入ってしまうため、その前に自由に使えるHRがもう少しあるといいかもしれない。</p>
<p>私はスタッフミーティングの時間と重複したため参加できず、担当の学生リーダーにその場を託したが、クラスでフルーツバスケットをしたことで塾生同士の仲が非常に深まったと聞いている。2日目のホームルームで各自の自己紹介はしたものの、なかなかクラス内の仲が深まっていなかったため、レクでその距離が縮んだことは非常に良かった。極力早めに、ホームルームなどの時間を使ってレクなどを催すことで、その後のグローバル・ハイスクール・サミットなどクラスでの取り組みへの参加度、温度感も変わってくると思うので、2日目の夜までにそういう時間を取れたら12日間のうちの残り10日をより一層充実したものにできるのではと感じた。</p>

## ■社会人アドバイザーを務めた感想

11年ぶりに帰ってきて、リーダー塾の熱量は改めてすごいと感じました。その上、生徒たちの可能性って無限大だと肌で感じ、自分自身も人生どう生きるか考えさせられる良いきっかけができました。このつながりを大切に精進していきます。

自身の志やビジョンに立ち返ることができる良い機会でした。特に印象的だったのは、卒塾前夜の合唱練習中、うちのクラスの塾生が卒塾生代表の挨拶を考えている時でした。もう1人のクラスメイトと挨拶を考えていましたが、合唱を聴きながら涙を流していた彼女は、塾に対して妥協なく全力で向き合い続けたからこそ感じたものが多かったと思います。

学生のみならず、学生リーダーのモチベーションの高さに感化された。卒塾後も暫くは、リーダー養成塾の高いテンションで仕事ができる。「ちゃわんやのはなし」からの李鳳宇さん、沈壽官さんの話は印象に残った。

私はリーダー塾に私の経験が少しでもみんなのヒントになればと思い参加しているが、リーダー塾に参加することで気づきや学び、刺激や元気を塾生、学生リーダー、社会人アドバイザーからいただいている。感謝である。合わせて、体力的にはハードであるが、心のリフレッシュになっている。今年久しぶりに復活した味噌汁コンテストは、体験型学習で五感を使い、また役割（料理担当、プレゼン担当）もあるのでチームの一体感も生まれ、塾生の息抜きにもなって良かった。学生リーダーのキャリア教育は塾生にはとても参考になると思う。もっといろいろな学生リーダーの話を知りたいと思う。

塾生とは17歳以上、学生リーダーとも一回りほど年齢が離れている中で、一人の大人としてクラスの中で彼らとどのように向き合っていくのか、正直不安が大きかったが、優秀で真面目な塾生が多く、その不安が早々に払拭されて1週間を過ごすことができた。社会人として普段から会社の中で部下や後輩と接しているが、新入社員やかなり若い世代に対しては、どのように接していいか悩ましい部分もあったため、今回クラス担当の社会人アドバイザーとして個々の塾生と向き合うことは私自身の経験を深めるものとなった。塾生に対しても同様だが、今の若い世代に対しては「距離感」の絶妙なバランスが重要だと感じた。親身になって関わりすぎることも決して彼らのためではなく、突き放し過ぎることも良くない。彼らをそっと見守りつつも、気づきを与えられるようなちょっとしたアドバイスをしたり、考えていることを整理させたり、適度な距離感をもって接することがより関係を深めることになると思う。また、改めて私が関わった1週間のプログラムを振り返ると、安川電機の見学や佐賀でのフィールドワークは、非常に暑い中ではあったが塾生と直接関わる機会にもなるため特に印象的だった。講義を受けることももちろん大切だが、今後も体験型の学びは大切にしていってほしいと感じた。

改めて今年もお世話になりました、ありがとうございます。我が子が塾生と同じ年になり、初めて「パパ感」があると言われたのが思い出深いです。グローバル・ハイスクール・サミットの過程でみんなが泣きながら身の上話をしていた時間（なぜそうなったかは中座していて知る由もないですが）がリーダー塾の本質だと改めて思いました。今までは「教える」雰囲気が強かったですが「見守る」とか「導く」感じは強くなったかもしれません。

12日間という短い期間での塾生の成長度に驚かされることはもちろん、リーダー塾という環境があることへの有難みを改めて感じた。県のリーダー塾への参画について、できる限りことをしたいと思う。

## ■社会人アドバイザーに対する塾生の感想

学校の先生と違い、友達のような近い距離感で接することができました。心の距離感が近いので気軽に話しかけることができ良かったです。グローバル・ハイスクール・サミットで困った時にはすごく真剣に一生懸命考えてくれた姿が印象的でした。

「自分がこれからどんな人間になろうか」という想像や夢を広げてくれる存在だった。様々な業界で活躍されている方々から、生き方を教えていただいた。社会人アドバイザーの方との別れの時間や、最後に頂いたメッセージが心に残っている。最後のかけてくださった言葉が私の背中を押してくれた。

学校の先生とは違う視点をもっており、事業の話や苦手なことは無理にやらなくてもいいとおっしゃっていた点が違うと思った。話合いが行き詰まっている時などにたくさんのアドバイスをしてくれた点がよか

った。後半の社会人アドバイザーの方がお風呂のあとにクラス全員にアイスを差し入れてくださり、みんなと写真を撮ったり、喋りながら食べたことが印象に残っている。

学校の先生は、マニュアルがあって、規則通りに動く感じであるが、社会人アドバイザーは私を見てくれるし、学校の先生だと世間体や周りの目を気にして言ってくれないことも言ってくれる。思い出に残っていることは、社会人アドバイザーの方から最終日にいただいた「愛は伝えるものだ！」という言葉！この言葉が私の今の原動力になっています。

社会人アドバイザーは人生の先生です。一人ひとりに向き合い、学校では教えてくれないことを教えてくれます。印象に残っているエピソードは沢山ありますが、色々あって集合時間を守らなかった時に一緒に謝ってくれた優しさと、優勝した時に私達のように喜んでくれた嬉しさ、私達のために頑張ってくれた感謝の気持ちはずっと忘れなと思います。

学校の先生より生徒に対して親身で、経験が豊富だからこそより自身に対して軸があるなど感じた。クラスの社会人アドバイザーの方ではなく全く接点がなかったのに、急に声掛けても明るく対応して下さったことがとても嬉しかった。

社会人アドバイザーの方はどんなに些細なことでも親身に話を聞いて下さり、とても大きな存在でした。学校との先生とはまた違う距離で接して下さりとても嬉しかったです。私たちへ将来のアドバイスを教えて下さったのが1番印象に残っています。

学校の先生よりも過ごした時間は短いはずですが、とても親しみを持って話すことができ、また自身の経験を踏まえて様々なアドバイスをしてくださいました。1番印象に残ったことはグローバル・ハイスクール・サミットで直接的なアドバイスではなく、間接的な後押しや相談にのって下さったことです。

私たちと一緒に頑張ってください点が社会人アドバイザーの良かった点です。学校の先生は見届けてくれますが、社会人アドバイザーと一緒に土台で共に試行錯誤しました。グローバル・ハイスクール・サミットでは私たちのために怒ってくれたり、多くの言葉を掛けたりして心はどうにかして響かせようとしてくれました。

### (3) 評価点、課題

社会人アドバイザーの皆様には、塾生の成長と塾全体の運営において非常に重要な役割を果たしていただいた。塾生一人ひとりに寄り添い、指導や助言を行っていただいたことで、塾生にとっての良きロールモデルとなり、多くの塾生がアドバイザーの背中を追いかけたいと感じる存在であった。塾生の自主性を尊重したクラス運営や主体的なディスカッションを促す取り組みにも事務局の趣旨を理解し、ご協力いただいた。

学生リーダーとの連携、絆も強固であった。クラス運営や塾生についての考えを共有し、塾生のために自主企画の振り返りシートなどで悩みに耳を傾け、必要な助言を行っていただきました。

また、送迎やトラブル対応といった運営面でのサポートから、体調不良者へのハイブリッド対応に至るまで、さまざまな場面で迅速かつ的確に行動していただきました。

塾後も塾生との交流を続け、進路相談に応じるなど、長期的な関わりを持つ姿勢は、塾生にとって人生の指針を得る貴重な機会となっています。

総じて、社会人アドバイザーの皆様の活動は、リーダー塾の成功に欠かせないものであり、その情熱と献身に深く感謝いたします。皆様のご尽力に敬意を表し、これからの活躍にも期待を寄せています。

## 学生リーダー

### (1) 概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。クラス担当の社会人アドバイザーや事務局と塾生の橋渡し役となりクラス運営をサポートする「クラス担当」とクラスの副担当としてクラス運営を行いながら事務局の業務や撮影、ハイブリッドの配信などを行う「全体統括」、学生リーダー経験者として事務局に近い立場で塾生や学生リーダーを指揮する「総括担当」の3つの役割がある。今年度は全国から15名の大学生が集まった。関東在住の10名の学生リーダーにはアルバイトのお手伝いとして塾開始前から運営に携わっていただいた。

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に配信したニュースレターに加え、卒塾生交流SNS、InstagramやFacebook等のSNSで行った。学生リーダーは大学2年生以上の大学生および大学院生を対象としている。選考は4月に一次選考として書類審査、5月に二次選考としてオンライン面接を行った。今年度は、例年以上のご応募をいただいた。お忙しい中応募していただいた全ての卒塾生に感謝申し上げたい。

試験や授業の都合がついた学生リーダーには塾開始2日前からグローバルアリーナに入ってもらい、機材の設置や塾初日の準備、講義会場や宿舎の設営などの準備にご協力いただいた。また、6月中旬に行われた事前研修以外にも事務局や総括担当の学生リーダーを中心にオンラインミーティングを行い、業務の説明や経験談を共有した。

また、プログラムで使用する机の設置や荷物の運搬など、体力がいる業務も多くあった。学生リーダーには塾開始前から塾後まで、塾生への生活指導、事務局の手が届かない細やかな作業、専門分野を活かした自発的なワークショップの実施、力作業、書類整理などを支えてもらい、精神的にも体力的にも運営になくなくてはならない存在であった。

塾終了後も、学生リーダー主催の進路相談会やクラスでのオンライン同窓会を実施するなど、塾生との交流は長く続いているようだ。学生リーダーの献身的な協力が心から感謝申し上げたい。

### ■学生リーダーの所属校（卒塾期順）

学校	学年	卒塾期	担当
慶應義塾大学	4年	14期	クラス
Sussex University	4年	14期	クラス
滋賀大学	4年	16期	クラス
静岡大学	3年	16期	クラス
早稲田大学	4年	16期	クラス
東京大学	4年	16期	クラス
明治大学	3年	16期	全体統括
北九州市立大学	4年	16期	総括
叡啓大学	3年	18期	全体統括
Denison University	2年	18期	全体統括
上智大学	2年	18期	全体統括
上智大学	3年	18期	総括
中央大学	3年	18期	総括
明治大学	2年	—	全体統括
慶應義塾大学	2年	—	全体統括



▲学生リーダーの集合写真



▲学生リーダーの業務の様子



▲学生リーダーと塾生の様子

## (2) 役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、次の4点を重視している。

- ① 塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること
- ② スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること
- ③ 塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと
- ④ 主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動すること

事務局をサポートするため、全ての学生リーダーが自発的に行動し、塾運営における中核を担ってくださった。クラスでは担任の社会人アドバイザーの方と話し合いながら、ホームルームの運営やグローバル・ハイスクール・サミットでの指導を行なっていただいた。プログラムだけでなく、食事の時間や自由時間なども含めて期間中のすべての時間を塾生のために捧げてくださった。学生リーダーの言葉だけでなく姿勢そのものが塾生の模範となり、塾生の成長の一助となっていた。

クラス担当の学生リーダーは塾生と接する機会が多い分、常に塾生の精神的・身体的な健康面を気遣い、行動していただいた。全体統括担当の学生リーダーはクラス担当を補佐する傍ら、体調不良の塾生のフォローや講義運営のサポートも主体的にしてくださった。総括担当の学生リーダーは塾が始まる前からグローバル・ハイスクール・サミットや学生リーダー全体の取りまとめをしていただいた。塾期間中も経験者として他の学生リーダーの相談役になるなど事務局の手の届かないところまでサポートしてくださった。

グローバル・ハイスクール・サミットでは当初の予定を変更する場面が多かったが、各学生リーダーは柔軟に対応し、運営側の意図を塾生に工夫しながら伝えてくださった。それだけでなく、各々が塾生の成長のためにどのようなグローバル・ハイスクール・サミットにすれば良いのかを考え、アイデアを事務局に伝えてくださることもあった。

加えて学生リーダー間でのチームワークも当初から素晴らしかった。クラス間で情報や課題の共有が頻繁に行われ、そこで得た知見を塾生に還元していただいた。今年度は大学2年生から大学院1年生と幅広い年齢層であったが、年齢差を気にすることなく学生リーダー間のコミュニケーションを取ってくださった。このような姿は塾生が年の違う高校生と活動する上で参考になったのではないかと。

## (3) 学生リーダー感想

### ■学生リーダーから見た塾生の感想

クラスの時間が少ない中、グローバル・ハイスクール・サミットに塾生がしっかりと向き合っていた姿が印象的でした。表立つリーダーこそ少数派でしたが、塾生全体として、お互いを助け合って、リスペクトし合える性格を持っていた子が多かった印象です。塾中もお互い切磋琢磨してクラスとして、塾生全体としての連帯感も日々出来てきていたのが良かった点だと思います。今後改善して欲しい点としては、就寝時間の徹底です。特に女子は、就寝時間が守れていない日がほとんどでした。リーダー格の子が就寝時間を過ぎてもおしゃべりや荷物整理する事で、全体として時間にルーズになってしまった印象です。身体が弱い子や繊細な子は特にしっかりと睡眠を取って欲しいので徹底出来れば良いと思います。また、委員会での連絡事項が上手く共有されておらず混乱する場面もありました。特に、朝早すぎる時間から洗濯を始める子も居たので、時間管理に関する連絡はしっかり出来たら良いのではと思いました。

全体として素直な高校生達だった。スタッフのアドバイスを吸収して成長しようとする姿勢を常に感じる事ができた。一方で、熱意ややる気に関して感情表現が少ないと感じることがよくあった。彼らなりにやる気はあったと理解しているが、それを表現して周囲を巻き込むような生徒は極めて少なく、生徒間での注意や声かけを躊躇している生徒が多い印象だった。リーダー気質の（もしくはそれを演じる）生徒が少ないと感じた。

昨年も学生リーダーとして参加させていただきましたが、今年は例年に比べ塾生の主体性があまり見られなかったと感じました。塾中に話したように、コロナ禍の教育課程を経てリーダー塾に参加している高校生にとって対面でコミュニケーションが難しいことを考慮すると、多くの場面で躊躇する節が見受けられたかと思います。これは運営の立場である私たちも事前に考慮すべき点であったと感じます。オンライン上でのコミュニケーションだけでなく、相手の目を見て発言できる勇気を持ち、成長してほしいと思います。よかった点としては各クラスの仲の良さが目立っていました。私自身クラスを受け持っていないためクラス内の揉め事などをすべては把握できていませんが、全体的に塾生同士の関係が良好であったと感じました。

うまく自分を表現できずに悩んでいる学生が多く、それを元に軋轢やぶつかりが起きたが、そこから乗り越えたときにみんなで成長できた部分が多くあったと思う。

## ■学生リーダーの感想

講義やグローバル・ハイスクール・サミットに集中して取り組んでいたところが良かったと思う。特に講義では、しっかりメモを取って話を自分の中に落とし込んでから質問している子が多かった。個人的には、リーダー塾の期間を通して自分の弱みや苦手としっかり向き合った子が多かった点も良かったと思う。一方で、忘れ物をする子が多かった。また、一つのことに集中すると周りが見えなくなる子が多かったように感じた。例えばグローバル・ハイスクール・サミットの議論に夢中になっていて話し合いに参加できていない子への配慮が不十分だったりした。

クラスの塾生は一人一人思いやりがあるなど感じました。ディスカッションや生活をしている中で誰かを傷つける発言などはなく、相手のことを考えながら行動している姿が印象深く残っています。また、責任感が強い塾生だと思いました。その一方、ディスカッションの前半では、なかなか思い切った発言が見られず、着火剤になってくれるような役割がなかったため、よく見ればまとまっていたなど感じますが、相手を思うことと同時に物事を批判的に見る力も養い、これから色々なことにチャレンジしていただけたら個人的に幸せだなと思いました。

塾前半は表面上の話し合いになっていたと感じました。また、ディスカッションの話の進め方が時間配分などを含めあまり上手に行っていないように感じました。その背景としてはそもそもお互いのことがまだ分からない状態であったので、グローバル・ハイスクール・サミットの前にHRの時間をもう少し長く設け少し話しやすい雰囲気になったら改善されるのかなと思いました。後半になるにつれて、試行錯誤した結果、3回目の発表に向けてディスカッションをする際には、クリティカルな発言なども出ており、クラス全体がひとつにまとまってきたのを感じました。12日間を通してみんながかなり成長できたのではないかと感じます。

担当クラスでは、話し合いの場で積極的に発言できる子とそうでない子とに二極化していて、クラスとしての意見や話し合いの方向性がなかなか一つに定まらず、共通認識が取れていない状態が長く続いた。発表を重ねるにつれ自分たちの課題が見えてきて改善されたのでよかった。

やる気があり熱心に取り組むクラスもあれば、やる気のある子とない子の差が大きかった印象のクラスもありました。留学生への対応も英語のできる子だけがコミュニケーションをとっている様子で、後半まではクラス全体的に上手に進められていない印象でした。療養者が最初に出た際はその子を気遣ってオンライン上でもきちんと内容を共有していたクラスと、オンラインで繋げてはいるものの完全に取り残してしまっているクラスと、レベル的にはバラバラの様子でした。全クラス、後半の挫折やバーンアウトを乗り越えて、最終発表やマハティール元首相への発表まで熱心に取り組んでいた様子でした。備品に関して備品の扱い方をもう少し説明もしくは注意喚起するべきだと感じました。本来各クラスのボックスに入っているはずの機材が返却時になくなっていたり、時間までに返却しなかったり、充電したいからそのまま教室に置いてきたとクラスなどもあり、トラブルがかなり多かったと思います。

## ■学生リーダーに対する塾生の感想

クラスメイトに一番寄り添ってくれ、ときには笑わせてくれ、厳しく指導してくださって、心の支えになった。話し合いの様子を遠くから見てくれて、時々アドバイスをしてくれたときは、特にがんばりたいという気持ちになった。

本当の兄さん、姉さんみたいでした。自分が毎度話しかけても嫌な顔ひとつせず親身に相談を聞いてくれました。塾期間中本当に心の支えになりました。印象に残ったのは、塾期間中の何気ない会話です。学生リーダーの経験談など色々聞けて面白かったです。

とても話やすく頼りになりました。でも最終的に考えるところは自分たちに考えさせてくださって良かったです。私が荷物をグローバルアリーナに置いてきてしまって絶望していた時に、他の部屋にないか部屋を一緒に回ってくださったり、力強いアドバイスを送ってくださったりしてくれてとても嬉しかったです。

年齢も近く、リーダーシップのある憧れの先輩のような印象でした。悩んでいる子には寄り添って話を聞いてくださったり、時には厳しい意見もいってくださったり学生リーダーの皆様は常に活動の支えのような存在でした。学生リーダーの方の大学受験、大学でのエピソードについてのお話が1番印象に残っています。

とても頼れる仲間のような存在だったと感じる。何か物事が上手くいっていない時は相談をし、自分たちにとってとても良いアドバイスをくれたし、ご飯中には世間話で盛り上がり、先輩というよりかは仲間のような存在だった。

距離が近く、普段は先輩のような感覚でしたが、グローバル・ハイスクール・サミットで的確なアドバイスをくれたり色々な指示をくれたり叱ってくれたので、友達のようにもあり先生に近い役割でもあるように思いました。

学生リーダーは話やすくてもなんでも相談できる、一緒にいてとても安心することが出来る存在でした。最後のホームルームの時、クラスみんなのいい所を付箋に書いて渡し合おうと提案してくれて、それがとても良い思い出になりました。

アドバイスもしてくれましたが、印象はずっと見守ってくれていたという方が強いです。最後にメッセージカードをもらったのですが、とても嬉しい言葉を書いてくれていてとても自信がついたし嬉しかったです。

いつも私たちが客観的に見て下さり、私たちに直接的に答えを教えるではなく、後ろから見ていてそのまま感じたことを優しく助言して下さり、クラスに大切な存在でした。クラスで話し合い中に揉めた時にたくさんアドバイスをくださったときが印象に残っています。

## 8. カリキュラム

### (1) 日本や世界で活躍する一流の講師による講義と初めての講師陣

リーダー塾は、日本や世界を代表する学者、経済人ら各界を代表する一流の講師による講義が大きな特徴となっている。今年は24人の方々に講師をお願いした。

初めての講師として、櫻井龍子・元最高裁判事、坂本信博・西日本新聞社報道センター総合デスク、空野すみれ国境なき医師団日本（産婦人科医）をお迎えした。

櫻井龍子先生は旧労働省に入省後、育児休業法制定に奔走し、合意を得るために個別に経営者を説得することや、男性が育児休業を取得できる道も切り拓いた。最高裁判事として選択的夫婦別姓の判決で女性の社会進出が進み、姓の変更は個人の識別に困難を生じさせている現状は、憲法24条2項（個人の）尊厳と両性の本質的平等に反することなどから違憲であるとの反対意見を付した。櫻井先生は講義の中で「人を助けたいと大学時代に弁護士を目指したが、司法試験で不合格となり、挫折を経験した。しかし、何十年後に最高裁判事となり、大学時代勉強したことがよみがえり、毎日必死に勉強した蓄積は身につく残るのだと感じた。100%の力を出すことで自分の身になる蓄積ができ、周囲からも評価される。常に縦（歴史的視点）と横（国際的視点）の勉強を続けることも必要である」と自身の体験から塾生を激励していただいた。



▲櫻井龍子先生の講義の様子

坂本先生には「巨竜に向かった3年間～隣人・中国とどう向き合うか」と題して講義をしていただいた。3年間にわたる北京特派員として取材した生々しい体験を話していただいた。「中国は非常に多くの民族で構成され多様な文化を持つ国で貧富の差も様々。中国を正しく理解するには共産党、役人、人民を区別する必要がある。中国共産党員は中国の総人口14億人のわずか7%だが、経済が発展してきたために支持率は高い水準を維持している。現在は経済が停滞しデモが多発して、中国政府も警察の権限を強める政策を進めている」。そして「記者としての職業には『面白がり力』が必要である。様々なことに興味を向け事実を追い求める。そしてそれを愚直に、ゲリラ的に読者に届けることが重要だ」とジャーナリストとしての矜持を話していただいた。



▲坂本信博先生の講義の様子

空野すみれ先生は、「自分の人生の選択を自分自身で決められるように：プロダクティブヘルス&ライツとは」と題して講義。「人、物資が不足しているパレスチナ・ガザ南部には多くの人が避難する中、医療従事者は最後まで残り続け、働いている。人道法違反である医療施設への攻撃も行われている。現在報道陣も入れないほど危険な状態であり、国境なき医師団は数少ない介入をしている団体として、証言活動を行っている」とパレスチナの問題に加え、自身が南スーダンで産婦人科医として活動を行った時に女性が置かれた状況が大変厳しかったことを赤裸々に語っていただいた。



▲空野すみれ先生の講義の様子

今年は、塾期間中かけて塾生が討議する「グローバル・ハイスクール・サミット」では、「地球市民の皆さんへ～多様性社会を実現するには～」と題して、本格的な高齢化社会を迎える中で、外国人を受け入れるためにどうしたらいいのかを議論した。

そこで、国連、外交官、NGO 団体の代表、国際関係論の学者、歴史家、知事、起業家ら幅広い分野で活躍されている専門家から、多様性を受け入れることの重要性、国際人にはどうやったらなれるのかなど講義の中で取り上げていただいた。

## (2) マレーシアのマハティール元首相によるオンライン講義

2004年の開塾以来、マレーシアのマハティール元首相にはコロナ禍の2年間を除いて福岡にいらしていただき、講師を務めていただいた。2024年もいらしていただく予定だったが、コロナに感染されたため、オンラインで「激動の時代に次世代リーダーが果たす役割」と題して、講義をしていただいた。

マハティール先生は「次世代のリーダーに求められるのは、法の支配を守り、戦争を犯罪と見なし、平和的解決を促進することだ。リーダーが戦争を回避するためにどのように行動するかが国際社会全体の未来を決定づける。リーダーたちは紛争が発生したときこそ冷静さを保ち、対話と法に基づいた解決策を模索する責任がある。国家間の対立を解決するためには交渉や仲裁、国際法廷での公平かつ法に基づいた判決をどの国も受け入れなければならない。戦争を解決手段とすることは過去のものであり、これからの時代において私たちが目指すべきは、法を基盤にした平和的な国際社会の構築である。次世代のリーダーは戦争を防ぐために、あらゆる平和的手段を駆使し、世界の平和と安定を確保する責任を持っている」と語っていただいた。

マハティール先生は、二度の首相時代からイスラム教のリーダーとして一貫して戦争に反対し、ブッシュ元アメリカ大統領、ブレア元イギリス首相ら世界のリーダーに戦争をやめるように首脳会談の時だけでなく、手紙を何度も送り続けてきた。一方、これまで広島や長崎の平和祈念式典にも参列。首相を引退した後に妻のシティ・ハスマ氏と戦争を犯罪にする NGO を設立。長崎被災協会会長だった谷口稜暉氏とリーダー塾の卒塾生をマレーシアに招聘したこともある。

とりわけ今回はイスラエルによるパレスチナ爆撃、ウクライナでの戦争など世界各地での戦争を憂慮して、第二次世界大戦で日本占領下の経験のある99歳のマハティール先生は、次世代に戦争をなくすための処方箋に熱弁を奮っていただいた。

## (3) 卒塾生の講師

今回は第1回の卒塾生である中川智博・外務省経済局経済連携課首席事務官に講師を務めていただいた。中川先生はマハティール元マレーシア首相や明石康・元国連事務次長の講義に感銘を受け、日本と世界を繋ぐ役割を果たしたいと慶應義塾大学文学部から外交官を目指す。そして、国家1種試験に合格し、外務省に入省。Yale 大学院、Stanford 大学院両方で修士号を取得。外務省では、ワシントン DC の日本大使館で政務担当の駆け出し外交官を経験し、日米安保、国連・人権外交、中国や台湾経済、国家安全保障政策にも携わってきた。現在、石破首相の英語通訳を務めている。

中川先生は「自分の人生を振り返ると、怖さを感じながらもステージに立ち続けたことが今の自分に繋がっている。壇上に立つためには最初の一步が最も大切で緊張や不安を乗り越える勇気が必要。ステージに登壇するとは、色んな人と関わり助けられているということだ。多くの人々の支えがあってこそステージに立つことができ、その感謝の気持ちを忘れずに進んでいくことが未来への指針になる」と塾生に対して、今のリーダーに欠けている目標に向かっていくパッションと、謙虚な姿勢を忘れないことを語っていただいた。卒塾生は3555人。ようやく各界の中堅クラスに成長している。今後もロールモデルとなる卒塾生を講師に迎えたい。



▲マハティール先生の講義の様子



▲塾生とマハティール先生の集合写真



▲卒塾生の中川智博先生

## (4) グローバル・ハイスクール・サミット

「地球市民の皆さんへ～真の多様性社会を実現するには～」



### 概要

リーダー塾では、毎年、特定の課題に対して、政策を打ち出すプロジェクトを実施している。その中で今年は「グローバル・ハイスクール・サミット」と題し、国際的な問題を対象に取り組むこととした。このプロジェクトは、正解がない課題に挑戦することで、近い将来、一人ひとりがリーダーとなった際、解決することが難しい課題に対し、率先して取り組める能力を高校生のうちから養うことを目的としている。

昨今の日本では、出生率の低下、労働人口の減少、そして本格的な高齢化社会が進んでいる。この危機的状況を打開する政策の一つとして「外国人」の受け入れ拡大が議論されているが、今日の日本社会には「外国人」は無論、そのような社会の波に伴う「多様性」を受け入れられる意識、土壌は整っているのだろうか。「国際情勢」に目を向けると、緊迫していた火種は各地で戦火に変容し、社会の分断は未だかつてないほどに加速している。国の違い、宗教の違い、政治的思想の違い、ジェンダーの違いといった「違い」を互いに理解し合い、共生することができたら、世界平和も御伽話ではなくなるのではないか。こうした、昨今の情勢を熟慮し、これからの未来を創造していく高校生には、「今」、真剣に思索すべき問題としてテーマ「地球市民の皆さんへ～真の多様性社会を実現するには～」を掲げた。

「多様性」という言葉自体、一つの限られた定義を持たない上に、「多様性社会を実現するには」という問題提起は、世界各国のシンクタンクが協議しても答えが出ない難題である。明確な答えがない中、高校生が持つ純粋で柔軟な頭を使い、もがき苦しみ、紆余曲折を経て、答えを導いて欲しい、その様な思いのもとこのプロジェクトを遂行した。

塾前には、「多様性」という多面的な言葉を分解して考えてもらうために、身近な外国人観光客・労働者に観点を絞り、以下のような事前課題を用意した。

#### 【事前課題】

皆さんには、自分の住んでいる市町村における外国人との共生の実態について考えてもらい、塾初日にクラスの前で発表していただきます。A4 一枚に以下を取材してまとめてきてください。様式は自由です。新聞記事、ポスター等、皆さんの創造性にお任せします。

1. YOUは何しに日本へ？
  - ・ どこ出身の方が多いか？
  - ・ 何を日本でされているのか？
  - ・ 日本のどこに魅力を感じているのか？
2. 地域への影響
  - ・ 地域へもたらした良い影響とは？
  - ・ 地域が困っていることは？日本人、外国人両視点をインタビュー
3. 写真
  - ・ 取材の写真等、興味深い写真を何枚か撮ってきてください。

事前課題が議論の役に立った、自身の英語力を見直し、より英語学習に励むきっかけになったという意見や、人脈が広がった、留学という夢ができたという感想も多く聞くことができ、事前課題はとても有益であったようだ。

## ■事前課題の感想

私は外国人の方にインタビューするためにゴミの捨て方講座に参加しました。何人かの方にインタビューをさせて頂いてその人の国の文化や政治背景を感じることができました。このインタビューをきっかけに私は講座に参加した外国人の方と仲良くなることができ、お互いに連絡しています。事前課題の時点でリーダー塾のおかげでたくさんの人と関わるきっかけができて本当に良かったです。

ネパール出身の人材派遣留学生アルバイトサポートのお仕事をされている方にお話を伺いました。ネパールの根強いカースト制度の話や言語の数、宗教、交通の話など衝撃的なことが多く、勉強になりました。取材を終えて1つの国でも本当に様々な人がいると知り「〇〇人」と捉えずに、その人一人一人に接していくことが大切だと分かりました。

事前課題として、学校のALTの先生と、アメリカ、中国出身の方、計3名にインタビューをしました。インタビューの事前準備として、インターネットで外国人が困っていることなどを調べて行きましたが、体で感じた雰囲気や、空気感、生活のちょっとしたことの違いなど、インターネットにはなかったこともたくさんあり、実際に当事者に質問することの大切さを感じました。そのため、実際に外国へ行かないと分からないこともあると感じ、より海外に行きたくなりました。

普段「多様性」という言葉はよく耳にしますが、深く考えたことはなく、私が住んでいる佐賀県の外国人について調べるだけでも、新たに気がつくことがたくさんありました。例えば、佐賀県では私の想像よりも多くの外国人が住んでいて、様々な職業で生活をされているということや、地域での困りごとなどです。グローバル・ハイスクール・サミットの初回では、それぞれの地域について調べたことを共有し議論することができました。

私は事前課題を通して様々な新しいことを経験しました。そのうちの一つは道後での街頭インタビューです。観光されている外国人の方に自ら英語で質問しに行くことは不安だらけだったけれど、つたない英語でも皆さん丁寧に答えしてくださってとてもうれしかったです。また一人で市役所に問い合わせ資料をいただくということも初めてだったので緊張しました。事前課題だけでもこのような新しいことにチャレンジして成長することができたと思います。

## ① 構成

塾開始当初の予定としては、前半と後半の社会人アドバイザーが交代するタイミングで「中間発表」、塾終盤に議論の集大成となる政策を「最終発表」する方針であったが、本番の進捗状況を加味し、構成を変更したことについては後述する。また、全ての審査においては、以下の評価基準で公正な総評に努めた。

### ① 具体性

政策が抽象的なものではなく、時間軸・規模・対象・予算という詳細において具体性に富んでいるか。

### ② 実現性

実際に日本政府が打ち出せる予算・規模で組み立てられているか。煩雑な官僚的手続きを乗り越えられる実現性があるか。

### ③ 創造性

高校生ならではの発想を基に、奇想天外なアイデアが組み込まれているか。今の閣僚・政治家・専門家が言及していないような画期的な内容であるか。

#### ④ 多様性社会についての理解度

本テーマのキーワード「地球市民」「多様性社会」「実現」等を正確に咀嚼し、理解し、政策に反映できているのか。問題点を明瞭に理解し、解決に直結するような政策になっているのか。

#### ⑤ プレゼン力

政策を分かりやすく、正確に、審査員・観客に届けられているか。政策の魅力が伝わるプレゼンが出来ているか。

### ② 前半の議論の様子

前半は、全クラス、暗闇の中を進んでいた。

本来であれば、初めに塾生自ら「多様性」という言葉を咀嚼、定義づけをし、主体的に方向性を定めるべきである。しかし、ディスカッションに慣れていないのか、一番大切な議論が抜け、明確なゴールもないまま、話し合いだけが先行していた。クラス内で目標や定義の共通認識がないまま、一人一人自身の役割を見失い、もがいていた。

リーダー塾で大切にしている方針は、高校生の自主性の尊重である。塾前半では可能な限り介入せず、自走させる方針をとった。指導を受けられない中、目的地が分からず、とにかく時間だけは経っていた前半期間は、高校生にとっていばらの道であっただろう。

また、苦言を呈すようだが、前半期間の高校生のディスカッションに対する態度は例年に比べ積極性に欠けており、希薄であった。コロナ禍の影響で、人と「対面」で話し合う環境が限られ、自己主張をすることに対して抵抗が芽生えてしまっていたのかもしれない。その中でも、中間発表前日にGHS担当の事務局員からの喝もあり、多少エンジンがかかり何とか中間発表まで漕ぎつけた。



▲議論の様子

### ③ 中間発表

中間発表の発表順はくじ引きで決めた。3組、5組、4組、2組、6組、1組の順に発表を行ったが、政策含め発表の中身は全体的に表面的で浅薄であった。

塾生には初日から評価基準を配っているにも関わらず、どの基準においても及第点には程遠かった。政策には時間軸、対象、視点、規模などの点において大きく具体性に欠け、非現実的な案や既存の案を発表するだけといったクラスもあった。「多様性」というテーマに対しては、言葉の意味を曖昧なまま説明するクラスが大半であったため、政策に矛盾が生じていた。また、リサーチと発表資料の作成のためにiPadをクラスに支給していたが、スライドに頼りすぎて発表内容が伝わらないクラスやスライドを効果的に使えていないクラスが目立った。リサーチを丁寧に行っていないことも質疑応答の際に回答ができない姿から見受けられた。結果は、唯一スライドを使わずに寸劇を行い発表した1組日本広報党が、「プレゼン力」という評価基準において高得点を奪取し、優勝した。



▲中間発表の様子

しかし、全クラス内容面において大差は無く、優勝クラスでさえ総得点の半分程度しか取れていないといったことから、中間発表後には当初の予定を変更し、再発表を行う旨を伝えた。全体の前で、実用的なアドバイスも含め鼓舞するような言葉を投げかけると、ようやく意欲が芽生えた印象であった。

【各クラスの政策概要】

クラス	党名	順位	得点	政策概要
1組	日本広報党	1位	64点	多様性 JAPAN プラン 言語の壁を超えたアートを用いた看板の設置。外国人労働者のための出身国や言語レベルを表記したシールの作成。
2組	金平党	2位	62点	国立グローバルフェスティバル・英語教育革新 国規模での異文化交流フェスティバルの開催と小学生を対象とした新たな英語教育の導入。
3組	United Inter Heart 党	5位	42点	メタバース・お悩み相談会の開催 外国人労働者受け入れに関する金銭的問題、言語、法律などの問題への対処。
4組	レインボー党	3位	47点	Sophie 外国人と日本人が相互に慣習・文化を教え合うことができるクイズや掲示板を用いたアプリを開発。
5組	ダイバーシティコネク党	6位	31点	廃偏知見（偏見をなくす） 宗教・食事・服装などの違いを知るディスカッションアプリを開発。
6組	わ党	4位	45点	広告・アプリ 日本の文化に関するクイズやチラシを日本国内のお店に設置。日本のマナーを電光掲示板で宣伝。

④ 中盤

中盤は、全クラス悩んでいた。再発表という結果に対し、気を落とす塾生の姿はなかった。自分自身でも、納得できるような政策を作りたいという決意の元、ディスカッションの効率は増していった。

中間発表後のフィードバックを受け、「定義づけ」「目標設定」を最優先にしなければならないと認識し始め、原点に戻り、「多様性」のどの側面に注力すべきか、解決すべき問題は何なのかという根本の議論から仕切り直していた。スタッフは間接的なアドバイスを与え始め、答えに導くといった指導のもと、政策の向上を促した。

また、iPad に頼らず、自身の頭と口をフル活用して発表をしてほしいという思いのもと、iPad の使用は禁止とした。これは、高校生にとっても自身の脳のみで一つのものを作り上げるという真の成長をする機会になったのではないかと考えている。再発表までの時間が迫ると、根本の議論を早めに終わらせ政策の具体案を詰めたいと考えるクラスも増えてきた。しかし、どのような政策も問題特定という土台がしっかりしていないと、不十分である。再発表においては、土台作り

にどのくらいの時間をかけられたかが鍵となったと感じている。また、前半では特定の塾生のみディスカッションに参加している印象であったが、徐々に熱量はクラス全体へと伝染し発言者も増えてきた。



▲議論の様子

## ⑤ 再発表

発表の順番は、中間発表の順位が上のクラスから決めた。再発表では、全クラス凄まじい成長を見せた。「多様性」とは何か熟考したと伝わるような定義づけがされていた。「課題」を丁寧に洗い出したクラスは、課題と政策に一貫性があった。逆に、課題の特定が甘いクラスは、一貫性こそないものの政策の具体性についての議論に時間を割いていたため、政策自体は面白いものになっていた。

発表された政策を見ると今の議論をとことん突き詰めて欲しい、目の前にある政策を極めて欲しいという気持ちが芽生え、再々発表（最終発表）を実施することが塾生にとって有益なのではないかという結論に至り、最後の発表機会を与えることにした。

### 【各クラスの政策概要】

クラス	党名	順位	得点	政策概要
1組	人類発想党	2位	66点	知ってみよう・疑ってみよう 情報を疑い、お互いを知るを続けることで真の多様性社会の実現。
2組	共生党	3位	64点	国立グローバルフェスティバル・対話のタビプロジェクト 異文化理解の促進を図ったフェスティバルと対話の機会を設ける。
3組	共生党	6位	35点	共働プロジェクト ワークカウンセリングなどを通じた外国人の日本社会への推進を促進。
4組	Next Union	4位	45点	1ne Earth 地球市民と一つになるため人工島を設置し、交流を深める。
5組	国際理解推進党	5位	42点	国立テーマパーク 相互理解のためのテーマパークの設置。
6組	発言機会均党	1位	67点	クォーター制の導入・ギネス更新の促進 様々な人の声を届けるためのクォーター制の導入と、協力的に多様性を理解するためのギネス更新。



▲再発表にて力強いプレゼンをする塾生

## ⑥ 後半

最終発表に向かって全クラス必死になった。再発表で力を尽くしてしまったようなクラスは、これ以上何ができるのか、これ以上政策をどう修正したらいいのか、改善点を認識できても実際のモチベーションは落ちていた。そんな中、最終的に全クラス再燃することができたのは、高校生の忍耐力と精神力の成長に加え、クラスの社会人アドバイザー、そして学生リーダーの献身的なサポート、親身に向き合っ



▲学生リーダーにアドバイスを乞う塾生

いただいた姿勢にある。再度この場を借りて、クラスを鼓舞してくれたスタッフには感謝を申し上げたい。一方で、再発表で力を出しきれなかったクラスは、「失うものは何もない」と大きな希望と熱量を持って、議論に向き合っていた。前半ではなかなか垣間見えなかった「意欲」に満ち溢れ、恥ずかしさを捨て、クラスメイトとぶつかり合い、良い政策を作り上げようと必死に悩み、必死に取り組んでいた。ようやく白熱した議論の裏では、生徒間での対立や、自分との葛藤など様々な感情と戦っていた。こうした衝突は心を悩ませるが、この経験を経て、高校生は皮剥けた様な印象で、精神面でも大きく成長したと感じる。

最終発表の時間が近づき、全クラス「多様性とは何か」という明確な定義づけ、「課題は何か」という解決する対象、「政策を通じて何を成し遂げたいか」という目的が確実に決まっていた。そしてそのゴールをクラス全体で共有したことで、歩幅が揃いようやくクラスが一つになっていった。

そんな好調を迎えていた中、新たな逆風が高校生たちを襲った。新型コロナウイルス感染者の療養である。事務局では、療養者のために各クラスに機材を配布し、クラスと療養部屋をオンラインで繋げられるよう事前に準備していた。しかし、例年通りオンラインと対面の空気感には摩擦が生じてしまっていた。その中でも、高校生は自律し、創意工夫を凝らして「クラス全体で一つの政策を作る」という意識を忘れず、最後まで駆け抜けることができた。悔いの残らないよう、必死になってもがく姿には、強く感銘を受けた。

## ⑦ 最終発表

遂に最終発表を迎えた。一人一人の表情は以前とは全く異なり、自信を持って発表に向き合っていた。特に中間発表、再発表では振るわない結果だったクラスは見違えるほど成長しており、その姿にスタッフは涙していた。

多くのクラスが、現状の問題点について熟考し、解決の糸口となる政策を発表した。

塾生が最も苦戦していた「創造性」と「実現性」の相反するような評価基準に対して、高校生らしい画期的なアイデアに実現可能性を見出し、審査員を納得させた。その他全評価基準においても、全クラス高水準での発表となり、審査員は頭を悩ませた。公正な審査の結果、2組の彼方党が125点中91点で優勝した。優勝クラスは心の底から喜び、惜しくも優勝に届かなかったクラスは、心の底から悔しがっていた。これは、全員が全身全霊で取り組んだ象徴であり、「本気」で課題とぶつかった証である。また、6位となった4組Next Unionの得点は、中間発表で優勝したクラスの得点を上回っており、彼らの成長を強く物語っている。

最終発表後に「完全燃焼できた人？」と塾生に問いかけると全員が強く手を挙げた。中間発表の時に同じ質問をして手を挙げた塾生は一人もいなかった。全力で取り組み、全力で笑い、全力で泣く。リーダー塾の醍醐味を味わっていた塾生は自信と達成感で満ち溢れていた。

グローバル・ハイスクール・サミットを通して塾生には「考えることに本気になることの大切さ」に気がついて欲しかった。無論、皆で考えた政策には、誇りを持ってもらいたい。それと同時に、最終的な政策に辿り着くまでの過程で得た教訓を大切にしてほしい。必死になって考え、協議し、ぶつかって、それでも、クラスで一つになり、一つの政策を作り上げるといった日常生活では成し得ない大きな財産を塾生全員がしっかりと両手で掴んだ瞬間であった。



▲最終発表の様子



▲優勝した2組の感極まった様子

【各クラスの政策概要】

クラス	党名	得点	順位	政策概要
1組	博愛党	2位	88点	知ってみよう・疑ってみよう 情報を疑い、お互いを知ること続けることで真の多様性社会の実現。
2組	彼方党	1位	91点	国立グローバルフェスティバル・対話のタビプロジェクト 異文化理解の促進を図ったフェスティバルと対話の機会を設ける。
3組	共働党	3位	78点	共働プロジェクト ワークカウンセリングなどを通じた外国人の日本社会への推進を促進。
4組	Next Union	6位	66点	1ne Earth 地球市民と一つになるため人工島を設置し、交流を深める。
5組	国際理解推進党	5位	71点	国立テーマパーク 相互理解のためのテーマパークの設置。
6組	発言機会均党	4位	74点	クォーター制の導入・ギネス更新の促進 様々な人の声を届けるためのクォーター制の導入と、協力的に多様性を理解するためのギネス更新

■グローバル・ハイスクール・サミットの感想

グローバル・ハイスクール・サミットでの出来事は、一言では表せないほど本当に濃密な時間だったと思います。最初の1週間は、多様性についてしっかり考えてはいたのですが、クラス全体で上手く意見を共有できていなかったり、少数の意見をそのまま採用して使用したりと、クラスの発表とは言い難いものでした。結果はもちろん惨敗でした。そこで初めて、自分たちは最善を尽くせていなかったのだと実感しました。次の発表まで、時間はありましたが、客観的に見れば1回目と何も変わっていませんでした。失敗をいかせていない自分に憤りを感じました。ですが、喝を入れてもらったことで、全員が自分にできることを全力でしようという意識を持つことができました。最終的には、クラスみんなで議論して、楽しくかつ充実した取り組みにすることができました。

初めは皆探り探りで、意見を出すことができず、私もその一人でした。また、話し合いをする環境も皆が意見を言いやすいものとは言えませんでした。しかし、社会人アドバイザーに議論をする際の多くの注意点を教えていただきました。そこから私たちは議論をする中で「話し合いの内容より、進め方・環境」「情報の共有」「ゴールとネクストアクション」の3つを重要視しました。私たちの議論は常に時間に追われていました。そのため、中間、再発表は燃え尽きたとは言えませんでした。最終発表に近づくとつれ、焦って、気持ちが入って言葉が強くなってしまいうことも、誰かが泣いてしまうこともありましたが、それでこそ本当に意味があった議論だったのだと振り返ってみて実感しています。私たちの議論は決して順調だったとは言えないものの、一人一人の想いや信念のこもった、最高に熱く学びの多いものだったと思います。

グローバル・ハイスクール・サミットは、すごく苦勞して大変だったけど、自分にとって物凄く良い経験になりました。私は人と意見を一致させる難しさを学びました。全員が思っていることが違うか

らこそ、なかなか話がまとまりませんでした。少しまとまったと思ったらまた、すぐに逆戻りしてまた、定義の話、定義がしっかりしていなかったら、政策もいいものが作れない。そんな状況のなかで、時間が無い中、考えていくのがとても大変でした。また、発表の仕方もすごく苦労しました。普段の発表ではなく、プレゼン力を見られる場であったので、分かりやすく、面白く、伝える必要性があるのです。しかし、その点において私たちのクラスはとても苦労しました。どうしたらこの私たちの案が審査員に伝わるのかを本当にみんなで一生懸命考えて、発表しました。

意見がぶつかり合い納得できる政策を導き出せず、涙を流す人がいたり、議論が白熱してピリピリした雰囲気になったりしたときがあった。このような状況になったときは、一度議論を中断し、皆で目をつぶって深呼吸したり、理由もなく声を出して笑ったり、良くない空気をなくすために声掛けをすることを心がけていた。議論をする時間を通して、普段多くは語らない人も途中で皆が「それいいね！」と思わず反応してしまうようなアイデアを出していたり、休み時間に一人で外に出て考えている人がいたり、全員が本気で向き合っていたからこそ最終的には皆が納得した政策を考えることができたと思う。これからはすぐにネットで調べるのではなく、一度自分の頭を使って深く考えるという作業を大切にして、人と考えをシェアしながら、考えを深めたいと思った。

私たちのクラスは、中間発表と2回目の再発表ではなかなか良い結果を出せなかったものの、最終発表ではやっと良い評価を頂く事ができ、見事優勝することができました。優勝クラスが発表されたその瞬間の感動は、今でも鮮明に覚えています。優勝することができたのは、クラスの全員、ひとりひとりがしっかりとグローバル・ハイスクール・サミット向き合い、全員で協力しながら、互いの意見を尊重し合いながら話し合いを進めることができたからだと思います。そうは言っても、常に話し合いが上手くいっていたわけではありません。一部の人だけで話し合いを進めてしまっていたこともありましたが、クラスメンバーの中で方向性がズレてしまったこともありましたが、しかし、そうなるたびに、それに気づいた人が声を掛け、話し合いを立て直すことができました。

## ⑧ マハティール氏への発表

最終発表で優勝した2組には、マハティール氏の前で政策を英語で5分間発表できる機会が与えられた。一国を長きに渡って指揮したリーダーの前で政策を発表することは滅多にない機会と捉え、興奮を隠さないでいた。

2組の政策は、「国立グローバルフェスティバル」という国の文化交流を促進する行事と「YMK (Yourself, Myself, Knowing) ポリシー」という自己分析を教育現場で義務化し、自身を理解することを初歩として、個人間の相互理解に繋げる政策。そして、「対話のタビプロジェクト」という面識がない市民同士で対話を重ねることでの多様性理解推進計画といったいくつかの政策を織りなすことで、個人個人が「円」となり、「多様性社会を実現できる」という政策であった。

その中で2組には AFS の留学生と共に上記の政策に対し再協議を重ね、実際により多様な意見を取り入れ、発表してもらうことにした。

AFS の留学生は、教育改革をテーマに政策を発表していた。彼らは「表面的な数字や肩書きで人を判断する」といった日本人が多いことを日々感じ、多様性社会実現を阻む潜在的意識の原因に「偏差値社会」があると考えていた。そして「偏差値廃止」という政策を強く訴えていた。

言語の壁や文化の壁がある中、2組と留学生の話し合いは進みあぐねていたが、「多様性社会」に実存する貴重な経験を高校生のうちにできたことは、これからの人生に生きていこう。



▲ AFS 留学生との議論の様子

話し合いの結果、「YMK ポリシー」、「対話のタビプロジェクト」、「偏差値社会改革」という両者の政策を包含したような発表にすることが決まった。

これまでは日本語で発表していたため、内容を英語に落とし込み、原稿も英語に書き直すという作業は難航した。塾も終盤ということもあり、疲れも目立ち、他のクラスは無為に過ごしている中でも真剣に粘り強く原稿作成に向き合っていた。



▲ マハティール氏への発表の様子

マハティール氏への発表当日、発表者は早朝から原稿の練習に励み、本番に臨んだ。発表の最後に、「多様性社会の実現」を象徴する「円」を実際に体で表現し、発表を締めることになった。発表は、大成功であった。内容面、プレゼン面、両者において卓越しており、発表者のみならず、塾生全員が誇らしい表情をしていた。マハティール氏も、この発表に至るまでの努力も感じ取ったのではないかと強く感銘を受けた様子であった。

## ⑨ 総括

今年のグローバル・ハイスクール・サミットを通じて、幾つかのメッセージを塾生に届けたい。

1つ目は、目標設定の重要性。目標とは、どのようなクラス、政策にしたいか、その日のディスカッションで何を決めるか、というような明確なゴールを指す。目標を立てなければ、塾前半のディスカッションのように暗闇の中で走ることになる。卒業してからの生活においても、進路の目標や高校生活の目標、1日1日の目標といった明確なゴールを掲げ、毎日そのゴールに向かって研鑽を積んで欲しい。

2つ目は、グループワークにおいて、全体で目標の共通理解ができているかを確認し、歩幅を揃えることが大切であるということだ。クラス一人一人が同じ方向に向いた時、話し合いの効率は倍増し、彼らは見違えるほど成長した。

3つ目は、一人一人の「役割」を考えるきっかけ作りの場にして欲しい。世間一般の「リーダー像」とは、「前に出て話す」「仕切る」「引っ張る」といった固定観念で構成されている。その考えに囚われ、そのような素質が自身にないと感じた塾生は、リーダーには向いていないと思い、悩んでいた。しかし、このような固定されたスキルだけがリーダーシップを構築するわけではなく、自身にしかない素質は必ずあり、その素質を極めることで、リーダーになり得る可能性は十二分にあるのだ。グループでの熱い議論を通じ、自身が持っている突出した長所を見つけ、自分の価値を見出し、これからの学校での活動などに繋げてほしい。

4つ目は、一つのことに一生懸命取り組み、完全燃焼することの大切さである。コロナ禍では、部活動含む課外活動、文化祭など、対面で一生懸命になれる場が限られていた。この社会の制限が、対面で一生懸命取り組むことに抵抗を持つ意識を生んでいたと塾を通じ感じた。しかし、現在はコロナ禍も明け、可能性は無限大である。これからは、グローバル・ハイスクール・サミットを通じて学んだことを活かしながら、様々なことに挑戦し、毎日毎日を大切に生きてほしい。

最後のメッセージは、このテーマについてである。このテーマでのディスカッションを通じ、塾生はディスカッション能力・チームワークの向上、忍耐力、精神力の発達など様々な面で成長していた。前述したが、この話し合いを通じた「過程」に大きな意味があるのだが、それに加え、テーマ自体についてこれからも本気で考えて欲しい。これからの社会は、確実に「多様」になっていく。その中で、今回のテーマは次世代を創っていく上で極めて重要である。優勝したクラスも、6位になったクラスも、「順位」という「結果」を超えて、このテーマについて深く考え続け、未来の社会構築に役立てて欲しいと強く願っている。

## ■最終発表、及び「グローバル・ハイスクール・サミット」全体を通じた感想

私たちのクラスは、1回目5位、2回目6位で、どん底に落とされた状態でした。2回目の発表に臨むにあたって、1回目が終わった後に出た反省から、内容をごっそり変えました。ですが、2回目では1回目よりも悪くなりました。そこで、2回目が終わってから、ようやく根本的なことに気づきました。そもそも、私たちの考えたプランが審査員の方々に伝わっていない、つまり、プレゼン力がないということに気づきました。だから、3回目は内容を変えずに、プレゼンの仕方だけを変えて臨みました。すると、2回目から点数的に2倍以上成長することができました。あの時の感動は忘れられません。どん底に落とされてからの這い上がりを体験することができました。2回目の発表で終わっていたら、まだまだ完全燃焼できておらず、谷に落とされたままでした。3回も発表するチャンスをくださったことにとても感謝しました。

学校の発表でもよく使っているパワーポイントに私たちは頼りすぎているなど感じた。中間発表ではスライドを使っていないクラスが1クラスしかなかったが、プレゼン力で勝負していて気づくことができた。また発表を聞きながら自分なりのいいところや気になったところこうした方が良くなるなどという点を客観的に考えることができた。最後の方は、お風呂の中でも寝る前ベッドの中でもどうしたらよいか考え、話し合い、絶対に1位が取れるなど思っていたのでより一段と悔しかった。これまでの学校行事でも悔し泣きをしたことがなく、今回のリーダー塾で1番成長できたなど感じた。

審査員の前で発表するという経験は非常に緊張感があり、普段とは違うプレッシャーを感じました。特に、審査員がこちらの一言一言を真剣に聞いている様子が伝わってきたため、責任感が大きかったです。発表を通じて、自分の考えやアイデアを正確かつ分かりやすく伝えることの重要性を再認識しました。また、発表中に自分の言葉に詰まる場面があり、その際にどう冷静に対処するかが課題だと感じました。一方で、審査員からのフィードバックは非常に貴重でした。自分では気づかなかった点や、もっと改善できるポイントを具体的に指摘してもらい、今後の成長に繋がる有益なアドバイスをいただきました。発表前は不安が大きかったものの、終わった後には達成感とともに、今後さらに自分のプレゼンテーションスキルを磨いていきたいという意欲が湧きました。審査員の方々の「パッション」という言葉が忘れられない一言になりました。

私たちのクラスは中間発表で本当に挫折をしました。最初の政策は「アプリ」だったのですが他のクラスとかぶっていて、その時点で、創造性に欠けていると感じました。審査員の方々の指摘が的確すぎて、自信满满だった発表が一要で崩れ去りました。真の「多様性社会」を実現するためにどうすれば良いのか、この政策をして、本当に実現できるのか、既存のものがどうして反映されていないのか、スマホを持っていない高齢者の方々にはどうやって広めていくのかなど、自分には視点が足りなすぎて、経験不足すぎると感じました。しかし、毎回発表するごとに自分たちが全ての点において成長できていると感じ、最終発表では、最下位だったけれど、完全燃焼できたと感じています。このグローバル・ハイスクール・サミットが本当に自己成長につながったと思います。

## (5) 今年の特徴的なカリキュラムについて

### ■キャリア教育

キャリア教育は、高校生のうちに社会で働くことへの関心を持ち、進学や将来の目標設定をしてほしいという目的で行っている。今年度は社会人だけでなく、より高校生に近い大学生にもキャリア教育を行っていただき、近い将来の進路についても考える時間を設けた。内容はお任せし、プログラムを作成いただいた。社会人として大切にしていることや失敗談など社会人のリアルな声を聞き、考え方やキャリア観において多くの塾生が影響を与えられていた。また、大学生から今の進路を選んだ理由や現在の活動、受験期の話聞き、社会人の話を踏まえたうえでより近い将来を具体的に考えるきっかけとなった。



▲キャリア教育を受ける塾生の様子

### ■名護屋城博物館

8月2日に名護屋城博物館を訪問した。学芸課長の宮崎先生にホールで講義をしていただき、博物館の歴史や日本列島と朝鮮半島の交流史についてご説明いただいた。講義終了後、名護屋城博物館と屋外の名護屋城博物館本丸跡地の見学を行った。グループごとにタブレットが支給され、カメラ越しで復元された城の姿を見て、興味津々の様子だった。実際に現場を見ながら名護屋城や周辺地域の歴史について学習することができた。



▲跡地を見学する様子

### ■宗像大社・神宝館

2014年に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』としてユネスコ世界文化遺産に登録された宗像大社を正式参拝した。大変暑い中、神職の皆様が各クラスに付いて、本殿や第二宮、第三宮などを回り、丁寧にご案内していただいた。

沖ノ島から発掘された8万点の国宝の一部が展示される宗像大社横の神宝館では、須恵器や勾玉などを見学した。日本人の祈りの原初となる古代祭場を維持しているところは国内でも殆どなく、祖先が祈りをささげたであろう場所で、悠久の歴史に想いを馳せた。



▲宗像大社・本殿

### ■北九州市環境ミュージアム

かつて“七色の煙”に空が覆われ、洞海湾に魚が住めないほど汚染されて“死の海”と呼ばれていた北九州市が、どのように重度の公害を克服して現在のような青い空と海を取り戻したかについて学んだ。時間が限られた中での見学だったが、「見て・触れて・楽しみながら学べる」というコンセプトのもと、参加型学習の形態で塾生が実際に体験して楽しく学習した。



▲展示物を見学する塾生

## ■安川電機

日本で初めて全電気式の産業用ロボットを開発した安川電機。まず最初に小笠原浩代表取締役会長に「日本の製造業と産業用ロボット」と題して、講義をしていただいた。「日本の競争力は 1980 年から急激に低下し、2024 年 6 月にはスイスの国際経営開発研究所が発表した世界競争力ランキング」において 67 カ国中 38 位となった事実を披露。その背景に「正規・非正規雇用の不均衡、長時間労働の非効率性、労働時間に対する賃金支払いの不合理などがある」と指摘。このような状況下で「諦めずに挑戦を続けることが重要である。



▲安川電機見学の様子

運は万人に平等に訪れるものであり、運を掴むためには日々の努力と準備が不可欠である。そのため、様々な事に興味を持ち、アンテナを張り巡らせて、自ら運を掴み取ることが求められる」と塾生を叱咤激励。塾生から「運も実力のうちではなく、運が実力」との言葉に感銘を受けたとの感想が寄せられた。

講義の後、未来館・歴史館の見学では、「工場の自動化」を目指す会社の歴史を学びながら、その最先端技術を駆使したロボットやアートを見学した。ロボットの繊細さに驚きつつ、多くの分野や場面でロボットが重要な役割を果たしていることを実感した。また、ロボットによってロボットが作り出される製造過程を見た工場見学では、機械の力を実感し圧倒される塾生の様子が見られた。

## ■味噌汁コンテスト

5年ぶりに味噌汁コンテストが復活した。各クラス、留学生のグループに分かれてそれぞれ味噌や具を選び、個性的なみそ汁を作った。来賓の審査員の方々に向けて自作の味噌汁をプレゼンし、味の評価をしていただいた。日ごろ作ったことがない大量の味噌汁をつくったため、出汁の分量が分からず、出汁のうまみが出ていない味噌汁や、餅がとけてしまうなど、なかなか難しかったようだ。今年は留学生チームが優勝した。味噌汁コンテストを通して、さらにクラスの団結力が強まった。



▲味噌汁コンテストの様子

## ■AFS 留学生交流

昨年同様、全世界約 50 カ国と高校生の交換留学を行っている公益財団法人 AFS 日本協会から九州・山口に留学している高校生の留学生 12 人（アメリカ、タイ、フランス、ニュージーランド、チリ、フィンランド、パナマ、ペルー）が 8 月 4 日～8 月 7 日までの期間で参加した。グローバル・ハイスクール・サミットでは留学生のリアルな意見に耳を傾け、クラスでの活動や寝食を共にし、積極的にコミュニケーションを図っていた。塾後も連絡を取るなど留学生との交流は続いているようだ。



▲AFS 留学生とお別れの様子

## ■卒塾前夜祭

8月7日の夜、仲間と最後の思い出を作ることを目的とした卒塾前夜祭を塾生主体のもと開催した。歌やダンスといった特技の披露、未成年の主張などで大いに盛り上がった。

クラス関係なく交流することができ、とても良い思い出が作れたようだった。翌日の仲間との別れを惜しむ姿も見られた。



▲盛り上がる塾生たち

## ■目標宣言

8月7日に、全塾生が自身の将来の夢や目標を共有する「目標宣言」を行った。塾生たちはリーダー塾での学びや経験をもとに、緊張しながらも堂々と、自身の志や達成したい目標について宣言した。「医者になり、僻地医療を支えたい」「国際関係の仕事に携わり、発展途上国の教育問題を解決したい」といった社会貢献を目指す大きな目標や「第一志望校に合格する」「弓道でインターハイに出場する」といった身近な目標も多く挙がりました。



▲目標宣言をする塾生

目標宣言をすることで、多くの塾生が「自分がこれから何をすべきか」が明確になり、同時に大勢の仲間に見守られる中で夢を語ることの責任感や覚悟を実感したようだ。それぞれが語った目標が実現し、再び胸を張ってこの仲間と再会できる日が訪れることを心から願っています。

## ■夢ディスカッション

8月7日に、これまでの人生をグラフで振り返り、20年後の自分へ手紙を書く「夢ディスカッション」を行った。自分の人生を改めて見つめ直すことで、これまでの経験の意味を考え直すことができ、非常に充実した時間となった。また、友人たちと自身の過去や未来について共有する中で、お互いの理解が深まり、親しい友人の意外な挫折や苦労を知り、それを乗り越えた姿に心を動かされる場面もあった。本音で語り合ったことで、これまで以上に絆が深まった。



▲人生グラフを共有する塾生

20年後にここで書いた手紙を読む時、自分がどのような大人になっているかを楽しみに、これからも努力を続けて欲しい。

## ■合唱 DREAMS COME TRUE「何度でも」

8月8日の卒塾式で合唱を行った。塾前に塾生有志の合唱実行委員を募り、事前のオンラインでの打ち合わせから計画し、彼らを中心に日々練習に励んだ。練習時間が限られた中であつたが、素晴らしい合唱を披露してくれた。何度も挫けては這い上がってきた12日間を彷彿させる歌詞に多くの塾生、スタッフが涙した。



▲合唱の指揮をする塾生

## 9. 国際交流キャンプ

昨年度と同様に、文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト+（プラス）」でアジア域内の国々・地域と G7 各国合わせて 25 カ国・地域から全国各地の高校に 4 カ月間留学した高校生 95 人と、今夏のリーダー塾卒塾生から選抜された 30 人の高校生が、12 月 14 日から 4 日間、留学生帰国前オリエンテーションの一環として「国際交流キャンプ」を行った。その中のハイライトは「グローバル・ハイスクール・サミット」だった。

### ■グローバル・ハイスクール・サミット「命の重さ」

今回の国際交流キャンプでは、「命の重さ」をテーマに「グローバル・ハイスクール・サミット」を開催した。戦争や移民問題、宗教対立、経済危機、さらには地球温暖化による自然災害などによって世界各地で日々失われる命の現実に向き合い、アジアや G7 から来た留学生と国や文化、宗教を超えた視点で議論を深めた。

最初に「命の重さ」に関するワークシートに取り組み、自分の考えや自国の現状を整理。その後、国ごとにグループに分かれ、自国の考えを共有した後、様々な国の少人数グループに分かれ、各国の社会課題や命の尊さについてそれぞれの参加者から異なった意見を共有した。

午後からは、世界中の人々の命の重さが平等になるにはどうしたらいいのか。そのために次世代が果たすべき行動は何か。具体的に議論し、グループごとに発表を行った。

最終的には円卓を囲み「世界サミット」を開き、宣言文をまとめるための議論を行った。インドとパキスタンの留学生は「双方の国の人々はお互いに嫌いになる教育を受けてきた。それは、国境での紛争が絶えなかったからだ。私たち次世代はその歴史を繰り返してはいけないということを一緒に日本に留学して、考えることができるようになった」と発言し、他の国々の留学生から拍手を受けていた。そして、全体で以下の宣言文をまとめ、未来への希望を込め全員で署名した。

翌日に文科省講堂で、留学生の修了式を前に、留学生とリーダー塾の代表による宣言文の発表と次世代の決意表明があった。

#### 【宣言文】

- ① No more war
- ② Start with sorry end with peace
- ③ Keep living, loving and laughing
- ④ We listen equally, we don't judge
- ⑤ Forgive the past, let equality guide our hearts and carve our way into a bright future
- ⑥ Love can



▲集合写真



▲ディスカッションの様子



▲グループでの発表



▲世界サミットの様子



▲世界サミットで採択された宣言文

## 【主な発表内容】

「グローバル・ハイスクール・サミット」では、世界中の同世代が直面している紛争や苦難は、現代の私たちが生み出したものではなく、昔から根強くこの世界に残っている非行であるという点で私たちは一致しました。しかし、過去は過ぎ去り、私たちにあるのは今この瞬間だけなのです。今日の私たちの選択が、来たる明日を作るのです。「過去は許されるべきだが、忘れてはならない」というのが私たちの一致した信念です。私たちは知恵を世界中の人々に届けます。憎しみは私たちの世代で断ち切りません。今のこの命を生き続け、愛し続け、笑い続けることを決めました。私たちはみなに平等に耳を傾け、勝手に判断してはいけません。国や地域、宗教、価値観などさまざまな違いはあっても、私たちは皆平等であり、この想いは、私たちが明るい未来へと導いてくれると信じています。

塾生たちは留学生の話に耳を傾け、実際に内戦や戦争、貧困など厳しい現実直面する国の声を真摯に受け止めていた。国境を越え、「命の尊厳」を守るための未来像を共に描き、議論を通じて相互理解を深める姿は非常に印象的だった。



▲文科省講堂での発表

## ■ボン・ボヤージュ

ボン・ボヤージュは、旅立つ留学生を送り出すプログラムとして、塾生主体で企画・運営した。留学生と一緒に曲で踊ったり、歌ったり、合唱のプレゼントなど、全員の心に温かい思い出を残す時間となった。



▲進行する塾生の様子

## ■夢ディスカッション

夢ディスカッションでは、リーダー塾生だけで行い、卒塾後から学校生活に戻る中で感じた悩みや課題を本音で共有し、皆で解決策を考えました。

その後、今夏のリーダー塾で行った目標宣言のビデオがサプライズで上映され、参加者たちは自分の現状を振り返った。そして、「夢宣言」を行い、力強い言葉で未来への決意を表明した。一人ひとりの目は夏の頃よりも力強く輝き、未来を見据える姿が印象的だった。



▲夢宣言をする塾生

## ■留学生の帰国

最終日の17日には、留学生たちは早朝に羽田空港や成田空港に向けて出発。それぞれの国に帰国の途についた。今回、「グローバル・ハイスクール・サミット」で命の重さについて議論することにしたのは、留学生たちが帰国する国では、貧困や暴動など日本の高校生と比べて、日常的に危険にさらされている国が多いからだ。

留学生たちは、それぞれの国で日本語に興味を持ち、何十倍、中には何百倍の倍率を勝ち抜いて日本への高校留学の切符を手にすることができた。そして、わずか4カ月間だったが日本語のみならず、剣道、柔道、茶道、生け花、お能や書道からアニメなど日本文化に精通することができた。



▲留学生とお別れの様子

母国に帰り、また、日本の大学を目指す留学生も多いが、現実には命の重さが平等でなく、厳しい道が待っている留学生も多く、苦しい時にこのサミットを思い出して、いつでも SNS で語り合える 25 カ国の友人がいることを知ってほしいとの思いから「命の重さ」を議論することにした。

ホテルで抱き合い、涙を流して別れを惜しんだことを思い出し、一人ではないことを思い出してほしいと思う。

## ■国会議事堂見学

最終日には、元佐賀県知事で、現在、衆議院議員の古川康氏のご協力で国会見学ツアーが実施された。塾生たちは通常入ることのできない衆議院議場の記者席エリアや、自民党総裁室などの見学ができた。また、中央広場には議会政治の基盤を作るために功労のあった板垣退助、大隈重信、伊藤博文の銅像があり、4つ目の台座には人選ができなかったため銅像はなく、「政治に完成はない。未完の象徴」という意味があることも知ることができた。リーダー塾の卒業生からも国会議員が出てほしい。



▲国会議事堂前での集合写真

その後、国会内の食堂で洋風弁当の食事をすることもできた。2時間にわたる見学で民主主義の意義を改めて実感することができた。古川事務所の皆様には、懇切丁寧な説明をしていただき、貴重な経験を提供いただき、深く感謝申し上げたい。

## ■カリキュラム表

日付	日曜	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1	12/14 (土)									到着	荷物移動	初日ガイダンス -CHART-	夕食	21期ミニ同窓会 (リーダー塾生) -ANCHOR-	グリーティング -COMPASS-			就寝
														EOS全体説明 (架け橋生) -COMPASS-				
2	12/15 (日)	朝食	開会式 -COMPASS-	アイスブレイク -COMPASS-	グローバル・ハイスクール・サミット		APUセッション (編集) -COMPASS-	グローバル・ハイスクール・サミット					夕食	グローバル・ハイスクール・サミット (リーダー塾生) -CHART-				就寝
														EOS (架け橋生) -COMPASS-				
3	12/16 (月)	朝食	書碑	移動 ホテル→文科省講堂	修了式 -文科省講堂-	移動 文科省講堂→ホテル	昼食	ボン・ボヤージュ -COMPASS-				記念写真 -COMPASS-	夕食	夢ディスカッション (リーダー塾生) -CHART-				就寝
														EOS (架け橋生) -COMPASS-				
4	12/17 (火)	朝食	お別れ	移動 荷物預ける	国会議事堂見学ツアー		昼食	移動	自由散策	帰路へ								

## 10. 参画自治体の声

リーダー塾は、10の自治体から参画を受けており、塾生の募集、選考など、多くの協力を頂いている。参加した塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画自治体に対し、アンケート調査を実施した。

### 【北海道保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課次世代育成支援係】

今年度、北海道からの参加者は7名となり、例年より少なめの人数となりましたが、事前審査のグループディスカッションでは、互いを思いやりながら積極的に発言する様子がみられました。

次世代リーダー養成塾の終了後に、生徒・保護者の皆様・先生方からいただいた感想では、参加したことにより視野が広がり将来の選択肢が増えた、価値観や考え方が変わったという声が多くありました。

また、参加する前と比較し、自ら発言する場面や他者に意見やアドバイスを述べる場面が増えるなど、より積極的・意欲的になったとの声もいただきました。

生徒たちが、今回の塾で得られた経験を基に成長してリーダーシップを発揮し、将来、北海道や世界で活躍してくれることを期待しています。

### 【青森県交通・地域社会部地域交通・連携課人づくりグループ】

青森県では、本県中・高生が、将来を見据え、自らの目標に向かって果敢に挑戦する人財として育つよう、『夢のカタチ』形成事業を実施しており、その取組の一つとして、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣を行っています。

今年度は12名を派遣しましたが、出発時には緊張と不安が入り混じっていた生徒たちが、帰青時には自信に満ちあふれた表情をしていました。濃密な塾カリキュラムの中で、自分の将来や世界の情勢について真剣に考え、意欲を高めるとともに、全国から参加した塾生と交流し、「スーパー高校生」たちに変化刺激を受けたようでした。保護者からの感想には、「帰宅後の成長に頼もしさを感じている」、「世界に向けて視野が広がったようだ」、「学生リーダーの生き方や考え方から多くの学びがあったようだ」など、感謝の言葉が多く綴られていました。

今後、塾への参加を通して得られた知識・経験、繋がりを生かしながら、本県や日本のリーダーとして持てる力を大いに発揮し、活躍することを期待しています。



▲事前研修会の様子（提供：青森県）

### 【岩手県教育委員会事務局教育企画室】

今年度は7名の高校生が岩手から参加しました。出発の際は、期待と不安が入り混じった表情の7名でしたが、リーダー塾終了後に仙台空港に降り立った際には、やり遂げたという自信と、自分をさらに高めていきたいという強い意気込みに満ちた表情に変わっていました。リーダー塾を通して仲間とともに、充実した素晴らしい体験ができたことがにじみ出ていました。

塾終了後の感想文には、「将来への目標を明確にすることができた」「失敗を恐れずに自信をもって行動することの大切さを学んだ」「リーダーとしての在り方を考え直した」「海外への留学をしたい」「批判的に考えることの重要性を学んだ」「岩手の発展に寄与したい」「人を支えられる人になりたい」という感想や目標が綴られていました。リーダー塾に参加し、自分を見つめ直し、新たな目標を持つことができた塾生たちが、岩手や日本、世界で活躍していくことを期待しています。



▲事前研修会の様子（提供：岩手県）



▲出迎えの様子（提供：岩手県）

### 【静岡県スポーツ・文化観光部総合教育課】

リーダー塾への参加は、塾生にとって大変貴重で学びが多く、実りある経験となりました。

本県塾生を対象として実施した事後アンケートでは、「一生の友達、多様な価値観、海外への関心を得ることができた」「一人ひとりに役割があり、その人だからこそ見えているものがあると学んだ」「『今だからこそできることを全部やろう』という意識で行動を始めた」といった多くの前向きな声が寄せられました。

一流の講師の講義から得られた知見や、答えのない問いに共に取り組んだ全国の仲間との交流を通して、価値観の変容、視野の広がりや思考力の向上など、自らの成長を確実なものとして実感していました。

貴塾の取組が将来を担う子どもたちの財産となるよう更なる発展を祈念いたします。



▲事前研修会（集団討論発表）・GHS 最終発表後集合写真（提供：静岡県）

### 【岐阜県環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

本年度は岐阜県推薦卒塾生として県内の高校生8名が塾に参加させていただき、事務局職員の皆様の並々な御尽力により、無事開催することができましたことに心から感謝申し上げます。

事後レポートでは、「講義を通して新たな視点から物事を考えるようになった。」「ディスカッションで本気で意見をぶつけ合うことで、仲間としての絆が深まった。」といった感想が寄せられ、塾生一人ひとりが学んだことを実際の生活で具体的に実行していこうとする姿を伺い知ることができました。また、保護者の方々からの感想では、塾への参加を通して成長した我が子の姿に喜びを感じておられる様子が伝わって来ました。

今後の学校生活や将来の進路において、塾への参加を通して得られた知識・経験、そして卒塾生同士の繋がりを生かしながら、それぞれの立場でリーダーシップを大いに発揮し、より一層活躍されることを期待しています。

### 【和歌山県教育庁教育総務局総務課政策管理班】

リーダー塾初日、福岡県に向かうために集合した和歌山県推薦枠の生徒たちの目には、緊張と不安の色が浮かんでいました。それから12日後のリーダー塾最終日、生徒たちを迎えにグローバルアリーナを訪れた際、感極まって号泣している生徒や別れを惜しみ抱き合う生徒を目の当たりにし、リーダー塾での日々が生徒たちに計り知れないほどの刺激と経験を与えてくれたのだと実感しました。参加した生徒たちと話をすると、「帰りたくない」、「もっとみんなといたい」と、全国の志を同じくする生徒たちと もっと友情を育み、熱い絆を深め、みんなで成長していきたいという強い思いを感じました。これは、講師の方をはじめ、リーダー塾事務局の皆様等が、大切な時間と惜しみない情熱を生徒たちに注いでいただいたおかげだと思っています。

また、参加生徒たちの事後のレポートでは、多くを学び、新たな気付きを得て、自分の目指したいリーダー像等、今後の自分自身の行動や進むべき道について新たな決意を抱いたことが伝わってきました。参加した生徒たちが、将来、それぞれが選んだ道で活躍し、郷土をはじめ日本の発展に大きく寄与してくれることを願ってやみません。

### 【福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

リーダー養成塾は、高校生が全国から集まった同世代の仲間とともに、国内外で活躍する一流の講師陣の講義を受けたり、様々な課題について議論したりすることができる大変貴重な機会になっています。最終日の高校生の様子からは、学校の授業では経験できない充実したカリキュラムにより、自らの内にある無限の可能性に気づき、これからすべきことを深く考えるきっかけになったことが伝わってきました。

また今年度は、服部知事による講義を行いました。講義では、本県の強みや主要施策を紹介しましたが、多くの高校生から鋭い質問や意見をいただき、大変充実した時間になったことを嬉しく思います。

参加した皆さんには、この12日間で培ったノウハウや出会いを生かして、失敗を恐れず、未来を切り拓く人財として活躍していくことを期待しています。



▲事前研修会の様子（提供：福岡県）

### 【佐賀県地域交流部さが創生推進課】

本年度は佐賀県推薦枠塾生として23名が塾に参加させていただき、事務局の献身的なサポートに感謝申し上げます。

報告会の際に、参加者からは「リーダー塾を通して、今まで出会ったことがないような価値観の仲間とたくさん出会い、自分が理想とするリーダー像を見つけることができた。」「成功の反対は失敗でなく行動しないことという言葉が印象に残った。リーダー塾には、全国から色んな活動をしている高校生が集まっており、私ももっとアンテナを張って、行動していきたい。」との報告があり、リーダーとしての資質を習得することはもちろん、世界で活躍する講師や全国から集まった仲間たちから刺激を受け、塾生の向上心を大いに高めたようです。

これから、ここで得た経験を生かしながら、塾生同士が切磋琢磨し、佐賀県や世界のリーダーとして、社会に貢献していくことを期待しています。



▲事前研修会の様子 (提供：佐賀県)



▲報告会の様子 (提供：佐賀県)

### 【宗像市教育部教育政策課地域教育連携室グローバル人材育成係】

21回目となる日本の次世代リーダー養成塾を、宗像市で開塾いただきありがとうございました。世界遺産である宗像大社見学や、宗像の食材を使った「味噌汁コンテスト」をカリキュラムに組んでいただき、全国から集まる塾生に、宗像の歴史や魅力を知り、学んでもらえたことは、本市としても大変嬉しく思います。

参加した高校生たちは、著名な方々の講義や、周りの塾生たちから多くの刺激を受け、自分にとってのリーダー像や、自分の将来について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

この経験や人脈を生かして、それぞれの夢の実現に向かって成長していくことを期待します。

### 【うるま市経済産業部産業政策課企業立地係】

例年同様、本市からはうるま市推薦枠として高校生2名が塾に参加させていただきました。塾に参加後、本市で開催した報告会でそれぞれの感じたこと・学んだことを聴き、塾での経験が刺激を受けたように感じることができました。また、将来の夢では、「公認会計士を取得し、起業家になりたい」「グローバルに活躍する建築士になりたい」といった大きな夢を持つことができ、視野が広がり、これからの人生において、一つのきっかけとなったのではないかと思います。

リーダー塾では、学校の授業では経験できない一流の講師陣から貴重な講話を聴くことができ、また、同じ志を持った仲間と出会い将来のきっかけを作るいい機会となっています。

今後も仲間と共に切磋琢磨し、世界に羽ばたき地域に貢献できるような人材に成長していくことを期待しています。



▲事前研修会の様子 (提供：うるま市)



▲報告会の様子 (提供：うるま市)

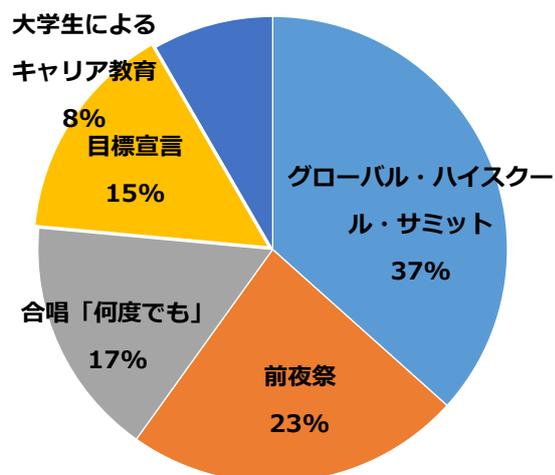
## 資料① 塾生アンケート調査結果

塾終了後に、講義に関するレポート・アンケートを実施した。報告書では主な設問を掲載する。  
レポートは塾生150名のうち139名(92.6%)、アンケートは139名(89.3%)が回答。

### ？ 興味深かったプログラム（複数回答可）

※アンケート集計上位5つを記載

1. グローバル・ハイスクール・サミット	37%
2. 前夜祭	23%
3. 合唱「何度でも」	17%
4. 目標宣言	15%
5. 大学生によるキャリア講座	8%



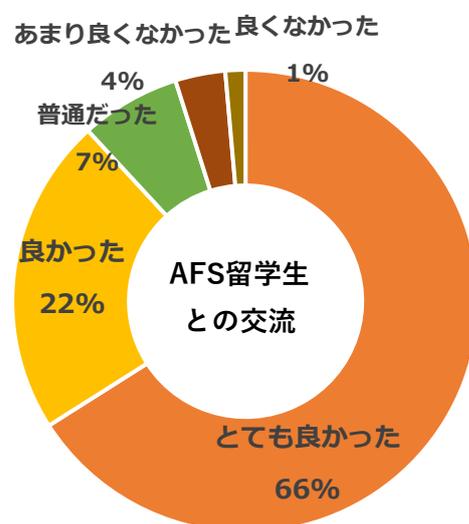
### ？ カリキュラムについての評価・感想

#### (1) AFS 留学生との交流

とても良かった	66%
良かった	22%
普通	7%
あまり良くなかった	4%
良くなかった	1%

##### ■主な感想

- ・日本で生きていると、日本人としか関わることができず、他文化との交流や理解がなくなってしまうと感じており、今回このような形で交流ができたことを嬉しく思いました。
- ・発表の際、留学生が日本の課題として挙げていたものは、他国に比べて日本が劣っている部分だと感じました。今後私たちがどのように社会を変えていくべきなのかを考えるきっかけになりました。

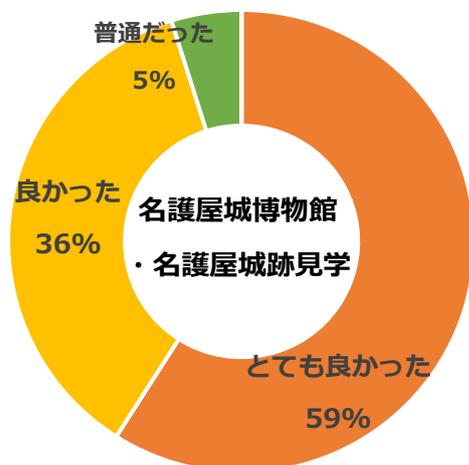


#### (2) 名護屋城博物館・名護屋城跡見学

とても良かった	59%
良かった	36%
普通	5%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

##### ■主な感想

- ・歴史的にも地理的にも非常に貴重であることを知り、また肌で感じることができました。今後は私たちが次世代に伝え守っていく事が大切だと思います。
- ・自分が住んでいる地域の近くに歴史的に大きな価値があるものが存在しているのにも関わらず、その内容を詳しく知らなかったことを痛感しました。もっと自分の身の回りのことを知るべきだと感じました。

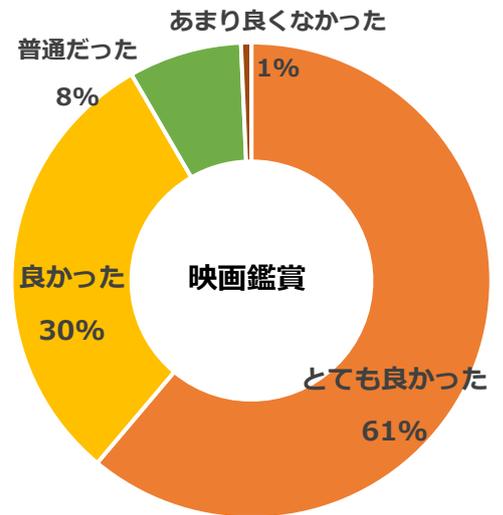


(3) 映画鑑賞「ちやわんやのはなし-四百年の旅人-

とても良かった	61%
良かった	30%
普通	8%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・グローバル化が進展したからこそここまで異文化を受け入れ、異文化に受け入れられるべきかを考えさせられました。
- ・伝統を引き継いでいくことは容易なことではないのだということ、親子の間にある溝や絆など、様々なことを考えさせられました。長い歴史の中での1人1人の人生に感動しました。

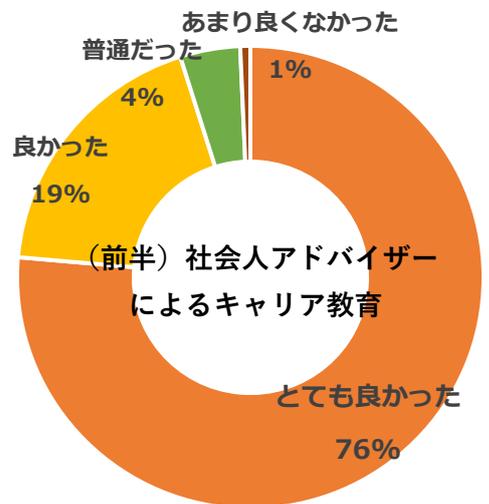


(4) (前半) 社会人アドバイザーによるキャリア教育

とても良かった	76%
良かった	19%
普通	4%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・社会に出たらできることが増えると感じました。自由が与えられる一方で責任も同時に課されるとわかりました。自由の中での選択・判断には責任がともなうことを忘れず行動していきたいです。
- ・自分で「自分」を定義するために必要なことは、揺るぎない信念と柔軟な思考だと知りました。社会人アドバイザーの今までの人生の話を聞いて、何かに挑戦することは本当に大切であり、それを信じて応援してくれる人がいることにも感謝すべきことだと思いました。

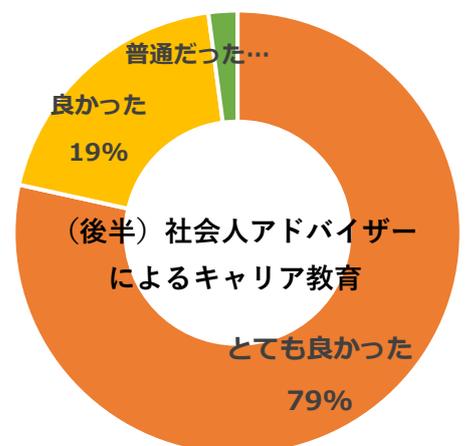


(5) (後半) クラス担任の先生によるキャリア教育

とても良かった	79%
良かった	19%
普通	2%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・社会人アドバイザーの「夢と愛の交差点で生きる」という言葉は、一見キザな言葉のように見えますが、情熱的に口にしたこの言葉は、今でも私の胸の中に残っています。
- ・「仕事や大学受験はあくまでも手段の一つ。生きること幸せになることが優先」と言う言葉が印象に残っています。進路が叶わなかったとしても夢へのアプローチの方法が少し変わっただけとプラスに捉えることもできるなと感じました。

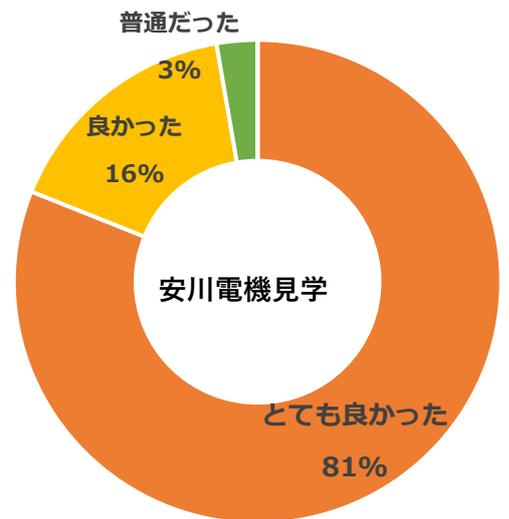


## (6) 安川電機見学

とても良かった	81%
良かった	16%
普通	3%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

### ■主な感想

- ・最先端の技術力とロボティクス分野におけるリーダーシップに感銘を受けました。特に、工場内で見た自動化システムや産業用ロボットの効率性には驚きました。
- ・見学を通じて、今まで知らず知らずのうちに使っていたものが作られた背景を知ることができました。これからは自分の中の「なぜ？」という思考を優先して、これまでに以上にアンテナを張っていきたいです。

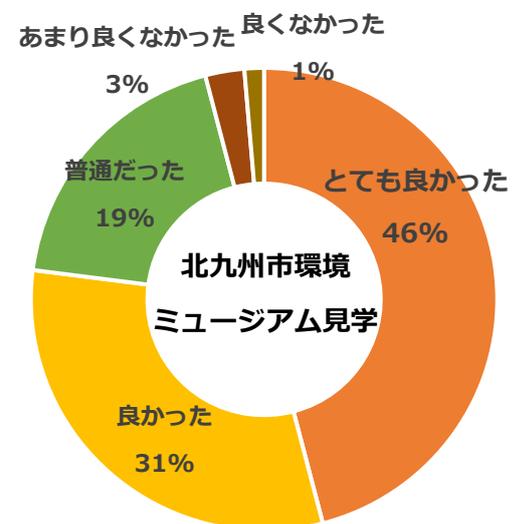


## (7) 北九州市環境ミュージアム見学

とても良かった	46%
良かった	31%
普通	19%
あまり良くなかった	3%
良くなかった	1%

### ■主な感想

- ・目で見て、耳で聞いて、実際に自分の手で触れて、楽しく学ぶことの出来る展示が多くありました。多くの人に見てもらいたい、とても重要な施設だと思いました。
- ・環境に悪いものや日常生活に潜む環境に優しいものについて体験クイズ形式で学ぶことができました。初めての体験ばかりでとても興味深かったです。

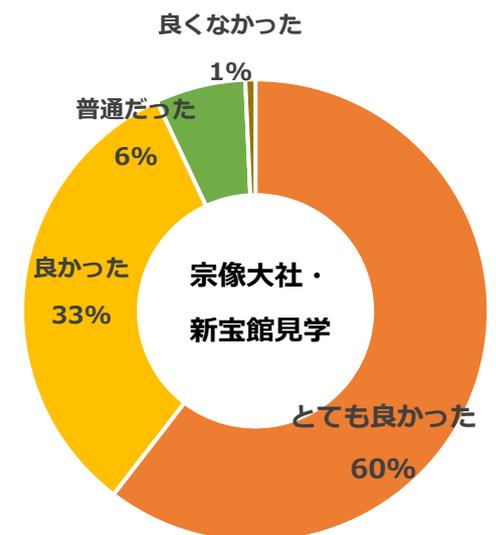


## (8) 宗像大社・新宝館見学

とても良かった	60%
良かった	33%
普通	6%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	1%

### ■主な感想

- ・約1万点もの品々が奉納されているという事実は、信奉の深さを物語るものとして、深く感銘を受けました。宗像大社が古代祭場を維持してきたことは、並々ならぬ努力の賜物であると、改めて認識させられました。
- ・私にとって初めての世界遺産の神社でした。新宝館でみた金製指輪の輝きや日本刀など、さまざまな神宝をこの目で見られたことに感動しました。

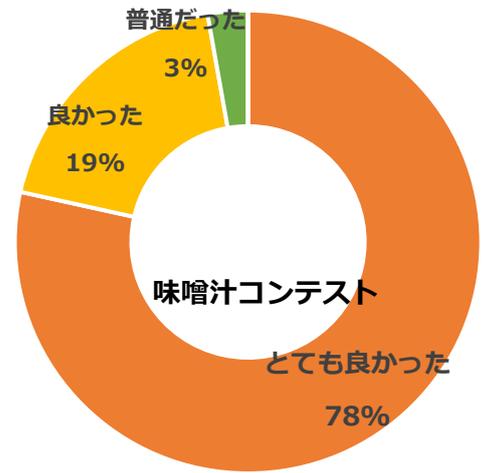


### (9) 味噌汁コンテスト

とても良かった	78%
良かった	19%
普通	3%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

#### ■主な感想

- ・仲間と協力し1つのことを成し遂げるという一見ありきたりなことに見えても、自然と役割分担が生まれ、連携の重要性を深く学ぶきっかけになりました。クラスの個性を活かすことができた貴重な経験でした。
- ・クラス全員で、試行錯誤して本当に楽しい思い出になりました。しかし、実際に食べると家の味噌汁よりも美味しくなく、いつもご飯を作ってくる家族に感謝の気持ちを伝えようと思いました。

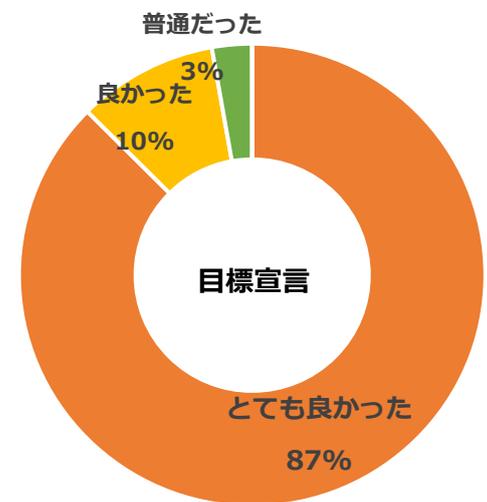


### (10) 目標宣言

とても良かった	87%
良かった	10%
普通	3%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

#### ■主な感想

- ・夢を持ち、目標に向かって頑張っている人は本当にかっこよく私も絶対に夢を叶えようと思いました。すべての人の支えがあってみんなの前に立てていることを実感し感謝しかないなと思いました。
- ・この場で宣言したからこそ絶対に叶えたいと思います。皆の目標も今の私が頑張る力になっています。思い出だけでみんなに会いたくなります。目標のなかった私に目標を持たせてくださりありがとうございました。

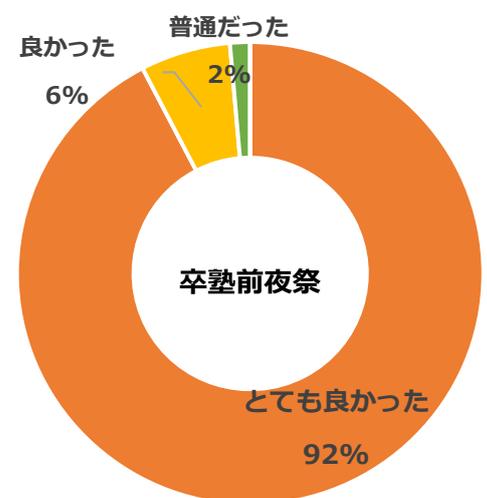


### (11) 卒塾前夜祭

とても良かった	92%
良かった	6%
普通	2%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

#### ■主な感想

- ・みんなとはしゃいだり、叫んだり、飛び跳ねたり、歌ったりしてみんなで楽しめたのでとても楽しかったです。また、未成年の主張では自分の思いを叫ぶことができるとも楽しい時間になりました。
- ・みんな力を出し切ったので、前夜祭ではたくさん笑い、疲れを吹っ飛ばすことが出来て楽しかったです。最後に流れた12日間のハイライト動画ではたくさんの思い出が映し出されて、まるで1年間みんなと過ごしたかのように感じとても感動しました。

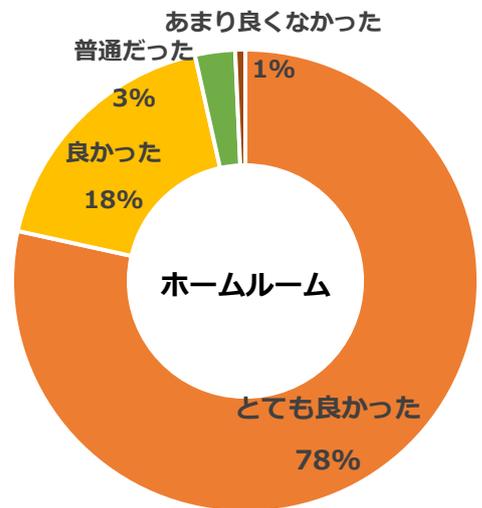


(12) ホームルーム

とても良かった	78%
良かった	18%
普通	3%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・大好きなクラスメイトとのホームルームは、私にとってかけがえのない時間でした。出来ればまたみんなで集まってホームルームがしたいです。
- ・最後のホームルームが1番記憶に残っています。初日からは考えられない程、仲良くなっていて、最後にみんなが塾期間中に思っていたこと、考えていたことについても聞いて本当に良い時間でした。

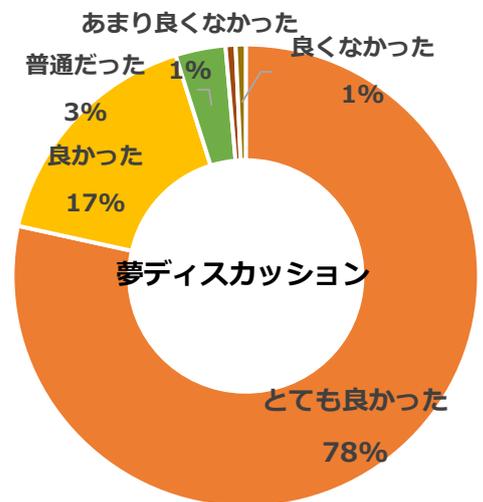


(13) 夢ディスカッション

とても良かった	78%
良かった	17%
普通	3%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	1%

■主な感想

- ・みんなつらい経験を乗り越えて今があるのだなと感じました。リーダー塾で大変だったこともみんなで乗り越えたからこそ受け止めてくれる安心感があるのだと感じました。
- ・皆紆余曲折ある人生を送っていて面白かったし、どんな出来事も後からは全部笑い話になるなと思い挑戦や失敗に対して楽観的になれた。

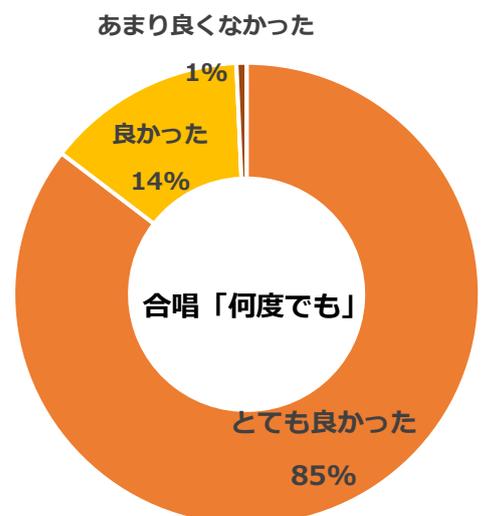


(14) 合唱「何度でも」

とても良かった	85%
良かった	14%
普通	0%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・「何度でも」の歌詞が私たちのこれまでの軌跡を表していて、練習の時も卒塾式の際も思い出して号泣しました。またこのクラスで集まりたい思いを込めて歌いました。
- ・夜まで練習した時も友達と教え合い、学び合い、皆が一体となった時間でした。何度も挑戦し、立ち向かう「10000回ダメでヘトヘトになっても 10001回目は何か変わるかもしれない」本当にこの歌詞通りな12日間でした。

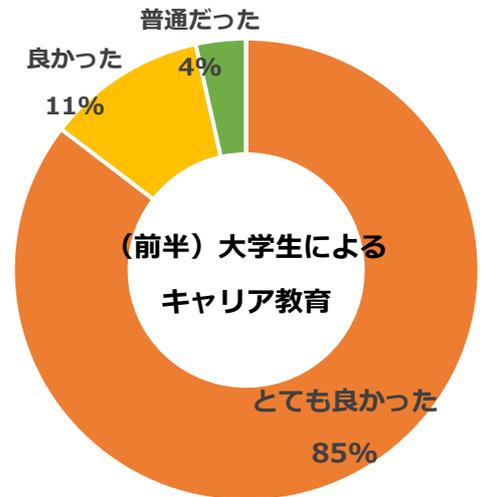


(15) (前半) 大学生によるキャリア教育

とても良かった	85%
良かった	11%
普通	4%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・アメリカでの NPO 活動を聞いて、異国の地での行動力に憧れを抱きました。私は以前アメリカに留学した際に後悔が残ってしまったので、次はその方のように大きなことに挑戦することが目標です。
- ・推薦入試や小論文対策のお話を聞くことができ、説明の仕方や質問の答え方がすごく丁寧で、私もこんな人になりたいと思いました。大学や学部についても細かく説明してくださったので、想像が膨らみました。

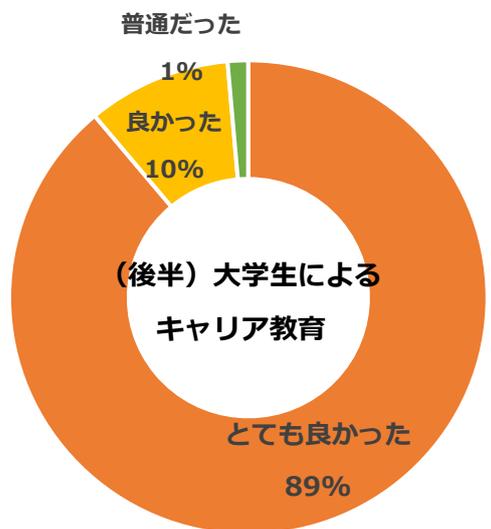


(16) (後半) 大学生によるキャリア教育

とても良かった	89%
良かった	10%
普通	1%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・課外活動やコロナ禍の高校生活、現在の大学生活のお話を生の声で聞くことができ、高校を卒業してから将来を考えるヒントにも繋がりました。
- ・私は現役大学生や留学経験のある方に直接お話を聞く機会がなかったため、とても貴重な時間になりました。「自分が学びたいと思うことを学ぶのが1番大事」と言われたのが心に残っています。

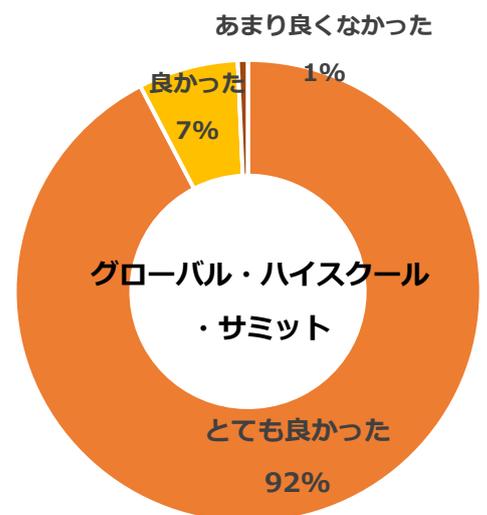


(17) グローバル・ハイスクール・サミット

とても良かった	92%
良かった	7%
普通	0%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・最初は意見を伝えることが怖かったですが、議論を繰り返すうちにクラスの前でも発言できるようになりました。自分はどの役割が一番いいのか、議論の進め方や考え方、そして様々な感情など多くのものを得ることができました。
- ・学校や普段の生活で、世界のこと、日本のことなど、問題視すべき問題に目を向けられていなかった自分に未熟さを感じました。人間としても成長でき、私たちが今後解決していかなければならない問題についても全力で考えるきっかけとなったので、心に刻まれました。



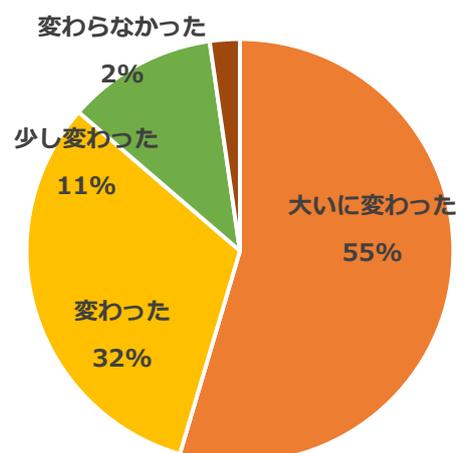
## ？ リーダー塾に参加して良かったこと

<p><b>仲間・友人ができた</b></p>	<p>全国から集まった仲間から「自分も新しいことに挑戦しよう」という勇気をもらいました。また、喜怒哀楽の様々な感情に忙しく、新しい世界がひらけたような、今までの人生にない経験ができました。話し合いで積極的になれなかったときの歯がゆさ、意見をうまくまとめられなかったときの後悔。また何のためにこの塾に来たかわからなくなってしまったときの苦しさや発表をやり切ったときの達成感や仲間の夢を聞いたときの感動。日常生活では味わうことができない、充実感と本気になる楽しさを与えてくれました。</p> <p>リーダー塾で日本全国の同世代と友達になることができ、また自分が今までいかに狭い考えで生活をしてきたか痛感しました。今までは、自分の周りにあるものや自分の調べたことのみを選択肢ばかりを見て決断してきました。しかし、リーダー塾に来て、今まで生きてきた都道府県や地域などの環境が全く違う人たちと出会い、様々な発音の日本語に触れながら話を聞いたり、話し合ったりすることで価値観が大きく広がりました。このようなことはリーダー塾に来なければ経験できなかったのが本当にいい機会でした。</p> <p>参加してよかったことは沢山ありますが、一番に思い浮かんできたのは仲間と出会えたことです。この12日間で特に、クラスの仲間とは一緒に笑い合っていて泣いて、悔しがって、たくさんの思いを共有しました。私にとって、こんな短期間でこんなにも信頼し合える、最高の仲間と呼ぶことができる人達と出会うことができたのは初めてで、こんなにも濃い日々を過ごしたのも初めてです。ここにしかないものがたくさんあると思います。</p>
<p><b>世界観・価値観が広がった</b></p>	<p>リーダー塾に参加して良かったなと思ったことは、様々な考え方をしたリーダーシップのある人と関わったことです。学校では、リーダー素質がある人よりない人のほうが多く、意見を出す場面でも数人の意見で決まってしまうことがありました。だから、10代で、意見を持って話せる人たちと議論できたことはなかなかない経験をしたなと思います。また、各分野で活躍されている方のお話も聞いて心に刺さるものもあり、自分の人生の糧に出来たらなと思いました。</p> <p>リーダー塾に参加して、講師の方々の中でも異なるリーダー像で分かれていてどの方も魅力的でとても勉強になりました。クラスメイトとの議論でも様々な意見が出てきて、みんなの意見に刺激を受けました。また、人としても成長できました。事務局の方が本気で指導してくれたおかげで、生活面に対する意識が明らかに変わり、今までの形だけの責任感ではなく本当に背負うべき責任感に気づくことができました。本当にありがとうございます。そして、私もこれから自分なりにできることをして努力し続ければ絶対にいいリーダーになれるという自信を持ってました。</p> <p>リーダー塾に参加してよかったことは、自分の頭だけを使い、自分の力を発揮できたことです。携帯電話やインターネットが普及した現代では、何か疑問が生じたとき、すぐに検索して答えを得ることができるため、便利さに頼りすぎてしまいがちです。しかし、自分の力で考えることの重要性は、これらの便利なツールが提供できない深い学びや思考力の発展につながる点にあります。何をすべきかを考え、疑問に思ったらとりあえず書いてみるということを何度も行いました。意見を出して仲間と協力して本気で取り組むということがすごく良い経験だなと感じました。</p>

<p>成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた</p>	<p>今まで人前で意見を言うことがなかった私が、話し合いにきちんと参加出来ました。また、自分が将来どうなりたいのかという理想像を、このリーダー塾を通してより明確にすることができたと思います。そして、私が今回このリーダー塾に参加した理由の一つ、「リーダーに必要な素質について学びたい」という目標も達成できました。強くて優しい、臨機応変に対応できるリーダーになる、これをまずは部活で発揮したいです。</p> <p>リーダー塾に参加してよかったことは主に2つあります。1つ目は挫折を経験できたことです。特にグローバル・ハイスクール・サミットの初めは自分が何も発言しなくても次々と話し合いが進んでいき、自分が気づいた点を指摘しようと思った時にはすでに誰かが指摘しているという現実から自分の存在意義が分からなくなりました。これは今までに味わったことの無い感覚でした。2つ目は悔しいと思えたことです。学年が上がるにつれて、しないといけないことが増え、諦めることも日常となってしまった自分にとって、全力でグローバル・ハイスクール・サミットに取り組み、結果負けてしまってとても悔しく思うという経験は貴重かつ忘れてはいけないものだと思います。</p> <p>自分の目指すリーダー像を見つけることができた、青春できた、最高のライバルを見つけることができた、議論の仕方を学べた、発表の大切さ、人への伝え方を学べた、本気で議論して夜も寝られないほど本気で考えた。言い出したらキリがないほど出てきますが、大きくまとめると成長できたし、これからの成長につながるタネを成長以上に持ち帰ってきたなと思います。タネを全部育てるには高い向上心が必要ですが、リーダー塾で出会った同じ志を持つライバルと繋がっている所以他们に負けないように頑張ろうと思えます。</p>
<p>自分と向き合えたり、自信が持てるようになった</p>	<p>リーダー塾に参加してよかったことはたくさんありますが、一番は自分と向き合うことができたこととなり将来像が明確になったことです。何度も挫けそうになったけれど、尊敬できる仲間や大人との出会いやそのかっこいい背中と優しさのおかげで乗り越えられたし、自分はなんのためにここで頑張ると決めたのかを何度も自問自答して何度も起き上がって全力でぶつかる強さも手に入れることができたと思います。さらにたくさんの貴重な講義を聞いて国内や世界で起きている問題にも触れることができ、将来は多様性社会の実現に関与できる教師になりたいと思うようになりました。</p>

## ❓ リーダー塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	55%
変わった	32%
少し変わった	11%
変わらなかった	2%



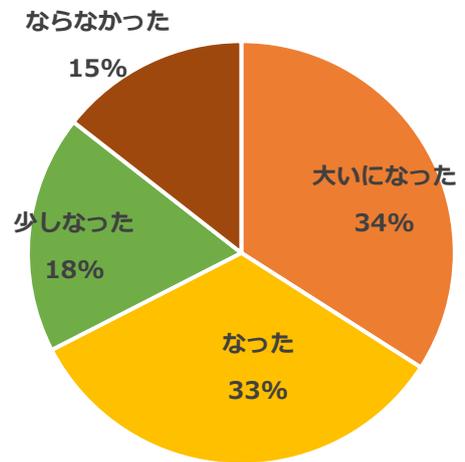
## ■主な内容

<p><b>視野が広がった社会・世界に興味を持った</b></p>	<p>自分をより客観的に見るができるようになりました。また、以前よりも他人とのコミュニケーションを積極的にとるようになりました。</p> <p>リーダー塾で24名の講師の方のお話を聞いて、知らないことが多すぎることに気づきました。そのため、リーダー塾が終わってから毎朝ニュース番組を見るようにしています。そうすることで、自分の興味の持っていなかった話題についても自然と入ってくるので、視野が広がり、自分の興味の持つ分野が増えました。</p> <p>リーダー塾に参加する前は、やりたいことや興味があっても挑戦できていなかったり、今までやったことがあることばかりを見てしまっていました。ですが、リーダー塾参加後は、塾期間内で受けた講義やクラスでの活動等で、今まで自分からあまり関わりを持つとしていなかった地域創生や、ボランティア等についての興味・関心を持つことができました。</p> <p>様々な視点から物事を考えることができるようになり、難民や児童労働といった世界問題にも関心をもてるようになりました。</p> <p>新しいことに挑戦することのハードルが低くなったように感じています。実現性や具体性、オリジナリティなどの視点で物事を考えるようになりました。</p> <p>全てのことを興味がないで切り捨てるのではなく一旦自分の中で咀嚼してみるようになりました。</p>
<p><b>自信がいった・周りの目を気にしなくなった</b></p>	<p>参加する前は、新しいことに挑戦することが怖くて、現状に満足したふりをしていましたが、思い立ったらまずは行動してみることに、失敗しても、そこから学んでまた前を向いて進むことの繰り返しが大切だと学びました。</p> <p>何事もまずはやってみる精神が身につくようになり、自分に自信を持てるようになりました。</p> <p>普段周りの目を気にして、授業中に発言したり、発表することが苦手でしたが、堂々と発表できるようになりました。また、色んなことに興味をもち、経験しようと学校の海外研修にも行くことを決めたり、学校の講義の進行役に立候補したりしました。</p> <p>さらに変わったことは全国各地にところどころ切磋琢磨できる友人ができたことです。夢を持っている仲間が全国に出来たことは私の活力になりました。それだけでなくたくさんの講義やキャリア教育で日本だけでなく国際的な視点をもって将来日本と外国を繋ぐ架け橋になりたいと思えるようになりました。</p> <p>参加する前までは、人と話す時に相手にどう思われるかを気にし過ぎていましたが、参加してからは、緊張せずに人と話せるようになりました。また、自分の興味のある分野のイベントなどを自分で調べて、参加するようになりました。</p>
<p><b>将来の夢、リーダー像</b></p>	<p>イベントや行事で自主的にリーダーに立候補したり、みんなのことを考えられるような広い考えを持てるようになりました。</p> <p>参加前は偏差値の高い大学に入学して有名企業に就職するのがベストだと漠然と考えていましたが、自分がしたいことを追求する面白さを知ったので良い意味でたくさん寄り道をしたいと思うようになりました。</p>

今までリーダー役をする上で 1 番大事なのはみんなの意見を引き出すことでどうやって意見を引き出すかという事ばかりを考えていました。ですが、リーダー塾で自分のアイデアを、人を惹きつけながらワクワク伝えられる人に出会いました。大事なことは人から引き出すという受け身な姿勢だけではなくて、自分のやりたいことをパッションを持ってどう人に伝えることかという事だとわかりました。

**？ リーダー塾参加後、  
やりたいことが明確になりましたか？**

大いになった	34%
なった	33%
少しなった	18%
ならなかった	15%



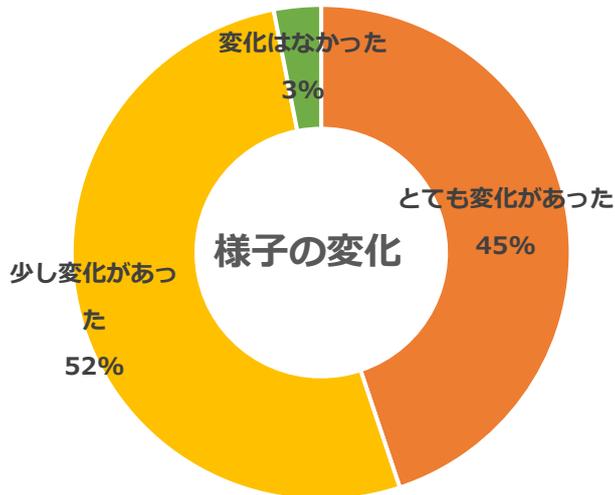
**■主な内容**

講師の空野先生のお話を聞いて、東南アジアで NGO 職員になるという夢が明確になりました。
世界の国々、特に発展途上国の都市環境を整える都市計画や、将来的には地元の活性化につながるようなまちづくりもしてみたいです。
心理学を学んで、心に傷を抱えている人や悩みを持っている人を助けたいという夢ができました。
国境なき医師団の看護師になるという夢がより明確になりました。また、医療系の NPO 団体を設立したいという新たな夢も誕生しました。
海外で働けるようになりたいと明確に思いました。自分の好きなものを信じて、海外で通用できるようになりたいです。
何か困っている人の力になりたいと以前から思っていたのですが、国境なき医師団の一員になるという夢ができました。
プログラマーになって、世界中の人が楽しめるものを作りたいと思いました。
裁判官になって司法という立場から日本の秩序を守っていききたいです。
建築士になって、海外支援を行っている会社に就きたいと思うようになりました。
世界の教育問題の解決に取り組んで、国や人種などの垣根を超えてすべての人がお互いに助け合えるような社会を作りたいと思うようになりました。
助産師として貧困に苦しんでいる子供たちやその家族を助けたいです。
外国と関わる仕事についたり、第三言語を取得したりして、国際社会に貢献できる人になりたいです。
弱っている人に元気を与えられる薬剤師になりたいと思いました。
講師の方々のお話を聞き、自分の力で地元を活性化させたい！と強く思いました。

## 資料② 保護者・学校アンケート調査結果

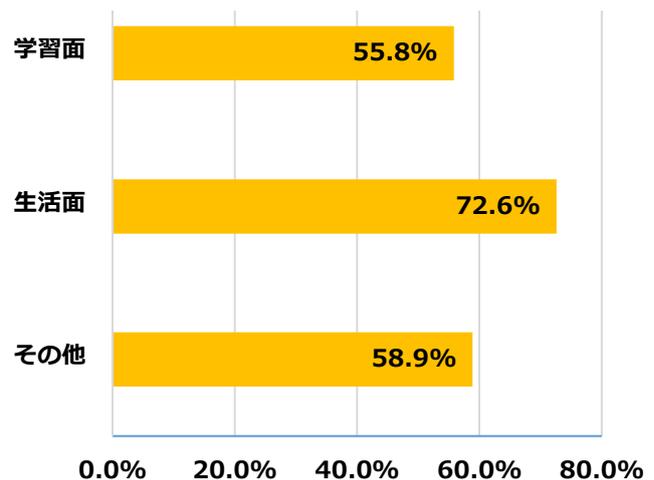
卒塾してから約3ヶ月後、150名の21期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。保護者は100名から（66,6%）、学校の担任教員は95名から（63,3%）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

❓ 塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



❓ 「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか？（複数選択可）

※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と回答した人数で割った



### ■主な理由

学習面	考え方が変わり、視野が確実に広がった。一人で裁判所に傍聴に行ったり、新たに宇宙にも興味を持ち始めたりした。
	学習面では特に「英語」に熱心に取り組む様になった。また、志望進学校を首都圏の私大に変更して、「更なる高みを目指したい」と目を輝かせて話していた。
	本人は、英語には自信があったようだが、周りのレベルの高さに圧倒され、もっと頑張らないといけないと感じたようで、さらに頑張るようになったと思う。
	今何が必要なのか、1年生の時にもっとできたはずと去年とは別人のように学習時間も増え、どんどん先生との関わりが増えた。
生活面	リーダー塾での経験から、日々の生活での時間管理がうまくなり、自己管理の意識が高まった。生活リズムも整い、より規則的な生活を送れるようになったと思う。
	まず帰宅後、「参加させてくれてありがとう」と涙ながらにお礼を言われたことに驚いた。12日間とても大変な思いをし、悩み涙したと聞いた。これほどの壁にぶつかったことがなかったため、対応するのに大変だったようだが、乗り越えたことに自信がついたように感じた。
	これまでは、何かを頼むと例えば嫌な顔をしたり、忙しくなると不貞腐れたりしていたが、帰ってきてからは、「はい！」と気持ちよい返事をしてくれ、生活も自律的になり、心持がまっすぐで気持ちの良いものになったと夫婦で感心した。
	今までは、長期休みには家で引きこもりゲーム三昧だったが、自らいろいろなイベントや活動に参加しようと意欲的に探し、取り組むようになった。
	生徒会活動や、地域ボランティアなどに積極的に取り組もうとしている。
	自分とは違う観点から見られる子供達を目の当たりにして、より柔軟に時間の使い方などを考えるようになったと思う。
少人数の学校に通っているなので、視野が狭くなりがちだったが、リーダー塾で尊敬する仲間と会えてコミュニケーション力が高くなったと思う。	

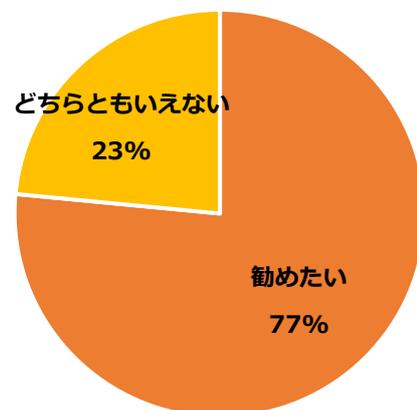
その他	将来の夢をずっと助産師と言っていたため、少し心配していたが、一つに決めなくても良いと言うようになった。交友関係が広がり、意見を求める幅が広く深くなった。
	限界まで頑張ることの大変さ、そして気持ち良さを体感したようだった。中学受験で疲弊し、その後3年間無気力状態だったが、そこから完全に抜け出し、彼女の良い面が生き返った、そのように感じている。
	将来の仕事などを悩んでいたが、年上の先輩が多かったようで沢山お話を聞いて良かった。また、憧れるような素敵な先輩達に会えて本人もあんなふうになりたいと思えたようだった。

## ■お子様の感想で印象に残ったこと

自由が少なくデジタルデバイスのない環境に辟易しているかと思ったが、参加して良かった、ほかの人にも参加を勧めたいと話していたこと。
「辛いこともたくさんあったけれど、成長できた。とても良い経験になった」と話していた姿を見て、深く感心した。立ち足る壁を自分の力で乗り越え、その中で学びと成長を得たのだと感じ、非常に頼もしく思った。
帰宅後ずっとリーダー塾の様子を話していた。世の中には色々なことに興味を持って積極的に動いている人がたくさんいて、そのことを体感することができて、楽しくて仕方なかったようだった。「来年も行けるなら参加したい」「大学生になったら、何らかの形でリーダー塾に携わりたい」と今も話している。
全国の高校生との出会いが特に刺激的だったようだった。異なるバックグラウンドの同世代と寝食を共にし、共に時間の限界まで学び、競った時間は格別な体験となったようだ。帰宅後しばらくは、リー塾ロスになっていて、「リーダー塾に戻りたい」「たった一度しか参加できないなんて、福岡に引っ越したい(笑)」とかなり恋しがっていた。今もその時頑張った記憶を頼りに学業も生徒会活動も全力で頑張っている。
参加した事がある兄と普段は会話なかったりするが、リーダー塾が終わって帰って来てからの2人の思い出話がすごく弾んでいた。2人共良い経験をさせてもらったのだなぁとすごく嬉しかった。
いろいろな講師の方の自分にささった言葉をたくさんメモしていて、聞かせてもらった。

## ? 彼の保護者または高校生に 参加を勧めたいと思えますか？

勧めたい	77%
どちらともいえない	23%
勧めたくない	0%



## ■主な理由

デジタルデトックスができる、同世代の初対面の多人数で過ごす経験は貴重、著名人の講演を集中して聴くことのできる機会は他にない、など多くの利点があるため。
本人が『人生が変わった!』と喜んでいるため。
まず、スマホ、インターネットから長期間離れられる方に勧めたいと思った。仲間と集中して向き合える、素晴らしい講師の方々の講話を聞くことができる貴重な経験ができると思うから。学校では経験できないことばかりなので、高校生活の素敵な思い出になると思う。
学校外でのつながりも増えるし、以前より自立して帰ってきたように思えます。私の家はこんなに長い期間離れたことがなかったので、親もしても少し子離れできた気がします。このような理由でおすすめしたいです。

高校生という、社会に出る前の特別な時期に、全世界から集まる仲間と一緒に、生涯を通して重要となる経験が出来る、他にはないプログラムだから。

携帯が禁止であり、片時も携帯を離さなかった子が、携帯がなくても他に楽しい事が沢山あると感じ取ったから。

正直なところ、本人がこれほど影響を受けるとは思ってなかった。本人曰く、提案力や企画力は他の仲間に及ばないが、仲間が出した案に足りないところや改善点を指摘するのに自分は向いていると気づいたとのこと。そんな自分の一面に気づかせてくれる経験はなかなかできないと思う。

全国から集まる同世代達と共同生活を行いながら、一流の講師の方々の講義を受けることができ、良い刺激を与えてくれる貴重な体験だと思うから。

社会で活躍している一流の講師の方々の話を聞き、世界が広がったと思った。また、グローバル・ハイスクール・サミットでチームメンバーと試行錯誤できたことやクラスの担任、学生リーダーからの叱咤激励など他ではできない、貴重な体験をさせていただいたから。

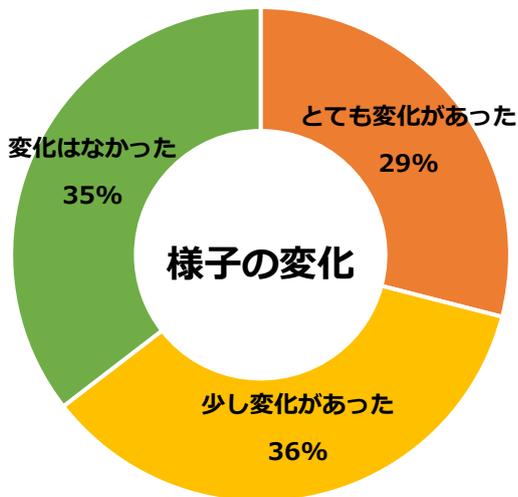
リーダー塾は、普段の学校生活では得られない貴重な経験や学びの場を提供してくれると感じた。各業界の第一線で活躍されている方々のお話を直接聞くことで、視野が広がり、将来について考えるきっかけになると思う。また、他の高校生たちと交流することで、多様な価値観や考え方に触れられるのも大きな魅力である。進路選択や自己成長を考えるうえで、非常に有意義な機会だと感じた。

12日間の団体行動と携帯が使えないという事を親子がどの様に考えるか。費用の負担もあるので、誰にも進めることは出来ないと思います。

地方の狭い中だけで生活していますので、全国から人が集まるのは魅力です。更に、前向きな優秀な人達なので、とても良い環境だと思います。ただ、人によって合う、合わないがあると思います。

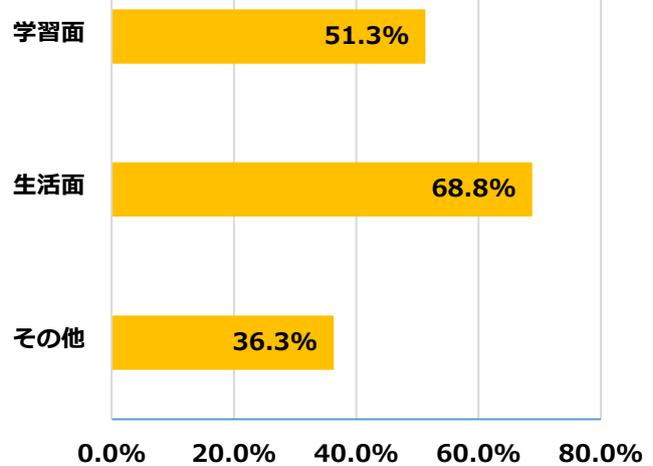
# 学校の担任教員へのアンケート

？ 塾参加前と参加後で生徒の様子に変化がありましたか？



？ 「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか（複数回答可）

※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と



## ■主な内容

学習面	学習に対する意欲の向上に加え、授業でのプレゼンの際、聴衆を意識した発表ができるようになった。得意不得意にかかわらず、よりいっそう意欲的かつ興味深くに学習に臨むようになった。
	目標大学の設定が明確になり、しっかりと学習時間が増えていると思う。
	授業内容で疑問に思ったことなどを積極的に質問するようになった。
	リーダー塾を通して出会ったメンバーとの交流によって、より希望進路が明確化し、学習への取り組みも、これまで以上に前向きになった。
生活面	様々な取り組みに自分から積極的に参加、もしくは意欲的に参加するようになった。
	学級活動でのリーダーシップがより発揮されるようになった。社会の情勢など、学外のことにも興味を示すようになった。
	学校行事にも率先して関わり、リーダーとなり他の生徒を自然とサポートすることができた。すみずみまで見渡したり、先を考えて行動したりと「視野の広さ」を身につけた印象がある。これまでは、どちらかという周りに気を遣い、自分の意見があっても、それが周囲と異なると思わず飲み込んでいた。参加後は「自分の考えを出しても良いんだ！」と意見を出すことの意義や重要性に気付いたと話しており、実際の行動にも表れている。
	周囲への配慮レベルが格段に上がって、自分の意見を言うべき時には言えるようになってきた。
その他	精神的に余裕が生まれたように感じた。中学1年次から関わっているのですが、周囲のことを気にしすぎてしまうところがあった生徒だった。リーダー塾を通じて、多くの講師の方々や全国の同世代の仲間との関わりが大変刺激があったようで、周りと協働する姿勢は以前から身に付いていた生徒ですが、様々な人（価値観）をこれまで以上に受け入れることができるようになったと感じている。
	生徒会副会長に立候補して当選したり、貴塾での体験をまとめてスピーチ大会に出て優勝したりするなど、さまざまなことにチャレンジして活躍している。
	大学でどの分野を学ぶかについて長い間迷っていたが、貴塾に参加したことをきっかけに、自らが本当にしたいことの端書を見つけたようである。そこからは学習に励む一方で、その分野を専門とする教員にアプローチをして、将来に向けて生き生きと活動している。
	参加前はなんとなく経済学部を志望していたが、参加中の活動を通して法曹に興味を持つようになり、法学部志望に変わった。

## ■生徒の感想で印象に残ったこと

周りのレベルの高さに圧倒されそうになったが、何とか食らいついていったと言っていた。

各分野の第一線で活躍された方々の講演を聴けた喜びや、参加した他校の生徒たちとかけがえのない絆を得られた感動を涙交じりで話してくれたこと。

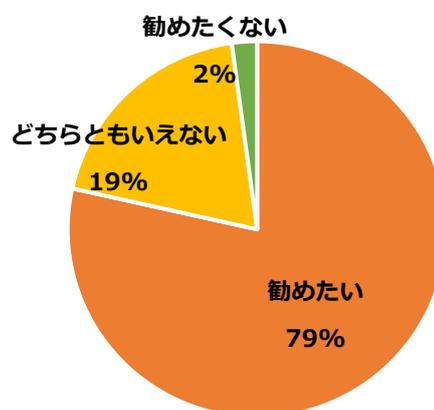
初めは不安で行きたくなくなってきたと言っていたが、行ってみるととても楽しかった、行ってよかったと話していた。特に、他の参加生徒のレベルの高さに圧倒され、自分も負けてられないと今まで以上に行動でき、とても成長できたということに感動した。狭い空間の中で生きてきた彼にとって、日本や世界で活躍しているリーダーの方の話聞くことで、外に出て困難にも挑戦することの重要性を学べたとても良い機会だったと思う。

スマホを使えない状態になってひたすらに自分自身と向き合った。涙を流すこともあったという話。リーダー的なポジションを任せてもらえたことも大変嬉しかったと言っていた。

自分は学校ではリーダーシップが発揮できていると思っていたが、日本には私よりもすごい人はたくさんいたし、自分のレベルの低さがわかった、と話していた。視野が広がったように思う。

## ？ 他の先生または高校生に思われますか？参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	79%
どちらともいえない	19%
勧めたくない	2%



## ■主な理由

彼だけでなく、参加した多くの生徒が大きな刺激を受けられるから。また、一つの学校だけではなかなか準備できないような貴重なプログラムを提供して下さるから。

日頃の学校生活では味わえない経験を経験することができ、かつ大きく成長することができる。

SNS、スマホ時代にデジタルデトックスをして、仲間と同じ課題に向けて話すという機会は非常に良い経験だと思う。参加した生徒が帰ってきた時の顔が輝いていたのがとても印象的で言葉では言い表せないほどの経験ができると感じたから。

リーダー塾の取り組みは、普通に（何となく）学校生活を送るだけでは絶対にできない経験だと思う。高い意識を持って学校生活を送っている生徒にとって、世界を牽引するリーダーたちや、そのようになりたい他の生徒との交流は、「価値がある」という言葉では言い尽くせないほど意義があると思う。したがって、志を高く持つ生徒にはぜひ勧めたい。

生徒自身にも良い影響があるだけでなく、学校を引っ張っていける存在が生まれることは学校全体にも良い影響があると思うから。

毎年参加する生徒が良い刺激を受けることができていると感じるから。この取り組みに興味を持つ生徒にとって、良い人脈が構築されていると思うから。

求められる基準が高い場所で活動することは、今の高校生にとってなかなか得られない経験だと思うから。

今回参加した生徒は、学内での成績はトップで、成功できるとある程度確信があるような、精神的安全が保障されていることにしか挑戦していないように思える生徒だった。しかし、この塾で挫折を経験したことで、周囲に頼りながら乗り越えることを学んだ。何かしらのリスクを負って挑戦をしてみる生徒は少ないので、ぜひ自分の狭い範囲での成功ではなく、学校外の世界にはもっと様々な人がいることを知ってほしい。

資料③ 塾生概要

**塾生総数 150名**  
18都道府県+4か国(アメリカ、オーストラリア、オーストリア、ドイツ)

○参画自治体推薦枠 120名

	都道府県	人数
1	北海道	7名
2	青森県	12名
3	岩手県	7名
4	静岡県	9名
5	岐阜県	8名
6	和歌山県	14名
7	福岡県	35名
8	佐賀県	23名
9	宗像市	3名
10	うるま市	2名
	<b>計</b>	<b>120名</b>

○一般公募枠 30名

	都道府県	人数
1	茨城県	1名
2	東京都	5名
3	神奈川県	1名
4	長野県	1名
5	愛知県	1名
6	和歌山県	1名
7	兵庫県	3名
8	愛媛県	6名
9	福岡県	4名
10	熊本県	2名
11	大分県	1名
12	海外	4名
	<b>計</b>	<b>30名</b>

## 資料④ 塾生高校一覧

18都道府県 4ヶ国(アメリカ、オーストラリア、オーストリア、ドイツ) 99校

学校所在地	学校名
北海道	北海道夕張高等学校
	私立函館遺愛女子高等学校
	私立北星学園女子中学高等学校
青森県	青森県立青森高等学校
	青森県立青森南高等学校
	青森県立田名部高等学校
	青森県立八戸北高等学校
	青森県立弘前中央高等学校
	私立青森明の星高等学校
	私立松風塾高等学校
	私立八戸工業大学第二高等学校
	私立八戸聖ウルスラ学院高等学校
	岩手県
岩手県立釜石高等学校	
岩手県立葛巻高等学校	
岩手県立福岡高等学校	
私立盛岡白百合学園高等学校	
茨城県	茨城県立古河中等教育学校
東京都	東京都私立恵泉女子学園高校
	東京都立白鷗高等学校
	私立雙葉高等学校
	私立学習院女子高等科
私立日本大学鶴ヶ丘高等学校	
神奈川県	私立山手学院高等学校
長野県	私立佐久長聖高等学校
岐阜県	岐阜県立大垣東高等学校
	岐阜県立加納高等学校
	岐阜県立岐阜各務野高等学校
	岐阜県立岐阜高等学校
	岐阜県立多治見北高等学校
	私立鶯谷高等学校
	私立城南高等学校
	私立帝京大学可児高等学校
	静岡県立清水東高等学校
	静岡県立浜松北高等学校
私立クラーク記念国際高等学校静岡キャンパス	
私立静岡学園高等学校	
私立静岡サレジオ高等学校	
私立静岡雙葉高等学校	
私立浜松日体高等学校	
愛知県	私立海陽中等教育学校
兵庫県	国立神戸大学附属中等教育学校
私立三田学園高等学校	
和歌山県	和歌山県立桐蔭高等学校
	私立開智高等学校
	私立近畿大学附属和歌山高等学校
	私立智辯学園和歌山高等学校
私立和歌山信愛高等学校	
愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校
	愛媛県立三崎高等学校
	愛媛県立松山西中等教育学校
	愛媛県立西条高等学校
愛媛県立南宇和高等学校	

学校所在地	学校名
福岡県	福岡県立ありあけ新世高等学校
	福岡県立輝翔館中等教育学校
	福岡県立戸畑高等学校
	福岡県立三池高等学校
	福岡県立山門高等学校
	福岡県立修猷館高等学校
	福岡県立春日高等学校
	福岡県立城南高等学校
	福岡県立早良高等学校
	福岡県立筑紫丘高等学校
	福岡県立筑紫中央高等学校
	福岡県立博多青松高等学校
	福岡県立八女高等学校
	福岡県立八幡高等学校
	福岡県立宗像高等学校
	私立九州国際大学付属高等学校
	私立西南学院高等学校
	私立筑紫女学園高等学校
	私立博多女子高等学校
	私立福岡女子商業高等学校
	私立福岡雙葉高等学校
	私立明光学園高等学校
	私立明治学園高等学校
	私立上智福岡高等学校
	私立東筑紫学園高等学校
	私立東福岡高等学校
	私立東海大学付属福岡高等学校
佐賀県	佐賀県立佐賀西高等学校
	佐賀県立佐賀北高等学校
	佐賀県立鹿島高等学校赤門学舎
	佐賀県立小城高等学校
	佐賀県立鳥栖高等学校
	佐賀県立唐津東高等学校
	佐賀県立白石高等学校
	佐賀県立武雄高等学校
	私立早稲田佐賀高等学校
	私立龍谷高等学校
熊本県	熊本県立熊本高等学校
熊本県立第一高等学校	
大分県	大分県立日田高等学校
沖縄県	沖縄県立具志川商業高等学校
沖縄県立普天間高等学校	
アメリカ	スクリップスランチハイスクール
オーストラリア	All Saints Anglican School
オーストリア	Schottengymnasium der Benediktiner in Wien
ドイツ	Humboldt-Gymnasium Düsseldorf

## 資料⑤ 社会人アドバイザー・学生リーダー及びスタッフ名簿

### ■社会人アドバイザー

担当	期間	氏名	所属名
1組	前半	郷 直哉	株式会社ミズ
	後半	田中 英明	株式会社パラドックス
2組	前半	菅野 雄太	株式会社 BS 朝日
	後半	濱崎 享	株式会社 QTnet
3組	前半	藤谷 拓也	日本の次世代リーダー養成塾 アドバイザー
	中間	恒見 建太	株式会社正興電機製作所
	後半	小野寺 大地	岩手県教育委員会事務局
4組	前半	稲永 佳大	株式会社ふくや
	後半	及川 皓太	INTLOOP 株式会社
5組	前半	高津原 直樹	麻生塾 人事グループ
	後半	右田 良隆	エコー電子工業株式会社
6組	前半	森 隆剛	株式会社 GOAL-B
	後半	五嶋 達暁	株式会社 ともしびマルシェ
統括	前半	上野 志保	福岡県 春日市役所
	前半	永松 資紹	株式会社 西部技研
	後半	神山 勝司	株式会社 九州電力
	後半	左座 大樹	株式会社 ふくや
	後半	内山 朋臣	株式会社 九州電力
	後半	田中 颯	長瀬産業株式会社
	後半	出川 優香	長瀬産業株式会社

### ■学生リーダー

クラス	担当	氏名	大学名
総括	総括	柿原 千尋	北九州市立大学 地域創生学群 地域創生学類 (16期)
		シェザード樽塚 紗奈	中央大学 総合政策学部 国際政策文化学科 (18期)
		福澤 伶奈	上智大学 総合グローバル学部 (18期)
1組	クラス	水谷 優斗	滋賀大学 データサイエンス学部 (16期)
	全体統括	井戸本 和花	明治大学 理工学部 物理学科 (非卒塾生)
2組	クラス	齋藤 陽	慶應義塾大学 法学部 政治学科 (14期)
	全体統括	久保 琴音	叡啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部 (18期)
3組	クラス	中西 彩心	Sussex University International Development (14期)
	全体統括	村松 由梨	慶應義塾大学 経済学部経済学科 (非卒塾生)
4組	クラス	山本 エマ	静岡大学 グローバル共創科学部 (16期)
	全体統括	前 冬磨	明治大学 政治経済学部 地域行政学科 (16期)
5組	クラス	人見 玲奈	早稲田大学 社会科学部 (16期)
	全体統括	後藤 雅尚	Denison University Politics and Public Affairs (18期)
6組	クラス	廣瀬 穂岳	東京大学 法学部 第Ⅰ類 (16期)
	全体統括	森田 虹海	上智大学 法学部 法律学科 (18期)

参 画 自 治 体	大森 美香	北海道 保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課次世代成育支援係係長
	石井 孝佳	北海道 保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課次世代成育支援係主事
	瀧本 里菜	北海道 保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課次世代成育支援係主事
	奈良 文生	青森県 交通・地域社会部地域交通・連携課人づくりグループ主幹
	岩淵 拓史	岩手県 教育委員会事務局教育企画室主任指導主事
	臼井 ありす	静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課主事
	河合 宏昭	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主任
	坂本 修一	和歌山県 教育庁教育総務局総務課政策管理班政策推進員
	野中 恵子	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課長
	龍 慎一	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画監
	紙谷 彰一	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課育成第一係長
	荒木 美鈴	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主任主事
	梯 裕星	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主任主事
	堀岡 真也	佐賀県 地域交流部副部長兼さが創生推進課長
	江口 里司	佐賀県 地域交流部さが創生推進課副課長
	池末 友和	佐賀県 地域交流部さが創生推進課係長
	宮崎 咲江	佐賀県 地域交流部さが創生推進課主査
	中村 博二	宗像市 教育部部長
	南 宏和	宗像市 教育部教育政策課地域教育連携室長
	占部 真珠アイリーン	宗像市 教育部教育政策課地域教育連携室グローバル人材育成係長
	金子 聡志	宗像市 教育部教育政策課地域教育連携室グローバル人材育成係主任主事
	伊禮門 由紀子	うるま市 経済産業部産業政策課企業立地係長
	伊禮 寛	うるま市 経済産業部産業政策課企業立地係主事
上地 楓	うるま市 経済産業部産業政策課企業立地係主事	
グ ロ ー バ ル ア リ ー ナ	百崎 順二	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役社長
	近藤 勇	株式会社グローバルアリーナ 取締役相談役
	宗政 茜	株式会社グローバルアリーナ
	ゲトフ ステファン	株式会社グローバルアリーナ
	田崎 克也	株式会社グローバルアリーナ
	井上 祐樹	株式会社グローバルアリーナ
	今村 美紀子	株式会社グローバルアリーナ
事 務 局	加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	齊藤 美恵子	日本の次世代リーダー養成塾 職員
	船山 貫	日本の次世代リーダー養成塾 職員
	濱田 颯太	日本の次世代リーダー養成塾 職員
	大家 美希	日本の次世代リーダー養成塾 アドバイザー
	藤谷 拓也	日本の次世代リーダー養成塾 アドバイザー・看護師
医 療 関 係	右山 綾子	看護師
	上善 裕子	看護師（前半）
	吉田 宏美	看護師（後半）

## ご協賛・ご助成・ご協力いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(敬称略、五十音順)

### ■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生  
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ  
株式会社インスパイア  
株式会社 NKB  
公益財団法人 オリックス宮内財団  
九州電力株式会社  
九州旅客鉄道株式会社  
株式会社 QTnet  
株式会社九電工  
西部ガスグループ  
株式会社サニックス  
株式会社翔葉  
住友化学株式会社  
株式会社正興電機製作所  
株式会社全教研  
第一交通産業株式会社  
滝久雄ビジネス研究所  
株式会社テノ. ホールディングス  
株式会社戸上電機製作所  
株式会社トクスイコーポレーション  
長瀬産業株式会社  
株式会社西日本シティ銀行  
西日本鉄道株式会社  
株式会社日本政策投資銀行  
美巢 (エムスタイルジャパン株式会社)  
株式会社福岡銀行  
株式会社福住  
フンドーキン醤油株式会社  
株式会社ミズ  
三井松島ホールディングス株式会社  
三菱商事株式会社  
株式会社安川電機  
株式会社ロボカル

### ■ご助成いただいた皆様

公益財団法人福岡県市町村振興協会

### ■ご協力いただいた皆様

I N・C O M株式会社  
株式会社グローバルアリーナ  
北九州市環境ミュージアム  
公益財団法人 AFS 日本協会  
SAGA アリーナ  
佐賀県波戸岬少年自然の家  
佐賀県立名護屋城博物館  
JR 九州バス株式会社  
株式会社ふくや  
水野旅館  
宗像大社  
安川電機ロボット村



Japan Future Leaders School

# 日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号  
tel 03-5466-0804 fax 03-5466-0842 mail info@leaderjuku.jp  
<https://leaderjuku.jp/>

